

説新

八十日間世界一周

川島忠之助

新説
八十日間世界一周（前編）

新說八日間世界一周

明治十一年六月刊行

第壹回

ル
千八百七十二年中ニ龍勃トラン公園傍サ
ヴヒルロ一街第七番ニ於テ千八百十一年中シエ
リダンガ物故セシ家ニ同府改進倅ノ社員ニテ自
身ハ勉メテ行狀ノ人ノ目ニ立タヌ様注意シア
リシモ何時トナク奇僧家ノ名聞禪キケルニア
イリス、フヲツグ氏ト稱スル一紳士ゾ住ヒケ
彼ノ大英國ノ光榮トモ云フベキ辯家ノ跡ヘ
引續キ來リシフヲツグ氏ハ沈毅自重曾テ其履

(新 索 材 历)

履ヲ知ル者アルナシ其動作ノ優美ナルハ眞ニ是
レ英吉利^{ヨーロッパ}社會ノ花トモフベキ紳士ナリ
人皆テ氏ヲ評シテビロンニ似タリト云唯其異ナ
ル處ハビロニニシテ美術アルト千歳ヲ經ルモ老
衰スベカラザル神色自若タルアルノミ氏ハ必
ズ英國ノ市民タルハ疑フ容レズト云庄憶フニ
恐クハ運動ノ人タラザリシナラン如何トナレバ
人ノ未ダ嘗テ氏が證券公賣社、銀行及ビ其他ノ
商社へ出入セルヲ見シ者ナク又運動河溝ノ裏
ヘフヨツグノ貨フ載テ來リシ船舶ノアルヲ聞カ
ズ然シテ氏ハ職ヲ官ノ衙門ニ奉ゼ又ノ姓名
ガ代言學校ノ内ニ饗キシノカケレバ訟庭ニ出
テ輸贏^{ハシメ}法官ノ前ニ爭ヒシヲ聞カズ氏ハ工
たらズ南^{アラス}タラズ大英國^{アングリヤ}大工學校、
龍^{ラウ}大學校^{カレッジ}、工人學校^{テクニカル}、西邦文學學校、法^ラ學校^ス、
或ハ彼ノ大英國女皇ガ親ク保焉シ玉^{エボ}工術學
校等ノ社員ニ歴セズ又英國首府中充^シ滿チタ
ル萬種ノ社會數多キ其中ニモ蟲害避除研究
社^{アカデミー}迄尋ルニ猶氏ガ其社員タリシオ^ト
ラバ果シテ何ニタリシャト問ヘバ氏ハ改進舍中

ノ一社員タルニ過ギズ人若シテノ如キ身性、眞味
ノ紳士ニシテ此ノ堂々タル社中へ列席ルヲ怪
シマバ氏ハベーリング兄弟社中へ若干干ノ預金
ヲ託シアルヲ以テ其振り出しシノ手形ハ何時タリ
毛頭ノ障礙ナク該商會ニ於テ泊チニ正五金
ト交換シ得ルヲ以テ自ラ人ノ憑信ヲ執り且其
簡介ニ因テ入セシ件ヲ以テ疑フ解クベシ
此ヲツグ氏ノ富タル哉固ヨリ疑フ容レズ
然レ此其如何シテ富ヲ積シヤノ問ニ至テハ氏ノ
身ニ關シテ最も探索ヲ遂げシト云者ダモ答
ル能ハザル所ニ又之ヲ知ラント欲スルモ氏ニ
就テ之ヲ探知スベキニ非ズ死ニ角氏ハ貨財ヲ濫
散セズ又其吝嗇タラザルハ公衆ニ利スルノ業仁
懶ノ舉ノ如キ善事ヲ成サント欲シ財資乏キヲ
告ル者アレバ輒チ氏ハ資ヲ投ジテ陰ニ賄給致
スルヲ以テ之ヲ見ルベシ

シ者ノ如シ時トシテ社中ニ於テ雖々然繫説百
出范乎トシテ踪跡沒シ其死生ヲ知ル者ナギ遊歷
家等ノ終リヲ論ズル者アルモ氏「タビロヲ欣ヒ
其所見ヲ簡説スレバ樂論立」口ニ定マリ氏ノ測
度豫言スル所後日ノ實況ト違フハ未だ曾會
コレアラズ蓋シ氏ハ治ク天下ヲ經歷セル者タル
ノ道上ニアラズシテ氏ニ遭ヒシト云者アルヲ聞
ヤ明矣乃公實地天下ヲ造訪セザルモ猶御然レヒフツ
グハ龍圖ア離レザル「茲ニ年アリシト相識最
久キ者ト雖モ未ダ改進舍ヨリ同氏ノ居宅ニ至ル
ノ袋裏ニ入リシ「ナク氏ハ皆是ラ仁恵ノ資ニ充
タ蓋シ其資額小ナラズ之ニ因テ之ヲ見レバ氏ノ
奕スル贏ノ爲ニ博スルニ非ラズシテ單ニ邀遊ヲ
索ムル者タルキ實ニ明ナリ蓋ハ是氏ノ爲ニハ
難事ニ克ソノ爭角ニシテ身體ヲ動カサズ四肢ヲ
勞セズシテ其果ヲ得ルヲ以テ甚ダ己レノ質ニ適
合セリトヌ

街人居宅ニ獨居スル正キニ至テハ頗る奇恵トス
曾サ仙人ノ其家へ出入セシナキヲ以テ其内部ノ模様ノ如キ更ニ是知ル者ナシシ氏ハ午餐夕食秋毫モ常時アラズ改進舍裏ノ絶好ノ一室ナル同一卓子ニ對シテ飲食シ又更ニ他客ヲ邀セズ該社中員士ノ需フ俟ツ未ダ嘗テ完美ノ室ニ睡シアラズ十二時ヲ以テ必ズ自家ノ居宅へ歸ルハ唯寢ニ就クガ爲ナリ是故ニ氏ニ秦使スルハ一僕ニシテ足ル二十四時ノメ氏ノ家ニ在ルヤ十時間ニシテ之ヲ就眠盥梳ノ時ニ充ツ氏ガ立テ徘徊スルニ當テハ必ズ室内ノ一室ナル花紋ノ氈上ニ於テ然ラザレバ必圓塔ノ下ナル環ラスニ赤璇石ノ彫柱殷然タルヲ以テシ闇室ノ中ニ於テアシ且其歩ヲ均ニス氏が食スルニ當テアシは社内ノ精肉鮮魚甘美ノ乳酪等ヲ纏無比ノ布ヲ以テ覆ヒシ卓子ノ上ヘ氏ノ爲ニ備舉ゲテ其最モ美キ者ヲ擇テ庖宰旨タク之ヲ調理シ烏黒ノ禮服ヲ着端然タル翁仕人ガ拂西裝ノせしシ葡萄酒等ヲ以テ又其美酒ヲ冷スニハ彼ノ米國地方ヨリ莫大ノ費ヲ厭ハズ取寄セ社員ノ需ニ供ル冰塊ヲ以テス氏ノ如クニシテ生ヲ營ム者ヲ日シテ奇僻家トセ

バ奇僧モ亦取ルベキ所ナキニ非ラズ
サウヒロ口街ノ居宅ハ甚宏麗ナルニ非レ
近頃起居ノ便ナレバ又愛スベシ殊ニ主人ノ
行狀終始均一ナルヲ以テ之ニ使役セラル、者
ノ職掌亦簡易ナリ然レバソノラツクノ事也
人ノ僕ニ就テ需ムル所ハ非常ニ嚴格ニシテ釐然
ノ時間タリニ違フヲ容サズ既ニ今十月二日
ノ如キフツツグ氏ハ其儀ジームス、フロスタ
ニ續テ其代リトナルベキ者ガ十一時ヨリ十一時
ルガ洗髪ノ定度八十六度ナルベキヲテ八
十四度ナル者ヲ持チ來リシヲ咎テ之ヲ備備シ更
急忙兵士ガ閱閑式ニ列スル時ト一般ナリ體ヲ
半ノ間ニ來リテ氏ニ詔スベキ筈ナルヲ以テ之ヲ
待ツ氏ハ端然トシテ櫛三凭り兩足ヲ捕ヘシ狀
態悟モ兵士ガ閱閑式ニ列スル時ト一般ナリ體ヲ
直ニシテ頭ヲ擧ケ兩手ヲ膝頭ヘ置テ辰辰表ノ鍼
待ツ氏ハ日頃ノ慣行ニ據レバ十一時半ノ鐘
ノ進ムヲ見テ居リケル(氏ノ用ル時計ハ八年
ノ時計也)ノ時ヲ考セテ居リシ便室ノ扉ノ叩
日、曜、時、分、秒ヲ示ス所ノ繁縝ノ器械ナリ)
フツツグハ日頃ノ慣行ニ據レバ十一時半ノ鐘
テ彼ノ放供ノ僕フツタル入來リ主事ニ一人ノ
三十歳バカリナル壯漢ヲ引キ合セ云ヘラク是
リキ時フツツグノ待チ居リシ便室ノ扉ノ叩
レソ下郎ノ代リトナルベキ新參ノ僕ニテ候
ヲラツグ新僕ニ向ヒ「汝ハ佛人ニシテジョント

「ジントコソ稱シ候也。ジヤンバスバルツー
トハ某萬事ニ精闢シテ如何ナル事ぞ。貫徹ス
ルト云性質ナルフも、以テ人ノ某ヲ目セ紳名ノ
其儘ニ種々ノ職業ヲ試み候也。唱呼ガマシクモ誠實也。特漢
タル」ハ某自ラ信ズル所ニハ候へド貴人ニ對
シ毫モ伏藏スル所ナク告ゲマキラセニハ某
既ニ種々ノ職業ヲ試み候也。尤ツ門閥ケノ唱
歌師トナリ續テ輕技師トナリシ時ナドハ轉ス
ル「ハレタールニ讀ラズ一條ノ架空上ニ於テ舞
躍スル「ハフローダンニ」下ダラザリシモ後才體
操術ノ教師トナリ又長技ヲ公衆ノ利用ニ供セ
ント欲シテ終ニ巴里ニ於テ消防の方ノ伍長トナリ
茲ニ五年然ルニ昨今手明キトナリ居際フア
今猶某ノ佩アル所ノ履歷書中ニハ甚大ノ火災
ニ臨ミシ功績モ記載コレアリ然レド一閨門中ノ
穩生ヲ味ント欲シテ英國ニ來リテ家僕タル
イリス、フランツ君コソ當大英國ニ於テ最モ嚴
格ナル貴人ニシテ更ニ轉移セザルノ紳ナリト
茲ニ陳ベ立ツレバ紳士ハ聞キテ、スバルツ
傳承欽ノ餘り今日推參シテ貴人ノ面謁ヲ仰
ギ願クハ貴人ニ仕フルヲ得テ某ガバスバルツ
ノ名スラ忘却スルニ至ラント冀望候也ト
具サニ陳ベ立ツレバ紳士ハ聞キテ、スバルツ
ハ予ノ索ムル處ニ適シ殊ニ汝ノ一身ニ付テハ

予既ニ良報ヲ得タリ然シテ沙子カ驚ムル所
ヲ熟知セシ哉 然熟知シテ候主可シ今ハ
汝ノ時計ニテ何時ナル哉ト問ニ應ジバスバルツ
ヒハ衣ノ袂ヨリ巨大ノ銀時計ヲ取り出シ「十一
時二十二分ニテ候ト云ヘバ主人又云ク「汝ノ
時計ハ遅レタリ 僕失敬ナガラ違フ筈ハ決シテ
コレナク候 主人汝ノ時計ハ後ル、「四分ナ
リ去レバ互ニ差ヲ記憶シ置カハ障碍ナカリナ
ン仍テ今千八百七十二年十月二日水曜午前
十一時二十九分ヨリシテ汝ハ予ノ使倖スル所
タリト云ヒ置キテフツグハ立テ帽ヲ右手ニ持
彼ノ自動ノ木偶ト一般ナル動作ニテ其帽ヲ頭
上ニ戴キ又他ノ一語ヲ交ヘズシテ出いで去リケル
バヌバルツ一頃テ門戸ヲ開閉スル響き聞ク
爾次是レ則チ先づ主人ノ立出デシト次ニ舊僕
フヲスタイルガ爰ヲ辭シテ去ルナリ斯クテ終ニサ
ザウ貴婦ノ許ナル彼ノ蠟製ノ偶像ニ於テ僅ニサ
ザヒルローハ街ノ家ニ留リシハバスバルツ一人
トナリタリケリ

第二回

パスパルツーガ　主人は應接セシハ　瞬間ナレド
蚤クモ　其谷貌ヲ　熟察セシニ年齢四十強ナルベ
ク容閑雅ニシテ　且隆偉ニ　身材長大ニシテ婢ニ
婷タリ毛髮繁昌ニ　薄栗色ニシテ眼光澄明額
上未ダ一痕ノ皺波ヲ　瀧ラサズ色稍ヤ蒼素ク蘭
牙露顎タリ　其風姿ハ彼ノ相學者ノ如スル體劇中
ニ餘裕ヲ有スル者ニ屬ス可シ事ニ臨テ神色自
若喜怒色ニ顯サズ剩冗ノ動作少シテ事務
爰ニ舉ル氏ハ真ニ是レ純然タル英人ニシテ嘗
テ畫工カウフマンガ妙技ヲ振テ寫シ出ゼシ
肖像ニ於テ見ル所ノ體格ナリ其五體四肢妙ニ適
應考シ恰モル　ロイ或ハイレンショ一精製クロノ
メートルニ似タリ果ノ氏ハ活機關ト均シク動
作頗ル整々其四肢ニ彭ハル、狀ニ就テ之ヲ見
レバ先づ捷徑ヲ取ルヲ以テ未ダ嘗テ一跨ト雖ニ
リシガ如シ

アルヲ見シ「ナシ氏ハ忽々トテ急ク「ナシト
雖ニ既終ニ徐々トシテ遅レセシ「ナシ氏ハ他人
ト交ルノ際自ラ時々濫消スルヲ免レザルヲ厭
フヲ以テカ獨り獨行世塵ヲ離レテ逸然タリバス
バルツノ綱名アルジヤンノ如キハ是レ純然
タル巴里兒ニシテ嘗テ英國へ來寓シ龍勤ニ於テ
家僕ノ職ヲ執ル五年其間意ノ良主モ索メ
テ未ダ之ヲ得バスバルツ一ハフロントンマス
カリル等ノ徒ノ如キ肩骨突出シ獅鼻空ヲ仰ギ眼
中微纏ナク姿傲然タル癡漢ニアラズ是レ風采
自ら愛スベキ好壯漢ニシテ脣ハ微厚常ニ佳
品ヲ味ヒ且ツ人ニ逢ウテ微笑スルヲ待ツ者ニ似
タリ閑闥ナル顎ノ上二見ヲ朋友ノ肩上二見ヲ
ブベキ風ノアニシテ其質柔順且ツ人ニ遇スル
頗爾勤ム然シテ其眸瞳ハ深碧ニ顔色常ニ蛇顏
ノ如ク肥太能クじかノ頬頭ヲ見ルヲ得胸廣
ク身材強筋骨剛勁ニシテ弱冠ノ頃ヨリ百
鍊シタルヲ以テ力能ク千鈞ノ鼎ヲ舉グベシ其
手髪ハ淡黒ニシテ硬勁ナリ昔曾テミネルブ希
ニテ彼等ノ妻女ノ像ヲ刻ム者ハ彫形十八種ノ異様
アリト今バスバルツノ如キハ一柳ヲ執テ兩
三回髪ヲ撫スレバ棕色安ニ整ヒ又他ノ形様
ヲ附スベキナシフツグ氏ノ沈毅ニ對スルニ彼
ノ意氣活潑タル壯漢ノ性質ヲ以テシテ互ニ適

ハサヴィルロ一街ノ家ニ殘リケレバ先づ穴藏ヨリ天井上ノ穀倉迄逐一點検スルニ到ル處總テ清潔ニシテ虛飾ナク整頓百事宜ヲ得ルヲ以テ大ニレノ意ニ適セリ然シテ彼レノ所見ニテハ此家ノ構造少シク蝸牛ノ殻ニ類スル様思ハレタリ尤モ是レ貝殻ニシテ内部ヲ照スニガスヲ引用シ之ヲ煖ムニモ亦同ク瓦斯ヲ用瓦斯ヲ引用シ之ヲ煖ムニモ亦同ク瓦斯ヲ用フル所タリ三階ニ到リテ已レニ供屋部屋ヲ見ルニ電氣ニ仍テ鳴ル呼ビ鈴及ビ壁壁管トノアルアツテ樓上ノ諸室ト通ジ殊ニ煖爐ノ上ニ掛ケシ時辰表ハ主人ヲツグ氏ノ寢室ニアルノ掲書アリ近ヅイテ熟ニ之ヲ祝ルニヒ日々行者ト電氣ニテ又相通ジ兩器均シク同秒時ヲ示スアルヲ見満足ニタヘズ良室ナリ良室ナリト嘆賞シナガラ見ルニ時辰表ノ下ニ何ヤラン一篇ノ掲書アリ近ヅイテ熟ニ之ヲ祝ルニヒ日々行事書ニシテ其概略ニモ正八時ヲツグ氏ガ床ヲ出ルヨリ十一時半改進舍へ行カントテ家ノ山ル迄ノ勤務ハ先づ八時二十三分ニ名肉及ビ茶ノ供シ九時三十七分ニ洗髪湯ヲ進メ九時四十分ノ設ケアリケレババスバルツーハ喜ビテ此行髮ヲ梳ル等猶數條ノ傍日アツテ又十一時半ヨリ夜半寝ニ就ク時迄モ萬事細ニ豫定シテ其規律事記ノ細目ヲ忘レシトヨリ詣記シタリケバ又其人ノ衣裳戸棚ヲ辟キテ見ルニ是又整へ手トシ

テ順序ヲ正シ上衣、袴、胴服等モ一々番号ヲ附
シ是ニ基テ各衣出入ノ日及着用季日等ヲ
一冊ノ簿へ記シ抄索ニ便ニス靴ヲ整頓スルモ亦
是レニ均シ此サウヒルロ一街居宅ハ昔時彼ノ高
名ナリシモ又行跡磊落タリシシエリタンガ住
ヒシ項ハ不規則ノ溫嚴タリシモ今ハ家中ノ飾
付等百事整頓シ自ラ富當ノ兆ヲ表セリフツ
グ氏ハ彼ノ改進舍ノ兩文庫申ハ文學ノ圖書ヲ
藏メ乙ハ法律及ビ政事ニ關スルノ書籍ヲ藏スル
アツチ是ニ就テ意ノ欲スル處ナル書ヲ讀ミ得ル
ヲ以テ又家ニ書棚ヲ設ケズ寢室ニ只一箇ノ安全
金庫ノアルアリ其堅牢火災及ビ竊盜ノ難ヲ防
ニシテ他出ヲ好マズ眞ニ是レ一箇ノ活機關ナ
リ此ノ如キ主人ニ仕フルハ素ヨリ吾ガ歎セザル
所ナリト縁シテゾ獨語シタリキ

フツツグハ十一時半ニサウヒルロ一街ノ家ヲ立

第參回

出デショヨリ右足ヲ五百七十五回左足ノ前へ進
メ左足ヲ四五百七十六回右足ノ前へ出ダシ終
ニ改進舍ヘゾ藉ニケル抑モ該舍ハボーリモール
ノ境内へ建設ケシ宏壯ノ大慶シテ六十萬圓
ノ費用ヲ要セシナリフツグハ直ニ食堂へ入
リ設ケノ卓子ニ就キニケル其堂ハ瀟洒タル閑庭
ニ臨ミ闊木秋霜ニ染テ黃色其九牖ニ映ズノ
午餐ニ供スル所ハ尤ヅ牡蠣、鯛、乾酪、油漬
魚肉等ノ如ク濟泊品兩三種ニシテ次ニ鮮魚ヲ湯
煮シテ之ニ最上ノ懸汁ヲ加ヘタル美穀又次ニ
牛炙ノ紅ナルニ香蕈ヲ添ヘテ調理セシ者ヲ薦
メ之ニ次ニ大黃葷並ビ山茱萸ヲ加ヘテ精シタ
ムノアルケ後十二時四十七分ニ卓ヲ起テ公衆ノ
会堂ニ入ル其造營美麗ヲ極メ特ニ四壁ニ掲ル
彼ノ改進舍用ノ爲特ニ精擅シタル名茶一兩椀
ヲ傾ケテ後十二時四十七分ニ卓ヲ起テ公衆ノ
会堂ニ入ル其造營美麗ヲ極メ特ニ四壁ニ掲ル
ノ各港へ派遣シ乗船上陸ノ際シク搜索スル
ヒヨリ夫ハ到底銀行ノ捐金モノナルベシト云ヘ
彼ノ騙途一件ハト問と掛けバスチユアート横合
ノ中ナレバ販ノ逃竄頗ル難カルベケレバ不日其
トハ怪ミテ何ト云ハル、ノ銀行紙幣ニテ五
千磅(貳万五千圓)ノ大金ヲ盜ミシ奴ヲ

「否ナ賊ニハアラズシユリパン傍ヨリ」夫ハ職
持チ來テ氏ニ捧げ氏之ヲ取テ繙キ讀三時四十
分ニ至ル又スタンダードヲ閱シタ
儀クタイムス新紙ノ未だ載ラザルマ、ナルヲ
捕獲セラレント必セリスチャアート然ラバ其
ノ各港へ派遣シ乗船上陸ノ際シク搜索スル
ノ中ナレバ販ノ逃竄頗ル難カルベケレバ不日其
トハ怪ミテ何ト云ハル、ノ銀行紙幣ニテ五
千磅(貳万五千圓)ノ大金ヲ盜ミシ奴ヲ

人ニテ候ヤト間ヘバ「否ナ」モーニング、クロ
ニーケルニハ卑シカラザレ紳士ナリトコソ掲
ゲアリト答へツ、來會ノ諸客ニ一禮セシハ是レ
別人ナラズ積ミ盤ネタル新聞紙其二頭モ埋レ
テ見エザリシフヲツグナリケレバ各之ニ答禮
シタリケリ

抑モ當時大英國中各社ノ新報ニ喫々トシテ説ク
所ノ竊盜ハ三日以前ノ事ニシテ即九月二十九
日英國特立銀行會計長ノ机頭に置キシ五萬五
千磅ノ巨額ヲ一束ネニセシ紙幣ノ紛失シタリシ
件ナリケリ斯ク巨額ノ金圓が左シモ容易ニ偷マ
ル、トハ奇怪ナリト危疑スル人々へ對シ唯彼ノ
銀行副長ラルフハ答ルニ「其時丁度折悪ク三シ
リング六ペニス（八拾七錢五厘）ノ入金帳簿
ヘ記載スル折ナリケレバ流石ノ會計方モ八方
眼ヲ閉ル能ハザリシヨル判ジタリ

一體此英國銀行ハ衆庶ノ毀譽ヲ重ンズル「深ク
シテ更ニ番卒ヲ置カズ格子ノ類ヲ設ケズ金銀楮
幣ノ類展テ机上ニアル」殆んど誰ニテモ入來ル
者ノ心ニヨリ偷モントセバ事容易ニ行ハルベク
ゾ見エニケル元是レ衆庶ノ廉潔ヲ狐疑セヌ主意
ニ出ツダニ英國風習ノ一端ヲ示スガ爲其一例ヲ
學ゲンニ或人一日銀行ニ行イテ一室ニ待チ居リ
シニ會計方ノ机上ニ七八斤モアルベシト思ヘ

ル純金ノ一塊アルヲ見テ珍ラシナソ餉リ手ニ
取リテ之ヲ眺メ又傍ノ人ニ渡シテ見セケルガ
金塊ハ手ヨリ手ニ渡リテ終ニ薄暗キ廊下ノ隅レ
渡リ行キ漸ク元ノ机上へ復セシハ稍ミ半時
間程モ過ギシ頃ナリケレド會計方ハ更ニ意ヲ
留メズ頭サヘモ擦ゲザリケリト云然レヨ九月
二十九日ハ不幸ニシテ紙幣ハ元ノ位置へ復リ
來ラズ爲換振出所ノ壁ニ掛ケタル自鳴鐘ガ五時
則チ閉鎖ノ時ヲ報知扣益出納等ヲ點検スルニ至
リ漸ク五萬五千磅ノ不足ヲ發見シ是故に始テ竊盜ニ遭ヒシヲ悟リ老練ノ警察吏數名ヲ抜擢シテリワ
賞金貳千磅(壹萬圓)ト其上ニ取り復シタル金
額ノ多寡は漸ジ其百分ノ五ヲ附與ス可キアリ
ス(埃及)ブリンヂ(伊太利)紐育(ホーリー)諸港へ派
遣シ之ニ命ジ即刻吟味ニハ挂リタレル略ニ心當
リノ附クマダ先づ取リ敢ヘズ發着ノ旅人ヲ嚴密
ニ监视スベキヲ以テセリ

シ尙シラフ見受ケタル者アリシニヨソツテ漸々吟味
ヲ遂ゲ正シク其紳士ノ人相書ヲ寫シ取り本邦ハ
勿論自他ノ警察官ヘモ直ニ是レヲ報送ンタレ
バ賊ハ必ズ逆スマジト信スル者多キシテ既ニ
ラルフ如キモ其儻ナリキ當時該件ハ龍勦ハ勿論
大英全國一般ノ流行話トナリ本邦ヨリ派遣警吏
ノ志ヲ遂ケルヤ否ヤヲ説ク「喫タリサレバ
改進舍ニ於テモ素ヨリ該件ニ關スル論ノ起
ハ怪ムニ足ラズ況シヤ現在該銀行ノ副長ガ
座ノ内ニ列スルニ於テヲヤラルフハ彼ノ賞金
ノ約アル「ナレバ大智賢吏ノ精神ヲ鼓舞シ必
ズ搜索ノ功績アルベシト確信シアリタレド同僚
スチユアートノ如キハ更ニ是ト所見同ウセズ
故ニ議論各紳士ノ間ニ止マザリシガ各骨牌ノ
戯ヲ始メンツチユアートハフランガント相對
シフヲレンチンハフヲグド而シテ座ニ就キテ
各勝負ヲ争フ共ニ默然タリト雖ニ一戯局
ヲ了リ牌ヲ揃ヘ之ヲ頒ツノ間ハ間断ノ議論再び
起ソテ又嘗々然タリ此時スチユアートハ屈セズ
「賊モ素ヨリ老功ノ奴ナルベケレバ利運ハ彼ノ
方ニアレト聞テラルフハ「コハ何事ゾ何處ヘ行
ク氏最早遅延シ得ベキ地ハコレナキニスチユア
ト「奇異ノ事ヲ云ハル、哉ラルフ「サリトテ那
處へ走ルト思ヒ玉ノゾスチユ夫ハ僕モ知ラザ

レド鬼ニ角争地獄ハ廣キ物ナリト云ヘバフヲグ
ト云ヒツ、牌子ヲフランガノへ差シ出シテ「今度ハ君ノ切リ玉フ順ナリト」ヲ渡せバ爰ニ至テ
勝負ノ間議論中斷シタリシガ終ルニ及ンデス
チユアートハ再び其縛ヲ整ギ「昔シハ廣カリシ
ケレドト云ヒ玉フハソモ何故ゾ若シヤ地球ノ層
ガ縮リデモセシ「ナル哉」フル「素ヨリナリ儀僕
ハフヲツグ君ノ説ニ同ズ百年已前ノ事ヲ回想
スレバ今日ハ十分ノ口に數多キもテ地球ヲ一周ス
ベシ故ニ地球ハ縮ミシト云フモ附會ノ言ニ非
ズ殊ニ今回ノ如キ機會ニ際シテハ搜索ヲシテ
頗ル迅速ナラシムベシスチニ「故れ凡賊ノ逃避
モ亦同ジク容易ニナリタルナリ」此時フヲツグハ
傍ヨリ「此度ハ君ノ番ナリト心附ケケルニゾ
スチエアートハ猶モ心服ヘズ勝負了リケレバ
父ムカ「眞ニラル」フ君が云ハル、所ノ今ハ三ヶ
月間ニ地球ハ一周セラル故短縮シタリトハ中々
新奇ノ説ナリト云ハザルヲ得ズ「唯ニ八
十日間アリ出デズシテ能ク一周スペシ」此時シユリ
ベン傍ニアツテ「印度大半島鐵道モロタール
ヨリアラハハンド迄ノ綱路開業セシカラハ眞ニ
八十日間ニ周回スベキガ如シ爰ニ『モーニング
クロニーカル』ガ掲載セシ豫算ニヨレバ

スエズヨリボンベイ迄船ニテ	十三日	カルカツタヨリ香港迄船ニテ	十三日	スエズヨリボンベイ迄船ニテ	十三日
ボンベイヨリカルカツタ迄鐵道ニテ	七日	香港ヨリ横濱迄郵船ニテ	六日	ボンベイヨリカルカツタ迄鐵道ニテ	七日
横濱ヨリ米國桑港迄郵船ニテ	廿二日	桑港ヨリ紅育迄鐵道ニテ	七日	横濱ヨリ米國桑港迄郵船ニテ	廿二日
紅育ヨリ龍動迄郵船並鐵道ニテ	九日	香港ヨリ横濱迄郵船ニテ	六日	紅育ヨリ龍動迄郵船並鐵道ニテ	九日
スチュアートハ是ヲ聞クヨリ我レヲ忘レテ親牌ニテ	八日	スチュアートハ是ヲ聞クヨリ我レヲ忘レテ親牌ニテ	八日	スチュアートハ是ヲ聞クヨリ我レヲ忘レテ親牌ニテ	八日
子マデ切込ミナガラ一然リ八十日間ニ周回スル	八日	子マデ切込ミナガラ一然リ八十日間ニ周回スル	八日	子マデ切込ミナガラ一然リ八十日間ニ周回スル	八日
智ナルベケレド暴風、逆風破船、汽車ノ駆除等	九日	智ナルベケレド暴風、逆風破船、汽車ノ駆除等	九日	智ナルベケレド暴風、逆風破船、汽車ノ駆除等	九日
ナキノ保證ヲ如何セント云ヘバフヲツグハ勝	九日	ナキノ保證ヲ如何セント云ヘバフヲツグハ勝	九日	ナキノ保證ヲ如何セント云ヘバフヲツグハ勝	九日
負ナカバモ更ニ意トセズ一皆其内ニ込メテ豫算	九日	負ナカバモ更ニ意トセズ一皆其内ニ込メテ豫算	九日	負ナカバモ更ニ意トセズ一皆其内ニ込メテ豫算	九日
セルナリスチニ「然ラバ萬一印土或ハ米國地方	九日	セルナリスチニ「然ラバ萬一印土或ハ米國地方	九日	セルナリスチニ「然ラバ萬一印土或ハ米國地方	九日
ノ士人等轍線ヲ破壊シ列車ヲ抑留シ荷物ヲ奪	九日	ノ士人等轍線ヲ破壊シ列車ヲ抑留シ荷物ヲ奪	九日	ノ士人等轍線ヲ破壊シ列車ヲ抑留シ荷物ヲ奪	九日
掠シ旅人ノ皮膚ヲ剥グ等ノ難アリ庄猶能ク周	九日	掠シ旅人ノ皮膚ヲ剥グ等ノ難アリ庄猶能ク周	九日	掠シ旅人ノ皮膚ヲ剥グ等ノ難アリ庄猶能ク周	九日
回スベシト云ヒ張り玉ヲカト云ヘバフヲツグハ	九日	回スベシト云ヒ張り玉ヲカト云ヘバフヲツグハ	九日	回スベシト云ヒ張り玉ヲカト云ヘバフヲツグハ	九日
手ニ殘リシ貳枚ノ役牌ヲ投ゲツ、「素ヨリ何モ	九日	手ニ殘リシ貳枚ノ役牌ヲ投ゲツ、「素ヨリ何モ	九日	手ニ殘リシ貳枚ノ役牌ヲ投ゲツ、「素ヨリ何モ	九日
角モ寵メテ算セシナリ此時スチュアートハ配	九日	角モ寵メテ算セシナリ此時スチュアートハ配	九日	角モ寵メテ算セシナリ此時スチュアートハ配	九日

ノ順ニ當リケレバ落チ散リシ牌子ヲ拾ヒ落ゲツ
ツ云フヤウ「フヲツグ君ノ云ヒ玉ノ所ハ理論上
ニテ就ル筈ナルベケレド實地ニ當テハ成ラヌガ
常ナリト聞クヨリフヲツグハ「否ナ實機上ニテ
モ就ル事ナリ」スチユ「君ガ云ヒ張リ玉フ如クン
ベ君自ラ是ヲ實地ニ試験ミ玉フヲ見タクゾ思フ
ナリ」フヲツグ夫ハ最ト易シ君サヘ望ミ玉フナラ
イザ共ニ發足致スベシスチユ「僕ハさうか君ナキま
ニハ同意セネド君ノ主張シ玉フ周地ノ行旅ハ
到底河漢ヲ望ムノ狂騒ナリトシテ四千磅(貳
萬弗)ヲ投ジテ賭トスベシフヲツグ否ナ固ヨリ
出來ベキ事ナリスチユ「然ラバ君之ヲ實驗シ玉
ヘフヲツグ世界ラ八十日間ニ回レトナスチユ「然
ハ狂舉ノ極ナリ斯ル空論ハ休メニシテ牌子ヲ
リヲツグ」拙者毫モ辭スル所ニ非ズスチユ「何時
出来シ玉フゾフヲツグ只今直ニスチユアートハ
ヲツグノ執拗ノ功ナルニ鑿クマデ叫ア様「夫
ト云フ時スチユアートハ心中モルガ如ク身持
テ戲遊セント云ヘバフヲツグハ答ヘテ「然ラ
バ猶一度憚テ子ヲ捕へ玉へ頬ケ達ヘモアルナレバ
ト云フ時スチユアートハ心中モルガ如ク身持
テ手モ戦ギナガラ又俄ニ之ヲ机上へ置キ如何
ニフヲツグ君ヨ僕ハ愈々一千磅(廿石)當トスベシ
云ヘバフヲレンチンハ傍ヨリ之ヲ宥メスチユ
アート君先ツ心ヲ靜メ玉へ是ハ素ヨリ眞面目ノ

事ニヘアラジ スチ「否ナ僕ガ賭スルト云フ時
ハ決ノ戯言ニハ候ハズトイヲ打チ聞クフツ
グハ同僚ノ諸子ニ向ヒ「斯クナル上カラハ捕者
カ督ナヘーリング兄弟商會へ預け置キシ金貳
萬磅(拾萬圓)アリ之ヲ投ジテ賭ト致スベント
云ヘバシリバンハ驚キテ「貳萬磅トナ夫ハ不
慮ノ遅緩モ起リナバ終ニハ返ル可ラザル損トナ
ルモ不厭シテト云ハセモ敢ヘズフツグハ「思
ヒ掛ケナキト云フ「ハ無キ咎ナリト云フ打消シ
左レニ此八十日間ノ期日ナルモノハ唯最短ノ
時ヲ越テ第セシノミ フラツグ巧ニ用ヒナバ最
短最小小ハ萬事ニ充ルニ堪ヘタリシリ「然レド
期日ヲ超過セラ様致サンニハ實ニ鐵道ヨリ郵船
ヘ郵船ヨリ鐵道ヘ飛遷ラザルヲ得ズ フラツグ實
ニ拙者ハ飛ビ移ルベシ シヨリ「夫ハ座興ノ戯言
ナラン フラツグ否ナ否ナ良英人タル者ハ決シ
テ戯言ヲ叶カズ殊ニ況ニ賭ヲ結ブ如キ重事ヲ
ナスニ於テヲヤ捕者ハ誰ニテモ拙者ガ八十日間
則チ千九百貳拾時間乃チ拾壹萬五千二百
時間已内ニ地球ヲ一周ナシ得ズト云フ人を對シ
二萬磅ヲ賭スベシ如何ニ君等ハ競賭ヲ承ケ玉
フ歟ト陳ブレバスチユアート、フヲレンテン、
シユリバン、フランガン、ラルフノ諸子ハ聯合
シ異口同音ニ我々ハ之ヲ承クベシト云フヲ聞テ

フツグハ「可シドウブル行ノ汽車ハ八時四
十五分ノ發車ナレバ捕者はレニ乘テ發至致スベ
ト云ツ、フツグハ懷中暦ヲ取出シテ「今日
シスチユ「今宵直ニ發スルト云ヒ玉フ歟「固リ
ト云ツ、フツグハ懷中暦ヲ取出シテ「今日
は是レ十月二日水曜日ナレバ捕者は是非共十
二月二十一日土曜日午後八時四十五分ニ龍動
ヘ歸着シ當改進舍ノ此會堂へ出頭スベシ萬
時日ノ遲緩スル其時ハ現ヘイリング兄弟商會
会へ依託シ置候二萬磅ナル者ハ固リ各々所
有物ニ歸シ申スベシ因テ爰ニ該金額ノ手形ヲ留
ムト云ヒツ、直ニ一篇ノ誓約ヲ草シ締約ノ諸
子六名各ニ姓名ヲ筆記シ後證トナスニ當テ
モフツグハ神色自若タリ實ニ此賭ヲナスヤ
利ノ博セントスルニ非ズ故ニ己レノ財產ノ半ヲ
投ジテ其半ヲ携行キ此至難ノ企ヲダル資
ニ充テント欲スルガ故ナリ相手ノ諸子ハ皆胸
裏恵々タル如キ色アリ是レ賭額ノ多寡ニ關スル
ニ非ズ只今回ノ如キ異常賭ヲ結ブヲ自ラ責ル
狀アレバナリ

七時ノ鐘聲響キケレバ諸子肺子ヲ休メ發程ノ
準備ヲナス「ヲ勸ムルニゾ」フツグ答ケルニ
「捕者ハ常ニ準意アリ又玉心フ勞シ玉フナカ
レト云ヒツ、肺子ヲ配リテ一拙者ハ菱ヲ回シタ
リ今度ハスチユアート君ノ順番ナリ

ファイリス、フツグハ骨牌ノ戯ニ貳於弗程モ
打勝テ改進舍ノ賭員ニ別ヲ告ゲ七時二十五分ニ
茲ヲ立出ツ、七時五十分ニ我家ニゾ歸リケバ
ルニ斯ク時間ヲ違ヘテ歸宅スル主人ノ行狀コ
パスマルツーハ先程ヨリ日夕ノ行事ヲ詣記シ
テ考フルニ主人ノ歸宅ハ夜半正十二時ノ管ナ
リソニスル時分大抵僕ハ時間ノ違
怪シミシカニ至ニ返辭モセザレバ主人ハ差シテ
聲モイラダテズ再ビパスバルツート喚ビケレ
バ酒ニシテパスバルツー入リ來リケルフツ
テバスバルツー喚ビケレニ僕ハ時間ノ違
怪シミシカニ至ニ返辭モセザレバ主人ハ差シテ
ゾト僕ハ時計ヲ手ニ持チナガラ「未だ十二時
ニハナリ候ハズト對レバ主人ハ静ニ我汝ヲ
咎ムルニ非ズ又時ノ早キモ熟知スレド十分ノ
内ニドーブル、カレー、火鍋等ヲ差シテ發足ス
レバ其用意アリヨト
僕ハ正シク己ノ開誤リカト思ヘバ苦笑シテ佇立
シ偕云フ様「君ニハ何處へ力發程被成候哉
左レバトテ世外ノ一周ノ成ス心得ナリト聞テ
僕ハ驚愕無涯無底ノ圓クシ肩ヲ顰メ兩手ヲ垂レ

唯茫然トシテ世界一周トハト打駭クヨリ外ナカ
リケル
八十日間ニ一周スル事ナレバ瞬間モ冗費スベ
カラズト主ノ人言葉ニ僕ハ不思首モ左右へ打掉
リテ「旅荷物ノ度支モコレナキニ如何シ玉フゾ
ト云ヘバ主人ハ打チ消シテ「旅籠ヲ齋スハ無用
ナリ手携ノ袋毛織ノ襦袢武枚足袋三足ヲ装入
シ行バ足リナシ飲品ハ途ニテ購スベシ先づ予
が手提袋井ニ旅籠ヲ二階ヨリ持降リテ汝モ亦
底厚ノ靴ヲ用意スベシ尤モ旅中徒行ハ極稀レ
ニ或ハ全ク徒行スルハナキ程ナラン早ク旱
クト急キ立テラレバスバルツ一ハ答ントセシガ
言モ不出其儘主人ノ房ヲ出デテ己ノ室へ入りタ
ルマ、轉ロアガ如ク椅子オニ腰打掛け「嘻何等ノ
不幸ゾヤ休養ヲ要ル此際ニト獨言シテ打紛レ
在シガ斯テハ果テジト心ナラズモ出發ノ準備
ヲナシツ又思クガ八日間ニ世局ヲ一周スル
不幸ゾヤ休養ヲ要ル此際ニト獨言シテ打紛レ
ハト云ハ到底風狂ノ人ノ發意ナルカ但シハ我
ヲ嘲弄スルノ惡趣カハ知ラザレドーブルヘ行
モ可ナリカレ一トモ強テ心ニ違所ニ
非ラズ況ニヤ五年來故國ノ土ヲ踏マザルニ於テ
府ヲ再覽スルハ樂事ニアラズヤ氏ノ如キ平素自
重ノ紳士ナレバ此處ヲ踰エテ先キヘハ過行スベ

君ニ再會致スベシトテ袂ヲ分チ八時四十分ニ
僕ヲ從ヘテ客車ノ座ニ付キケレバ八時四十五分
ノ鐘聲ト共ニ一聲ノ鳴笛ヲ合圖ニ汽車運轉ヲ
始メ折シモ細雨霏々タシテ降リ下り一天晦
冥咫尺ヲ辨ゼズフヲグハ臂ヲ車房ノ一隅ニ凭
セ敢テ言葉モナキ折カラバスバルツ一ハ心緒如
醉如夢我ヲ忘テ彼ノ紙幣ノ囊ヲ保護シ在
シガ各車將ニサイデンハムヲ過ントスル頃如
何シテケン俄ニ失望惺懼ノ叫聲ヲ發シケレバ
フヲグハ怪ニ何事ゾ門ハレテ答モ斷續シ
餘り者卒ノ發足ニツイ遺忘ト聞テ主人ハ又
問返シ何ヲ忘レシタ再び問ハレテ溯クニ下
郎ノ部屋ナル瓦斯燈ヲ消滅ヘルヲ遺レ候ト云
ヒケレバフヲグハ靜ニ然ラバ其點燈ノ料ハ
汝ガ償フベキ所ナリトゾ申シ聞カセケル

第五回

英京ニ於テハ著名ノ「タイムス」「スタンダート」
「オーブニング、スタール」「モーニング、クロニ
ークル」等ヲ始メトシ二十有餘ノ新聞紙ハ舉テ
フヲグノ説ヲ擅スル中ニテ「デーリー、テレ
ガラフ」耳ハ稍ヤ氏ニ左似シテ其説ヲ保シタ
レド到底公衆ノ氏ヲ目スルヤ頑陋ノ狂人タル
ヲ以テスルノ外ナラズ且改進會ノ社員ヲ責ムル
ガラフノ精神ノ惑亂セルヲ貰ト假令氏ガ此堵
博ヲ促ストモ懇ニ是ヲ輕ムベキニ却テ是ト
争ントスルノ行アルヲ以テス該論ニ關シテ
ハ各卓然タル論說新誌上ニ著レケレバ元來
英人ハ地理學ヲ嗜ム風儀ナレバ苟モファイリ
ニ掛ケザリシナランガ博博ノ新聞ハ先づ改進會
中ニ如何ナル大影響ヲ抱カハ更ニ念頭
起サシムル「渥リナク納テ各新聞採訪家ハ是
ヲ聞クヨリモ各自ノ本社へ附ケ印刷局方へ傳
播スレバ顧テ龍勳府ハ勿論大英全國士民ノ知ル

所トナリニケル斯クテ此世界一周ノ一問題ハ衆
諸ノ討論スル「噴々喋々恰モ再ビ彼ノ米船ア
ラバマ」號ノ勝敗ヲ再ビ現出ナセシガ如シハ
偶マファイリス、フヲグニ左袒スル者アリト斯
雖庄役ノ當今固有前車ノ軸ヲ勧リ紙上ノ空論
ヲ憑ンデ最知ノ日子ヲ以テ世界一周セン拵ト
ハ嗚呼ノ狂説ナリト排斥スル黨ノ多キニ比ス
レバ實ニ寥々タリキ

英ル二十九年七月刊行ノ官立地理學社ノ雑誌
ク云ヒ張ル徒ハ「デーリー、テレガラフ」新誌ヲ
閱スル徒ニ多カリケガ漸次ニ該誌送モ亦大ニ
熱心ヲ冷シタル色アリケリ夫ハ如何ニト原由ヲ
尋ル二十九年七月刊行ノ官立地理學社ノ雑誌
中ニ一篇ノ論說アツテ詳ニ氏ノ企テン環地ノ業
ノ畢竟狂舉ニ屬スルヲ辨ジテ云ク「よのク此業
ヲ遂ゲンニハ先づ舟車ノ發着賄毛ノ差リナキ
ヲ要ス然ニ歐洲内ノ如キハ先づ定規ノ時間ニ
印土ヲ經過スルニ三日ヲ要シ米國ヲ横過スルニ
發着スルヲ得ベシト雖云其事例アリノ常路ノ上ニ
附テ算スルベ堪能力ナル其一端ニ過ギズ然シテ
衝突又タ大雪轍路ヲ遮ル等ノ不慮ノ險アラン
印土ヲ經過スルニ三日ヲ要シテ萬里ノ道程也
「モ保シ難シ況ニヤ冬暴風濃霧ヲ發着シテ萬里
ノ大洋ヲ駆航スル船舶ニ於テチャ凡ソ遠洋ヲ航
スル船舶ハ其器械善良精快ノ者ト雖比猶兩三
日ノ運綱アルハ當ナラズヤ故ニ發着ノ期能ク定
規ノ如クナルヲ得ベ肯シヤ之ニ因テ推究スレバ
一日ノ遅延ト雖庄絶ニフヲグシテ失敗又之

ヲ作ムルニ策ナカラシメン況ニ數時トハ五更猶
氏ヲシテ汽船ノ状鑑ニ近カラシメバ次第ノ出
船ヲ俟ツヨリ外ナカルベシ然ル件ハ如何ニ焦慮
スト碰て亦挽回ノ策ナキヤ明矣
此一章ヤ各新誌ノ翻寫スル所トナリ大三世上
ニ響フナシフアリス、フラングノ賭券ノ市價
俄ニ墮落シタリケル
英國ニ於テハ彼ノ博奕ヲ蔑視スル中等社會會已
上ノ衆諸ヘ素ヨリ賭ヲ嗜ムノ深懶ケレバ此程
フラングノ發程スルニ當リテヤ初兩三日ノ間
ニ於テハ其業ノ成否ヲ論ジテ巨額ノ賭キ結ブ者
不専特ニ改進舍ノ社員等ハ或ハフラングニ黨
シ或ハ是ヲ駁シテ各巨額ヲ投ジ賭トナス此風
靡然府下ノ士民ニ波及シフラングハ恰モ競馳
ノ駿馬タルノ體トナリ各其名ヲ機械紙ニ記ス
ルニ至ル然シテ其賭券ヲ龍騰市上ニ於テ豫メ
定價ヲ立テ或ハ印金ニハ限月ノ約ヲ以テ盛ニ
之ヲ賣買セシガ五日ノ後板ノ地理講究社ノ辨文
一篇世ニ著レシヨリ市價俄ニ降り唯速ニ之レ
ヲ賣フント數中スル者耳トナリ數券ヲ東ネテ五
分一割ヨリ二割五割ヲ減ジテガントシ終ニ
ハ與ルモ人之ヲ取る者ナキニ至ル矣
此間猶フラングニ黨スル者一人ニ過ギズ是
別人ナラズ則チ近來老衰殊ニ病疾ヲ患テ坐臥

僅ニ一様ニ寄生スルアルベルメール侯ナリ候ヤ
常ニ云ラク「廢疾ニ冒サレテ世界漫遊ノ志ヲ
果サルヲ憾ムト若シ果シテ志ヲ伸ルヲ得バ
十年ノ星霜ヲ費シ自家ノ財産ヲ傾クトモ遺憾
ナシト是ニ於テファイリス、フラングノ爲五千
磅(則二萬五千圓)ヲ投ジテ賭トス之ヲ見テ
侯ヲ諫諍スル者アレバ靜ニ之ニ對ルニ倘シ此
事業ノ成ルベキヲアラバ予ハ我英國人ノ先鞭ヲ
着クル者アルヲ見ンコト冀フト云フヲ以テセ
リ然レニフラング氏ノ黨八日ヲ逐テ減少シ偶々賭
ヲ試ル者モ七百五十ヨリ貳百ニ至ルノ比較ヲ用ルニ至リシ時勢圖ランヤ氏が發
程ノ日ヲ去ル七日ニシテ突然午後九時警視本
局ノ長官宛へ宛テ左ノ電報ノ着ニケレバ終ニ氏
ノ賭券ハ地ニ墜チ人復タ是ヲ顧ル者ナシ
第六回

此電報ノ力ヤ實ニ迅速ナル「電ノ名ニ背カズ頃
刻迄溫良ノ紳士タリト思ヒシモ今ハ可憎ノ盜
賊ト變ジタレバ曩ニ改進舍ニ殘シフラングノ
寫真ヲ出シテ熟察スルニ彼ノ賭ナリトテ尾雖
セシ男ノ容貌寸毫ノ違ヒナシ是ニ於テフラン
グノ營生ノ祕密ナル交際ノ涯レル發程ノ突然タ
ル等ニ就テ推想スレバ言ヲ彼ノ狂ニ屬スルノ
賭ヲ結ビ世界一周ノ旅ヲ試ムルニ託シ其實英國
警吏ノ密密脱却セント欲スル奸計ナルヤ顯然
ナリトコソ評シケリ矣

前回ニ掲ル電報ハ抑モ如何ナル機會ニ於テ
發セシヤノ由來ヲ尋ルニ十月九日水曜日午前
十一時ニ埃及エジプト港へ英國彼阿會社所屬船
「モンゴリヤ」號トテ噸數二千八百噸馬力五百
匹兼ネタル陸車鐵製ノ郵船到着ノ筈ナリキ該船
ハ意國ブリンドジ印土ボンベイノ兩港ノ間ヲ
スエズ溝ヲ經テ不^ト往返ラナシ其迅達ナル「ハ
社中ノ航船ノ中ニテモ最モ卓絶セル者ニテ定期
速力於海里ナレバ疾走是ヲ^ト常ナリキ該

港ハ近頃迄猶僻陋ノ村落ナリシモ彼ノレセツブ
ス氏ノ大工業ヲ^ト較リシヨリ諸國ノ民輒譏シ今
ハ繁昌ノ港トナリ昔時會テ工學博士

龍騰蘇格蘭ブレース
警視本局長ロワン君

ヒキス

フラングノ踵ニ尾行ス速ニ捕縛辭令書
ボンベイへ宛テ送致アリタシ
警吏

ハニガ英國國運隆盛ノ爲ニ杞憂ノ餘慨然トノエズ溝ノ過ギ暗ニ本邦ノ衰運ヲ促スニ至ル其源岸ニ群集スル諸人中ニ貳人ノ男ガ「モンゴリヤ」號ノ到着ヲ待テ徘徊スル者アリ則チ其本人ハ本港駕駕都英國ノ領事ニシテ又彼人ハ容貌魁梧瘦削シ顏色怜俐ト表シ長眉濃二生ジ眼光光明然アツテ一所ニ佇立シ能ハザル者ノ如ク或ハ往能ク人ノ射ルト雖云又能ク風華美豔ヲ呈スルキヨリハ回リテ漫歩セリ蓋シ是ハ英國警察本局ヲ知ル所ノ男子ニシテ此時何カ心ニ得ツ所ノ人物アツテ一所ニ佇立シ能ハザル者ノ如ク或ハ往キシテ漫歩セリ蓋シ是ハ英國警察本局ヨリ彼大英國特立銀行ニ於テ紙幣若干ヲ偷倫シ去リシ奸賊追捕ノ爲メ豫メ沿海ノ諸港へ派遣セラレシ逮捕吏ノ一人ニシテヒキストシヨリタルヤ密ニスエズ港經過ノ旅客ヲ視察シ苟クモ蹤跡疑シキ者ニ逢フ時ニ其踵ニアリ然シテヒキストシ許へ本國警察長ヨリ兩日前報知シ來レル所ニ據レハ其賊ハ容貌閑雅鄭シカラザルノ追尾シ捕令ヲ待テ之ヲ捕ルニアリ然シテヒキストシタルヲ或人曾テ銀行受付ケ室内ニ於テ見タル者アリキト首尾能此賊ノ逮捕ヲ遂ルニ於テハ多分ノ賞典ヲ占ル咎ナレバ警吏ハ益々領リ延べ是ヲツマダテ、モンゴリヤノ來ル間甚迎

シト待ツモ理リナリケンガ、ハヤ十度ビ前後モ
尋問セシ「ナレニ又更ニ領事ニ向ヒ「君ノ云
ヒ玉フ所ニテハ彼ノ郵船ハ延着ノ憂ナキトナ
領事否ナ心ナ勞シヒノ昨日ボルトサイドヲ
経過ノ由報知モアリ且ツ同所ヨリ本港迄ノ距離
百六十海里ハ彼ノ「モンゴリヤ」如キ快駆ニ於
テ有名ナル船ノ爲ニハ一足飛トモ申スベシ
規定ノ時數ニ踰ル「貳拾四時間已上ノ者ヘハ政
府一リ貳拾五磅(百二十拾五兩)ノ袋賞ヲ與ス
ヲ例トスルガ毎度該船ハ此賞金ヲ得ル程ナリ
レバサシテ遅刻アルマジト聞ケニフキスハ猶
モ穩ナラザル如ク「彼ノ郵船ハブリンヂジョ
リ直ニ來航致候ニ哉」領事貴言ノ如クブリン
ヂ港ニテ印土行ノ郵箱ヲ積ミ過ルと雖日午後
五時ニ該港ヲ開帆セシ由ナレバ、ヤガテ來着ニ
程モアルマジケレバ先づ心ヲ靜メ待チ玉ヘ左
ハ乍去萬一彼ノ賊ハ「モンゴリヤ」ニ乗込居トテ
モ君ノ所持ノ人相書ノ體ニテハ發見中々容易ナ
ルマジキカト捕者殆ド危ブムナリト云ハセモ
敢ヘズ更危アリ玉フナカレ領事君彼奴等ヲ
發見スルハ唯外貌ヲ見テ足ルニ非ズ殆ド先
づ駆ギ出ダスト一般ニシテ宜シク五官ノ智覺ヲ
活用セシメ始テ之ヲ發見スルニテ既ニ僕ノ
生涯ニハ彼ノ溫良ヲ粧フ僕紳士ヲ捕ハシト

ニシテ足ラズ故ニ今回ノ賊ノ如キモ船中ニ在ルニ於テハ決シテ僕ノ掌裏ハ脫シ申サスマジ領事一殊ニ今回ノ如キ大事ノ盜賊ニテアレバ何卒君ノ如キ玉フゴトク首尾能ク逮捕ニ就グヤウ企望サレ候也警吏ハ益々調子ニ乗リ貢ニ盛大ノ竊盜ト云フベシ當今ハ盗運大ニ衰ヘスチツハルトノ西流ハ跡ヲ絶チ僅ニシリング數片ヲ竊デ絞罪ニ遭フノ徒耳ナルニ五萬五磅(二十万五千圓)ヲ掠ムル盜ニ遭フトハ果シテ何等ノ好キ獲トモ申ベケレ領事君ノ説キ玉フ策略ヲ聞クカラニハ愈ニ君ノ功ニアシ玉シ玉シノヲ企テ祈ルト雖正恐クハ君ト雖ニ少シク難キ所ナキニ非ズカト被存其故如何ト云フニ君モ知リ玉フ如ク彼奴ノ容貌ハ眞ニ正實ノ君子ニ似タリト警吏聞テ色ヲ作シテ云ク君ニハ知リ玉ハズヤ大奸ハ却かニ賢ノ如シト實ニ是レ生來駭然タル容色アル徒ハテアランニ守ラザルヲ得ズ若シ此徒ニシテ然ラズバ忽チ警吏ノ捕フル所トナリスベシ故ニ彼ノ陽ニ誠直ヲ粗フ僕君子ノ假面ヲ剥ギ取ルコソ肝要ナリ尤此業ハ容易ノ事ニアラズシテ又藝術ノ一部ニ位此言ニ就キテモ此弊吏ヒキス已ノ職業ニ精勵シ又自フ其術ニ誇ル色アルヲ見ルベシ此業ハ容易追々各國ノ水夫、商賈、奪取、人足、土人ノ輩

あつまつた
來り馬頭大ニ鬱然タルハ是レ郵船ノ到着
將ニ近キニアラントスルナリ
此のひ日ヤ晴朗ノ時光淡々トシテ斜ニ兩ノ高塔ヲ照ヌ該
冷れし日光淡々トシテ斜ニ兩ノ高塔ヲ照ヌ該
港ノ南ニ一ト筋ノ長堤延テ海心ニ進ム貳千
「メートル」(半里餘)恰モ巨腕ノ港心ヲ抱ク者
ノ如赤矢遙ニ紅海ノ方ヲ眺メバ無數ノ漁船貨
舶片々トシテ波ニ御ス皆上古ノ形裝ヲ保持ス
其風光愛スベシ群集ノ間アフ過路スニ當テモ
ヒキスハ已レノ職掌ノ慣習ニ背カズ警然
眼ヲ配テ往來ノ衆諸ヲ視察セリ正二十時ノ鐘
聲港口ノ辰辰臺ニ響キテ云ク「噫彼ノ郵
船ハ來ラザル乎ト領事ハ答ルニ早ヤ遠カラザ
ルベキヲ以テスヒキス問テ云ク「スエズニ寄
港シ留マシハ何時間程ナルベキ哉」領事スエ
マザルヲ得ズ其間四時ゾ要スヒキス又問テ
云ク「此船ハ直チニ當港ヨリボンペニ航シ候
程ニテ石炭モ多量消耗スルナレバ是ヲ積込
マサルヲ得ズ其間四時ゾ要スヒキス又問テ
ズヨリ紅海ノ端ナルアルデン港迄千三百十海里ノ
哉領事然リ路ニ於テ荷物運卸ヲナサズ直ニ彼
ハ英領ナルヲ以テ安心ナリ難キヲ知リテ當港ヘ
ノ港ニ達スルナリ鑑惠然ルニ於テハ若シ此ノ
船中ニ彼ノ賊ノ來アラベ彼奴モ必ズ印地方
上陸シテ茲ヨリ隱ニ道ヲ變ジ亞細亞地方ニア

ル佛國或ハ荷蘭所領ノ屬國ヘ奔ラント企ツル
「ナルベシ 領事彼ノ盜賊大膽不敵ノ曲者ナル
ニ非ラズンバ其方略ヲ用ヒマジ君知ラズヤ英國
ノ犯罪人他國ニ奔ルヨリ却テ龍騰ニ潛匿スル
者能網ヲ漏脱シ得ル事ヲト云ヒツ、領事ハ分レ
テ程遠カラズ己レノ公務所へ往キ跡ニ残リシ
ヒキスハ獨リ何トヤラン彼ノ驕城ハ「モンゴ
リヤ」船ニ搭シテ來ラベキ「疑ナキ心地セラレ
ヒキスハ獨リ何トヤラン彼ノ驕城ハ「モンゴ
リヤ」船ニ搭シテ來ラベキ「疑ナキ心地セラレ
ル」又疑ヲ容ルベケンヤ
眞ニ是レ其賊英國ヲ脱シ米洲地方ヘ逃竄ゼン
ヒキス萬念ノ思想モ忽チ郵船來着ヲ報ズル
ヲ需ルナラバ警察嚴密ノ大西洋ヘ渡ラズシテ道
一聲汽笛ノ爲メニは被擗シテレ人足士人ノ徒群ヲ
ヲ彼ノ警察疎懈ノ印土地ニ藉テ奔ラント欲ス
亂シテ肩摩轍慾人ノ衣に觸レ人ノ足ヲ踏ムモ更
ニ意トセズ波止場ヘ向クは駆セ集リ見ル間ニ舟
十有餘艘岸ヲ離レテ海心ヘ擣キ出シ郵船ノ來港
ヲゾ迎ヘケル暫クアツチ形巨鯨ノ波ヲ蹴ルガ
如キ「モンゴリヤ」號ハ波ノ兩岸ノ間ニ過ギリ
十一時ノ鳴鐘ト均シ克來テ港内ヘ錨ヲ投ズレ
來客或ハ甲板上ニ立テ市街ノ光景ヲ遠望ス
ルアリ或ハ又曩ニ「モンゴリヤ」ヘ擣キ附ケ來リ

シ 船舟ふなぶねへ 飛とび乗のり、陸スル者モナカリキ
ヒキスひきすハ此時海岸ニイミ々上陸スル 乗客
ヲ熟じゆくシテ察シタリケルガ其内一名ノ壯漢ガ五月
颶よしク僱使ひきヲ乞ヒ來ル土人どじん類るいニ推すシ揃ケン、
來テヒキスニ近寄リ言ヲ懲勸ニシテ英國領
事廳ニ於テ檢印ヲ乞ヒ度キ者ノ如クナリレバ
ヒキスハ何心ナク手ニ取上ゲテ見シ人相書
ノ條ニ至レバ豈圖ランヤ旅行證ニ掲載あわせられノ人相書
ハ正シク己レノ待ニ待チタル彼ノ本邦警察局ヨ
リ報知ノ賊ト寸毫差ヒナカリケレバ思ハズ色
ニ出サントセシガ又自ラ慎ミ船客ニ向ヒ「此
足元あしゆきニ手形ニテハ有間敷キガナ
小可ガ主主人ノ手形ニ候ナリ 警然シテ足下
ノ主君ハ何處ニ在スヤ 良船中ヘ留リテ候
警去リト御主人親ラ領事館りょうじかんヘ出頭シ玉フ
ノ上ニ非レ顙頷おほこノ趣意貫キ申マジ 且何謂
ヒ玉フゾ夫ハ是非共緊用ニ候哉 警如何ニモ
堅用壯さう領事館ハ又何レノ方ニ候哉警吏ハ
二百歩斗リ廣庭ノ彼方ナル家ヲ指シ「彼方ニ
見玉フゾ角ノ家コソ其館ナリ 壮左ラバ主人ヲ迎
へ來ルベシ併シ主人ハ上陸ヲ嘸惑ニコソ思
フナラント云ヒツ、ヒキスニ一聲シ再ビ汽船

第七回

ヘ引キ返シケリ

ハ「モンゴリヤ」へ乗込來し事疑フベキニ非ズト
存ズ其故ハ頃刻一個ノ僕ニ行逢し旅行證ノ事ニ
付斯様々ト物語ルヲ聞テ領事ハフヒキス
向ヒ「善哉、々々其奸奴ノ顔色ヲ見テガレン」氣
味能ケレ然レド當時ハ既ニ旅行證ハ検印ヲ据
ノ手續キモ旅客ノ隨意ナレバ若シ眞ニ足下ノ推
量ノ如ク賊ニ違ヒナクンバ蹤跡ヲ暗マサント
コソスレヨモ我ガ居内へ來ルマジ警否ナ
否ナ想フニ彼ノ奴ノ如キ大膽不敵ノ書者ハ却テ
必ず來り申スベシ領自分ノ旅行證改メノ爲
ニカ警然リ然リ通常正直人ニハ旅行證
ハ却テ煩シキ具タルニ過サレド好從脱走ノ爲
ニハ無比ナル遁辭トナルハ一般ノ例ナレバ顧ク
ハ君其乞フ許可シ玉ハザラン「ヲ領夫ハ又何
故ニ乎若シ彼レノ所持スル手形ニ缺クナク
何ゾ某之コレニ檢印ヲ拒ムノ權アラン警然
ド領事君小可ハ龍勳ヨリ逮捕ノ指令書到着
ハ是非共彼奴ヲ當港ヘ抑留致サネハナラヌ譯

チ候。領夫八下ノ義務ニシテ某某ノ聯カ關スル所ニアラズ併シ某ニハ言葉未ダ全ク畢ラザルニ役所ノ戸ヲ叩ク者アツテ當館ノ小使ノ便ノ案内シ從ヒ入り來ル貳人ノ外客焉シ其一人ハ先刻齋吏ト談話セシ僕ナリキ
其レハ則チ主従ノ旅客ニシテ主人ハ領事ノ前へ旅行證ヲ差出シ辭少々ニ檢印ヲ受ケ度條ヲ申シ入ルレバ領事之ヲ手ニ取りテ讀下スニゾヒキス其隙ニ室ノ一偶ヨリ眸ヲ凝シテ彼ノ外客ヲ一心不亂ニ熟視シケル領事ハ讀ミ終リテ貴客コソニアリス、フランツ氏ニ在ス哉ト問ヘ紳士ハ對テ「如何ニモ拙者ニテ候」
テ此人ハ君ノ從者ニ候哉「フランツ、然リバスペルツート稀スル佛國人ニテ候」
リ玉五力フランツ、然リ領然シテ貴客ノ行キ幸フ所ハ「ヲツグボンベー」ヘ參リ候。領宜ク候ナリ併シ君ニハ檢印ノ手續ハ當時無用トナリ行證證改ノ式ハ既ニ廢止トナリ候。トヲ未ダ御承知無矣哉アリシニハ候ヘド君ノ檢印ニ據テ他日者アルニ因テ渡シケレバフランツハ數料ヲ納メテ穩ニノ「二」候然ラバトテ領事ハ行證ヘ姓名ノ押井月日ヲ筆記シテ領事館ノ證印ヲ捺シテ候。月日ヲ筆記シテ領事館ノ證印ヲ捺シテ候。月日ヲ筆記シテ領事館ノ證印ヲ捺シテ候。

黙れ
ミ 僕ヲ 従ヘ出デ往キシ後ニテ警吏ハ領事ハ
事ニ向ヒ君ニハ如何思ヒ玉フゾト云バ領事ハ
對テ「左レバ温良完全ノ紳士トコソ受ケタ
リキ警左モアルベケレド夫レハ今モ關ス
ル所ニ非ズ領事ニハ今ノ神色自如タリシ紳士
ノ容貌コソ分儀ノ報知シ得シ所ノ賊ノ人相ニ
蓮ハヌヲ發見シハズ領足下ノ言ハル、
所ト同意ナレド足下モ熟知アラル、通リ一體
人相書ト云フ者ハト半分開モアヘズフヒキスハ
本般ノ事件ニ付テ僕自信シテ聊モ疑惑ズ
幸ヒ彼ノ從者ハ佛人ニテ言ヲ慎ム「ヲ知ラヌ
男ナルベケレバ彼ニ就テ採るハ届竟ノ策ナリ
暫ク待チ玉ヒネト云ツ、警吏ハ出デテバスバル
ツニ回リ遂ハントゾモケリ
却説フヲツグハ領事館ヲ立出デテ海岸ニ到リ
爰ニテ何歟從者ニ命ジ置キ我身ハ解舟ニ打乗リ
本船モンゴリヤナル己ノ子舍ヘ立歸リ一小冊
ヲ取り出スニ
十月二日水曜午後八時四十五分龍動發
六時三拾五分意國チユリン府へ着
同日八時四拾分巴里發
同日七時二拾分チユリン發

十一月五日土曜午後四時プリンヂシ港着
同日午後五時郵船モンゴリヤへ乗り込
十月九日水曜午前十一時スエズ港へ着
消耗時間通計五百拾八時半則チ六晝夜半
トゾ誌シタリ元來フリッゲ氏ハ此道程冊子ヲ
縱横ニ區畫シ十月二日ヨリ十二月二十一日迄
ノ日月七曜等ヲ細シ記載シ又像テ巴里プリンヂ
ジスエズボンベーカルカツタ新嘉峯香港横濱桑
港新育リヴァーポール龍勳等ノ眼目タル地方ヘハ
到着ノ定期規則刻々記載シ別ニ實地時刻ノ核ヲ設
ケ相比較シテ各地到着時數ノ損得ヲ精算シ得
ル方法ヲ設ケタリケル是故ニ此良方ナル結果
表ヲ見レバ一日ノ下ニ進ミシカ後レシカヲ瞭然
ニ辨知スルヲ得タリキフリッゲハ今日モ亦例ノ
如ク此冊子ヘ十月九日水曜ノ以て定期ノ時間
ニスエズ港へ到着シ総局損得共ニナカリシ條
ヲ筆記シケル此日課終リケレバ己ノ子舍ヘ午
膳ヲ取り寄セ喫シツ、市街ヲ遊覽スル「等ハ曾
テ心頭ニモ浮ベシテ過ニケル元來英人ノ風
タルヤ他國へ遊歴スル時モ猶從者ヲシテ己レニ
代テ見物セシメシモノ少ナカラザルナリ

一ガ主人トハ異リテ自身ハ何ヲ見タリト誰カ
障ル者アラント彼方かなたニ往復シ遊覽ゆらう居ル
ニ追付キケレバ近寄テ言葉ヲ掛け如何ニ足下
ノ旅行證しようノ捺印ハ無瀬相濟シ哉ト問レテバ
スバルツツ一ハ噫君ニテ在ス哉皆合意敷事濟
ミタリシモ全ク君ノ注意ニ據ル眞ニ多謝々々
警然シテそがへ下ハ當地ノ景情ヲ鑑賞シ玉フ歟
ス然リ果シテ君ノ言ノ如シ左レド餘リニ速
進行スル故カ恰モ夢中ニ旅途ニ登ルガ如クニ覽
ユルナリ爰ガ是モスエスト云處ニテ候哉
驚然リエズナリバス埃及ノ警正シク其埃
及ノバス彼ノ亞弗利加ナルカ警然リ其亞弗
利加ナリバス「亞弗利加ナリト云ヒ王ゾ僕ニ
ハ何トヤラ猶迷夢ノ醒メ又心地ニテ巴里ヨリ先
キヘハ行キ過ギザル様ニノミ坐ロニ想ハル、ナ
リ彼ノ華麗無比ノ都府モ午前七時二十分ニ北
停車場ヲ出デテ降雨ヲ衝テ里昂停車場迄ノ間
僅カニ馬事ノ硝窓ヲ隔テ、通覽セシハ遺憾ニ絶
ヘズ實ニ僕ハペール、ラシエ¹ズ及びビシャンゼ
リゼンムサ場ヲ再覽シタク思ヒタリシニト聞テ
警吏ハ又問フ様ニ然ラバ君ハ餘程急ギ玉セシ者
ト見受ルナリバス僕ハ敢テ急ギシニ非ラズ是
レ我ガ主人ノ意ニ從ヒシ耳聴思ヒ出シタリ我々
ハ旅衣箱ヲ持タズ手提胸亂一箇耳ヲ提へ來リ

シニ付胡粹并範轄等ヲ求ムルノ命ヲ受ケタリ
キ藝「然ラバ小可ガ案内シテ望ノ品々何ナリニ
貯ヘアル一市鋪ヘ併ヒ申スベシバスパルツ一ハ
喜ビテ實ニ君ノ厚意謝スル處ヲ知ラズト云ツ
ツ相伴ウテ歩ミナガラ又云フ様「僕ガ第一注意
スペキ所ハ發船ノ時刻ニ後レヌニアリ」藝心
ヲ安ジ給ヘ猶正午ヲ過ギザレバ十分餘暇ハア
リツルナリ之ヲ聞テバスバルツ一ハ咎テ云はズ
「正午ナリトハマー何事ヲ云ヒ玉フゾ今ハ丁度
九時五十分ナルニ藝夫ハ君ノ時計ノ遅レ
シナリバス「何トテ我ガ時計ノ錯ルベキ是ハ
苟モ我ガ曾祖父ヨリ一家傳來セシ珍器ニテ一
度九時五十分處僅ニ五分三過ギズ良箇ノクロノメ
一トル」ナリ藝我レ今其原由ヲ知レリ君ハ龍
動ノ時ニ合セ其儘打置キ玉フ故當エズ港ノ時
トハ凡ソ貳時間ノ差ヲ生ゼシナリ君宜敷各地ノ
正午ニ準ジテ君ノ時器ヲ是ニ合セ玉フベシバ
動ノ時ニ合セ其儘打置キ玉フ故當エズ港ノ時
斯「我時計ノメ鍼ヲ動カセトナ嗚呼決シテ僕ハ是
ヲ首首七ザルベシ藝然ラバ君ノ時計ハ太陽ト
順逆スルヲ得ザルベシバス「是レ太陽ノ罪ナリ
我が時計ノ惡シキニ非スト云ヒツ獨リサモ誇
リ額ニ時計ヲ我ガ懷中へ納メケル暫クアリテ
ヒキスハ門フ様「然ラバ遽ク龍剣ヲ發足シ
吾ヒシナランバス眞ニ然リ眞ニ然リ過ル水曜

第八回

フヒキスハ間モナク海岸ニ於テ彼ノバス・バルツ

日ノ皆我主人フヲグ氏ハ平常ノ慣行ニ反シ
集會所ミリ八時ニ歸宅シ夫ヨリ僅ニ四十五分
ヲ過ギザルニ蛋ヤ我々ハ羈旅ノ道ニ登リタリキ
鑿然シテ君ノ主君ノ如レハ何處ヲ志ザシテ行キ玉フ
哉バス何處迄モ先キヘト進行シ世界ヲ
周回スルト云鑿何ニ世界ヲ一周シ玉フトナ
バス然リ八十日間ニ此長旅ヲ完畢スルト尤モ
主人ハ此旅ノ成否ニ付賄フシテ而後發スルト
揚言シ玉ヘニ是ハ茲レギリノ嘶シナリ僕ニハ
向信セラレズ想フニ別ニ何力異ナル目的ノアル
コナランカ鑿呼左ラバ其フヲグ君ハ餘程
ノ奇人ト見ユルナリバス僕モ亦素ヨリ是ヲ信
ズ鑿然ラバ同氏ハ定メ富客ナランバス富
客ノ「ハ明瞭ナリシハ今回極新鮮ノ銀行
紙幣ニテ巨大ノ金額ヲ佩ビ道中更ニ是ヲ費スニ
毫モ愛情ノ色ナク既ニモンゴリヤノ機關師
ニモボンベ一へ定期時間ヨリ先進シテ着クニ
テハ一大褒賞金ヲ與ヘントヲ約束セリ鑿君
長ク同氏ト相識ノ間ナル哉バス中々以テ舊
識杯ニハ候ハズ漸ク出發ト同日ニ同氏ニ僕ハ
レス耳ト答フ警吏ハ最前ヨリ既ニ精神勃勃タリ
シニ今又聞知セシ僕ノ答言數件ガ其心膽ニ何等
ノ感ヲ起セシカハ推想スルニ難カラズ彼ノ盜ヲ
行ウテノ後間ヲ失ハズ遂シク龍動ヲ發スル彼

ノ巨額ノ金ヲ佩テ行クか彼ノ馬車ク遠遙ノ國ヘ奔
ラントスル彼ノ法外ノ賭ニ託言ス等皆一トシ
テ已レノ推想ト符合セザルナク又其從僕タル佛
人ヲ慾憲シテ聞クニ彼レガ其主人ノ人ト爲リ
ヲ知ラズ又フヲグハ龍動ニ在ツテ他人ト交ラ
ズ財産ニ豐カナルノ名アリント雖モ人其來ヲ
知ル者ナク到底身上曖昧ナル者タルヲ確知シ
併せ彼レハ更ニスエズヘハ上陸ノ意ナク眞ニ
ボンペーへ行ク者ナルヲ確知セリ
バスバルツー問テ云ボンペーハ遠方ニ候哉
警吏對テ云隨分遠方ナリ船路十日間モ掛
ルベシバスソシテボンペートハ何邦ニ候哉
鑿印土ノ一市ナリバス亞細亞ノ内ニ候哉
警固ヨリバス鳴呼叱ツ失敗タリ爰ニ僕が心中
常ニ穩ナラザル一事アリ僕が嘯ナリ鑿如何
ナル嘴ナルヤバス夫ハ本邦發程前消滅スル
ヲ忘レ來リシガ僕ノ拂フベト所ナリシ瓦斯
燈ノ嘴ヲ云ナリ僕因テ計ニ計算スルニ二十四
時間ハ燃ル所ノ瓦斯代貳志厘（我ガ五十錢）ニシ
テ正シク僕ノ給料ヨリ跡ル「六ベンス」（十二
五厘）ナレバ猶旅路ノ長延スルアラバ僕ノ困
弊君宜シク洞察シ玉フベシト是ヲ聞テヒキス
物語ルヲ領事打チ聽「夫レニテハ眞ニ萬緒ノ嫌
忿彼ノ男ノ身上へ萃ルナリ然シテ君ハ何トシ
過ノ證トシテ只管ニ捕者ノ檢印ヲ見ヒシナルカ
警夫レハ何ノ故ナルカ小可ト雖ニ解シ兼ヌレ
ド先ツ小可ノ説ク所ヲ詰キ玉ヘト云ヒツ、警吏
ハ最前フヲグノ從者ト談話セシ其要目ヲ摘テ
物語ルヲ領事打チ聽「夫レニテハ眞ニ萬緒ノ嫌
忿彼ノ男ノ身上へ萃ルナリ然シテ君ハ何トシ
動ヘ電信ヲ投ジテボンペーへ宛テ小可ノ許ヘ建
築彼ノモコレンシ則チ先づ龍

注グア止メ冤角スル内市鋪ニ至リケレバ「君隨
意ニ好キ品々ヲ購求シ玉ヒ勿但シモンゴリヤ
出船ニ後レ王フ勿レト意ヲ添キ急ギ領
事ノ公務所へ回り來リテ今ハ心中ニ確乎ト洞知
セシ良アリケレバ更ニ危疑ゼ靜ニ領事ニ向
ヒ「今ハ厘毫ノ疑贋モ消工失セタリ彼ノ曲者ハ
陽ニ八十日間ニ世界ヲ一周スル奇僧家ナリト揚
言居レ時既ニ小可ガ掌中ニ陥リタレバ敢テ
意ヲ勞スルヲ用ヒズ領「鳴呼何等ノ狡黠奴ゾヤ
新舊兩世界ノ華麗精緻羅列利加世界ノ警察ヲ
欺キ遂テ後冉再び龍動ニ歸ラントスル者ナラン
鑿夫レハ後日自ヲ訓ムベキ所ナリ領「然
レド君ニハ毫モ思ヒ誤リ玉フナキヤト猶モ
領事ハ念ヲ推セバ警否ナ思ヒ誤リハ候ハズ
領「然ラバ何等ノ事故アツテ其賊當スエズ港經
過ノ證トシテ只管ニ捕者ノ檢印ヲ見ヒシナルカ
警夫レハ何ノ故ナルカ小可ト雖ニ解シ兼ヌレ
ド先ツ小可ノ説ク所ヲ詰キ玉ヘト云ヒツ、警吏
ハ最前フヲグノ從者ト談話セシ其要目ヲ摘テ
物語ルヲ領事打チ聽「夫レニテハ眞ニ萬緒ノ嫌
忿彼ノ男ノ身上へ萃ルナリ然シテ君ハ何トシ
動ヘ電信ヲ投ジテボンペーへ宛テ小可ノ許ヘ建
築彼ノモコレンシ則チ先づ龍

捕指令ヲ急送スル様懇請シ次ニ「モンゴリヤ」へ

スエズアデン兩港ノ距離ハ三千三百十里ニシテ
郵船會社ノ定期ニ據レバ百三十八時間ニ經過
スル割ナレド此「モンゴリヤ」號ハ汽罐ノ火焚
鐵ニシケルヨ倍シテ奮迅駆行シ天晴レ定期ノ時
間ヨリ先進ベシト見ニケル儘ブリンクンヂヨ
リ來刹ノ船客モ多クハ印土行ノ人々或ハボ
ンベ一へ行ク者アリ或ハカルカツタへ行ク者
當時ハ彼ノ印土全邦ヲ横斷スル鐵道竣工以來
錫蘭ノ岬ヲ迂廻スル勞モナケレバ皆ボンベ一
ヘ上陸スル者ナリケル然シテ此行程客ノ中ニハ
文武ノ官吏モ多カリキ申ニモ武官ニハ英國派
遣精兵ノ士官タル者アリ或徵募ノ士兵司令

同乗シテ其踵ニ追尾シテ印土ニ至リ彼ノ地ハ素ヨリ大英國ノ土地ナレバ彼ノ逮捕指令ヲ左手ニ持シ懲懃ニ近傍リテ右手ヲ彼ノ肩上へ掛け小可ガ妙策ナルト靜ニ演ベツ、警吏ハ立テ暇無告ゲ領事館ヲ立出テ傳信局へ至リ彼ノ前回ニ記載セシ電報ヲ本邦警視長へ送り置キ十五分時間モ過ケル頃ヒキスハ手輕ノ胸亂ニ用意ノ金子十分ニ裝置シタルヲ手ニ提ゲ早モンゴリヤヘ乗込ケレバ、ヤガテ該國ハ汽力ヲ増シ紅海ノ白波ヲ蹴立テツ、疾駆シタリケリ

第九回

官人等モ多カリキ元來當地方官吏ハ舊印土
商事所轉ヲ脫シ英廷直隸ノ今日ト雖ニ若高
大ノ俸給ニ飽ク其例少尉ノ年給千四百圓佐官
臺萬二千圓也ト官二萬圓ナル如是故ニモン
ゴリヤ號ニ在リテハ在官ノ紳士ニ交ルニ英國豪
家子弟が百萬ノ富ニ懷ニシ出テ異域へ商
埠ヲ建テントスル徒ヲ以テセシ船内ニ於テ屠戮シテ調理ヲ
頗ル高尚優美ナリ船上ノ管事ハ哥子ヲ船將ニ比
スル吏ニモ朝飯二時ノ晝餐五時ノ夕膳八時ノ夜
食ニハ善美ヲ盡シ郵船内ニ於テ屠戮シテ調理ヲ
施セシ精鮮ナル肉等珍味佳肴ノ陳列卓子モ爲ニ
垂レントス其饗應頗ル懇勤ナリ乗客モ中ニハ
更衣日ニ二度ニ及等ノ豪華ヲ闘スアリテ
或ハ風流ノ士女音樂ヲ催シ遊遊シ或ハ海波
巨横狹縦長ノ海灘ノ習ニテ紅海ノ風濤轉極
靜ナルニ當テハ甲板上ニ踏舞シテ偕樂ス然レ
テヤ嬪姫タル婦女ハ散シテ琴聲俄ニ息ミ歌曲
リ無ク亞細亞或ハ亞弗利加洲ノ岸ヨリ烈風ノ
吹來ル日ニ當テヤモンゴリヤハ狹長梭ノ如
キ暗車形ノ船ナレバ顛轉スル「涯リナシ此ニ於
テヤ嬪姫タル婦女ハ散シテ琴聲俄ニ息ミ歌曲
リ無ク亞細亞或ハ亞弗利加洲ノ岸ヨリ烈風ノ
吹來ル日ニ當テヤモンゴリヤハ狹長梭ノ如
キ暗車形ノ船ナレバ顛轉スル「涯リナシ此ニ於
颶ヲ悲レズ狂瀾ヲインジ倍ミベルマンデルメ
海峡ノ方へ進行暫時モ撓マザリケリ

リシャト間バ人正ニ想ント欲ス氏ハ或ハ風向變
轉ノ駛行是が爲ニ阳ラレンヲ恐レ或ハ狂瀾
ノ衝觸機關ヲ破ル「アランヲ憂慮シ或ハ又不
虞ノ破損アツテ已ムヲ得ズ沿道ノ港灣に滯阻
セラレ是ガ爲自家行旅ノ企ヲ害セントヲ恐
シテ措カズ頗ル恂タルベシ是レ誤テリ此
紳士ハ假令中心ニ此不虞ヲ慮テ感々タルア
ルモ敢テ色ニ顯ハサズ依然タル彼ノ改進舍ニア
リシ意外ニ出ルノ事モ不虞ニ生ズルノ災モ
猶ホ能シテニ足らず其神じよじよ其色自若トシテ
物ニ動クナキハ船中ノ「クロノメートル」ト頽頹
スペシ氏ハ甲板ニ佇立シテ往昔伊豆出生人類歴
史ノ活劇場ニシテ今日能ク懷舊ノ情ヲ促ス
ニ堪ル紅海ヲ眺望スルゝ屑トセズ亦敢テ來
テ其兩岸上ニ散置セル奇景可憐ノ村落時々天
涯ニ飛影ヲ描ク者ヲ眺ムルノ意ナシ氏ハ又上
古ノ史家ストラボン等ノ徒が毎次惶乎トシテ
險惡ヲ説キ且茲ニ航スルノ豫シメ發程ノ
前ニ當リ先づ自家ノ貨財ヲ投ジ海神ヲ祭ルノ後
ニ非レバ未だ曾テ敢テ舟ニ乗ル者アラザル程ナ
ル亞刺北海ノ危險ヲモ想像セヌ者ニ似タリ
然ラバ果シテ奇異ノ士ハ「モンゴリヤ」ノ中ニ
籠メラ居テ何ヲカ爲シタルト云ハシ氏レハ如何
程船身ノ激動スルモ敢テ其絶妙ノ機關ヲ察ス

ナケレバ 目々四次ノ 繻轡ヲ缺カズ 是ヲ 噎シ畢
レバ 必ズ骨牌ノ戯ニ 從事セリ 果シテ氏ハ嗜好氏
ニ讓ラザルノ好敵手ニ遭遇シテ終日互五沈然ト
シテ 技ヲ闘セシ人々ハゴアナル住所へ趣ク
收稅官某ボンベーへ歸向フル 崇教先達ナルス
ミス及ベナレースへ征戍スル 大英國陸軍少將
某等ナリバスバルツハ又船車ノ氣味等更ニナ
ケレバ 其居室舎トハ雖ニ清潔ナル所ニ起居シ
快ク 美酒佳肴ニ飽テ斯クリ榮耀ヲ盡シテスル旅
ナレバ 最早不足ト爲ス所ナク 却テ驥尾ニ附シ
テ來リシヲ私ニ喜ビ殊ニ主人ノ奇僻モ印土ニ
至レバ 息ミヌベシト獨リ想像シテ樂ミ居タリケ
リ

スエズ港出發翌日則十月二十九日ノトカ
ヤ彼ノ埃及地方上陸ノ節合シ親切ニ待遇
ヲ受ケシ其人ニ不圖又甲板上ニテ會合シケレ
ババスバルツハ喜色滿面ニ顯レ 肩爾トシ
テ微笑シツ、近寄リテ「噫見達ヒハセジ彼ノス
エズニテ親切ニ僕ヲ説引シ吳列玉ヒシ君ニコソ
オハサズヤト云ヒケレバ警吏モ亦「僕モ足下ヲ
忘レハセジ足下彼ノ奇僻ナル英人ノ從者ニテオ
ハサズヤパス惜モ君ノ言ノ如シ然シテ君ノ姓
名ハ聲フヒキスト申ス ハス「フヒキス君ヨ君
ニ此船中ニ於テ再會スル「歡喜ニ堪ヘズ然シ

テ君ハ又那處へ行キ玉フゾ 驚君ト均シタボン
ペ一迄同伴致スナリ パス重疊々々シテ君ハ此
道中屢々通行シ玉ヒシャ 警素ヨリ僕ハ當
郵船會社ノ社員ニ候ヘバ通行セシ數多度ニ
候候 バス然フバ君ニハ定テ印土地方ハ詳ニ
知リ玉フナラン 警然リ乍去ト對モ自ラ陵
昧ナルハ已レノ所意ヲ知ラレス要慎ナリバスバ
ルツハ又問ラク「印土ハ珍シキ土地ニアリス
ベシ 譲然リ眞ニ珍邦ト云ベシ寺院アリ高塔ア
リ堂宇アリ重塔アリ虎アリ蛇アリ又跳舞少
婦アリ然レド君等ガ是レヲ悉ク縱覽シ玉フ暇
ナカリ玉ハソラ私ニ恐れナリ バス「僕モ是
等ヲ悉ク見物セントヲ希望致スナリ實ニ精神
完全ナル人タランニハ八十日間ニ一世界一周
シトル云記音ヲ以テ汽船ヲ降テ轍路ニ飛乗リ汽
車ヲ出デ又郵船へ飛遷ルヲ以テ生ヲ送ルヲ快
ト何氣ナク聞カクレバ バス「頗ル健康僕ノ如キ
モ幸ニ健全海上ノ清涼氣ヲ呼吸スル故歟數日間
食セヌ餓鬼ニ聊カ劣ラス程食ノ遅ミ候ナリ
ト「然レド足下ノ主君ハ更ニ甲板上ニ見エヌハ
タル森樹其上ニ散立ス後山處トシテ廣瀬タル
ベルヤンデルノ海峽則チ亞刺比耶方言ニテ漢ノ
バ更ニ爰ヘハ出来リ申サズ 驚足下ハ此ノ言ヲ
八十日間ニ世界一周スルニ託シテ旅行シ玉フ
主人ハ何例バ外交ニ關スル密旨ヲ奉ジテ
他國ニ使スル如キ祕訣ノアルヲ知リ玉ハズヤ
バス夫等ノ邊ハ僕更ニ關リ知ラズ又結局其祕
訣ヲ穿知スル爲ニハ僕半片ノ小貨ヲモ出ス意ナ
シトゾ對ヘケル

爰ニ會セシ後モ二人屢々相逢ウテ世間話等ナ
シケルガ尠更ハ他日何角カノ便利アランカト胸
スキ」麥酒等ヲ振舞ケレバ此方ノ僕ハ毫モ辭
讓セズ受ケツ恒ケツ又ヒキスノ人トナリ温
良ノ佳士ト思ハレケレバ時々ハ答禮セシコト多
リ折々ハ「モンゴリヤ」ノ酒室へ往キ「ウヒ
スキ」麥酒等ヲ振舞ケレバ此方ノ僕ハ毫モ辭
讓セズ受ケツ恒ケツ又ヒキスノ人トナリ温
良ノ佳士ト思ハレケレバ時々ハ答禮セシコト多
リ折々ハ「モンゴリヤ」ノ酒室へ往キ「ウヒ
モカラズメバ頹廢タル環境其外ヲ遡リ綠々
タル森樹其上ニ散立ス後山處トシテ廣瀬タル
茱萸樹ノ園ナラザルナシ爰ニ於テバスバルツ
ハ此有名ナル市街ヲ眺ミ歡喜ノ措カズ且團々
アル者ニ類スルヲ見ル此夜間「モンゴリヤ」ハバ
ベルヤンデルノ海峽則チ亞刺比耶方言ニテ漢ノ
バ更ニ爰ヘハ出来リ申サズ 驚足下ハ此ノ言ヲ
八十日間ニ世界一周スルニ託シテ旅行シ玉フ
主人ハ何例バ外交ニ關スル密旨ヲ奉ジテ
他國ニ使スル如キ祕訣ノアルヲ知リ玉ハズヤ
バス夫等ノ邊ハ僕更ニ關リ知ラズ又結局其祕
訣ヲ穿知スル爲ニハ僕半片ノ小貨ヲモ出ス意ナ
シトゾ對ヘケル

ノジブルタルナルノ種ヲ負ハシムルニ堪ヘタル
數餉ノ砲臺ノ精堅ヲ賞歎シ或ハ彼ノ二千年ノ人
ソノ昔シソロモン王ノ工師ガ工ヲ創メ近年英國
ノ土木博士ガ工ヲ竣メシ數餉ノ蓄水池ノ宏壯
ナルニ驚感スル「淺カラズ本船へ歸り來リテ
獨語シテ云ラク「噫奇ナル哉奇ナル哉人若シ漸
奇ヲ見ント欲セバ筈ヲ負テ行旅ヲ事トスルニ若
カズト

横ハリ稍ナクナクニ及バテハ數叢ノ棕櫚樹着々乎
トシテ城市ヲ覆フヲ見兒汽船ハサルセツトコ
ラバ島居夫島等島嶼ノ環テ一灣ノ造ス彼ノボ
ンベ一港口ヘ進入シ四時ニハ既ニ該港ノ馬頭ヘ
纏繩ナ繫キケル時アリス、ヲタグハ本
日ノ博戯第三十三回ヲ了リ氏モ敵手モ其ニ謀
略ノ技策ニ皴ヒ十有三度ノ全勝ヲ奉シテ終ニ今
回好旅ノ局ヲ了リケル扱モノゴリヤ號ハ十
月二十二日ボンベ一へ着スル定規ノ處二十日
ヲ以テ該港へ到着シタリケルニ付ボラツグガ龍
動ヲ發程シタルヨリ正ニ是レ二日ノ所得ニ成リ
ケレバ氏ハ道中記ヲ取リ出シ定則ノ通り所得ノ
格へ之ヲ詰シケル

第拾回

「モンゴリヤ」ハボンベーへ達スルマデ猶古六
百五十里ノ長程ヲ餘シ煤倉ヲ先ルガ爲猶此ス
チマルボイントヘ滞留セザルヲ得ズ然リト雖ニ
此數時ノ運延ハ豫メフツラツガ表上ニ記スル
所ナレバ更ニ氏ノ行旅ニ害アラズ況ニ該ハ
十月十五日ノ曉ニニアデンハ着スベキ既ニ
ガヒキスモ亦ニ尾シテ到リケル斯クテ其手
績モ終リケレバフツグ氏ハ本船へ立歸リ暫ク
留キテ上陸シ羅印ヲ乞ヒ二行ニケル
中斷セシ博戯ノ中へ再び入りニケル儲又バスバ
ルツ一例ノ如ク飄然ソマニスバニア
ン白西猶太亞刺比等ノ諸族及ビ歐洲ヨリ移住ノ
居人ノ集リテ成シ漁人口貿易千ナルアデンノ
市中ヲ徘徊シ或ハ彼ノアデンヲシテ印上海中

印土ノ地タルヤ能ク衆庶ノ知レ所ニシテ略ボ
三角ヲナシ其座総北ノ方山ニ接シ角南ノ方海
ニ突出シ面積百四十萬英方里人口一億八千萬
此大邦ニ配居スル「稠密所ニ隨テ均一ナラズ
ト雖丘大率ネ英國政府ノ純轉スル所ニシテカル
カツタニ物理知事ヲ置キマド拉斯ボンベーベン
ガラニ知事ヲアグラニ副知事ヲ置テ政治ヲ司
ラシム然レドモ純粹タル英國直隸所領ト稱
スル者ハ面積七十萬方里人口一億一千萬ニ過ズ

其内地ニ住スル士民ノ如キハ「へうかぎだるんをほば」不
驕獨立ヲ固守スルヲ以テ英皇ノ恩威未ダ治徹セ
ザルノ邦小カラズストス。日今マド拉斯府ノ屹立ス
ル地ヘ曾テ千七百五十六年ノ其昔は「はじめ」不
人ガ來リテ居留館ヲ設ケシ時ヨリ近年彼ノ土
民大イニ基起セシ其年迄高名天下ニ薦キシ印土
會社ナル者勢ヒ頗ル盛大ニシテ土人ニ就テ其
土地ヲ購フニ徵々タル年賦ノ債券ヲ以シ或ハ
之ヲ掠シテ漸ク彌漫ス。勿論彼ノ土管スル惣
理事及ビ文武ノ吏員等ヲ命ジ儼然タル。一政府
ノ體ナリシモ今ハ散ジテ跡ヲ絶チ印土所領ハ
直ニ英廷ノ統轄スル處トナル安ヲ以テ閑國ノ景
状、督人種ノ區分ニ至ル。迨日ヲ遂ニ變遷ス。往
時ハ會テ人ノ趨旅ヲ事トスル者或ハ歩シ或ハ
騎シ或ハ賃車輪車ニ乗リ或ハ籠輿ニ乘リ或ハ
人背ニ負ハレ或ハ稀ニ馬車ヲ用ル。其古風ノ運
輸ノ策ヲ得ザリシニ開化ノ今日ハイン
ドスガソチユ等ノ河上ニハ汽船ノ波ヲ截テ走ル
アリ陸ニハ全州ヲ横斷シ又岐レテ諸府ニ到ル轍
路ノ便アリテボンベーカルカツタノ遠キモ僅
線ニ此道程ヲ翔ケラバ千里ヨリ千百里ニ過ぎ
ザルヲ以テ假令汽車ノ速力甚ダ迅速ナラザル

モ猶三日ヲ費ヌヲ要セズ。雖年轍路北ノ方アラ
ハバツド迄迂回スルヲ以テ遠サ殆ンド三分ノ一
ヲ益スニ至ル今茲ニ其権要ナル沿道ノ各町ヲ示
サン大印土鐵道ノ經過スル地方ハ先づ程ヲボン
ペー港ニ起シサルセツトヲ歷テタンナノ對岸ニ
テ大陸ニ遷リ西ガートノ山脈ヲ跨エ北ニ向ヒバ
ルハンブールニ進ミ爰ヨリ略ボ獨立ナルバンデ
ルカンド地方ヲ横ギリアハバツドニ至リテ稍
ヤ轉ジテガンジエ河ノ畔ナルベナーレースニ出デ
又距テ南ノ方バルヂバンニビ佛領ナルシャンデ
ルナゴール府ノ邊迄降リ而ノ後始テカルカツタ
ノ線ト會合ス「モンゴリヤ」號ノ乘客ガ上陸
スルハ午後第四時ニシテカルカツタ行ノ汽車ノ
出車ハ八時ナリケレバフヨツグ氏ハ同遊ノ諸
子ニ別ヲ告ゲテ郵船ヲ降リ從者ニ兩三ノ贈品
ヲ余ジ且時ヲ誤キ「トナク必ズ八時前」停車場
器ヲ搖シスト一般ナル定歩一秒時ニ「足ヲ進メツ
ツ彼ノ手形ニ機印ノ式ヲ乞ニゾ往ニケル故ニ敢
ヘ來會セん「ヲ誠メ已レハ星學家ノ用ル時辰
ナ實ニ其頃ハ良世ト稱スベシ主管「猶兒」ノ爲メ
ニ良世ト稱シエフカ「多分恐クアリテ」
ノ爲ニモ均シク良代ナリシナラント云と捨テ
キスモ亦續テ郵船ヲ駆シ馳テボンベー府警視局
ツ、フヲツグハ靜ニ夕膳ヲ喫シケル
フヨツグ氏ガ郵船ヲ降リテヨリ暫クアリテフヒ
アルメニアノ祠社、マレハル山ニ在ル兩箇ノ
稜塔堂上ニ雄武壯麗人目ヲ驚ス伽籃等ノ奇
觀ヲ縱覽スルヲ求メズ又彼ノエレファンタノ妙

工及び海濱ノ南方ナル祕恵テ以テ著ル葬地モ
浮居氏ノ舊墓猶今日人ヲ感歎セシムルニ足ルカ
シベリノ幽窟モ乙氏ノ往テ眺マントスル處ニア
ラズシテ手形改テ出ルヤ否乎「是レガ則ナキ也」
ズシテ靜ニ停車場ヘ行キ食堂ニ入リ夕膳ヲ喫
スルニアタリ主管喫々當國兎肉ノ炙ニシテ美
旨ナルヲ稱贊シテ是ヲブルム者アリ「アライ
ラズシテ」
ス、フヨツグハ是ヲ煮テ醜味シタルガ香料ノ度
ヲ過ルアルヲ以テ却テ龜野ナリトシ鉢ヲ鳴メ主
管ヲ喚ヒ是ヲ熟視シテ云ク「是レガ則ナキ也」
タリト嘲リ玉フ「ナカレ我君ニ誓フフヨツグ
静ニ云は「子誓ノ「ハナスニ及バズ罪昔日印土
地方ニ於テ猶兒ヲ神黙テ崇ラレシ「ヲ忘レ玉フ
ナ實ニ其頃ハ良世ト稱スベシ主管「猶兒」ノ爲メ
ニ良世ト稱シエフカ「多分恐クアリテ」
ノ爲ニモ均シク良代ナリシナラント云と捨テ
キスモ亦續テ郵船ヲ駆シ馳テボンベー府警視局
長ノ許ニ至リ而シテ己レノ職掌今回特派ノ
趣意及ビ彼ノ犯跡略著ノフヲツグニ對スルノ

情實等細述シテ龍動ヨリ暴ニ送致ヲ請置シ逮
捕指令書ノ既ニ着セシヤ否ヤ問フ二人答ル
ニ未ダナルヲ以テス然シテ其指令書ノ如キハ龍
動ヲ發スルヲツグニ後ル、數日ナルヲ以テ何
是ニ先テ來ルノ所以アランヤ爰ニ於テヒ
キスハ大ニ望ヲ失シ頻リニ當地ノ醫神ニ長ニ就
テ其指令書ヲ受ケン「ヲ説ヒシト雖是ハ本邦
警視本局ノ管スル所ニシテ此本局ノ當路者
ニ非レバ公然令ヲ下スノ權ナキヲ説テ敢ヒ
キスノ需ニ應セズ其規律ヲ遵奉シ精理ヲ曲謫
セザルノ嚴肅ナルノ茲ニ至レバ彼ノ英國人民ガ
身上ノ自由ニ關シテハ毫モ專横ヲ假サミル風
習ノ力ノ能クスル所ナリ

ヒキスモ強請ベカラザルヲ知リ不得得ヒ彼
ノ指令書ヲ待タリケリ只彼ノ祕訣洞察シ難キ奸
兒ガボンベー府ニ滞留セシ間ニハ片時モ是ヲ
失ハジト決心シ且既ニバスバルツーノ如キモ
フヲグ氏ハ該府ニ留息スベシト斷然信ゼルヲ
以テヒキスハ更ニ是ヲ疑ハズ其間ニハ指令
書到着スベシト私一期シタリキバスバルツー
ハ「モンゴリヤ」ヲ去ニ當リ主人ガ指圖セシ所ニ
基キ考ルニボンベーへ到ル亦義ニ巴里スエズ
ニ於ルガ行旅只爰ニ駿ルベカラズシテ氏ハカル
カツタ迄或ハ猶其先キヘモ進行スルアランヲ

了リ又竊ニ彼ノヲツグノ賭ハ架空ノ舉ニアラ
ズシテ休養ヲ渴望スル己ノ身モ因果ノ薄運ノ
爲ニ導カレテ終ニハ世界ヲ八十日間ニ一周スル
ニ至ランモ未だ知ルベカラズト想思涯リナカリ
アリ然シテ權杖靴袋等ノ買賣物モ終リケレバ時猶
早シトテボンベー府中ノ衢街ヲ散歩スルニ其熱
闊太ダンク各國ノ歐人ニ交ルニ尖帽ヲ戴ク白
西人アリ圓巾ヲルパンヒヤス人アリ角冠ヲ
頂クシンド人アリ長袴ヲ塞グル亞耳米人アリ
黒帽ヲ穿ツノバルシ人アリ此日ハ正ニ是レ彼ノ
印土地位ニ於テ最モ怜恵端正文化、
願工ヲ以テ鳴リ今日ボンベーノ豪商モ多クハ此
種族ノ徒ニシテ連縛トゾロストルノ門ニ歸
依スルバルシースノ種族ノ祭禮ニシテ體怡モ
歐洲ノカルナバル祭ノ日本ノ祭禮ノ大同小異是矣
テ遊戲ノ事ニ至リ年中第ニ月日止ムト
弓ノ音律ニ乘じ顯然トシテ輕舞スル際更ニ醜態
アリ百般ノ遊戲アリ中ニモ婀娜タル少婦ガ
金銀ノ纏ヲ以テ織綻セシ輕羅ノ裳ヲ塞ゲ金鼓胡
弓ノ音律ニ乘じ顯然トシテ輕舞スル際更ニ醜態
アリ百般ノ遊戲アリ中ニモ婀娜タル少婦ガ
ヲ著サム等妙ナリ此奇異ナル祭禮ヲ見テ心
緒昏迷シ日ヲ圓カニシ耳側テ突兀併立セル
バスペルツーノ愚狀呈ス其奇態ハ蛇辨ニ涉
ルヲ以テ敢テ爰ニ贅セズハスバルツーハ不幸ニ
モ探奇ノ情致勃起シテ自ラ禁ズル能ハザリケ

ン主人大事ノ遠征ニ障碍トナランモ顧ルニ
違ナク何時シテ候ノ境ヲ踰エシヲ此祭
禮ヲ傍セシ後停車場へ行カントシテ彼ノ妙工
了リ又竊ニ彼ノヲツグノ賭ハ架空ノ舉ニアラ
ズシテ休養ヲ渴望スル己ノ身モ因果ノ薄運ノ
爲ニ導カレテ終ニハ世界ヲ八十日間ニ一周スル
ニ至ランモ未だ知ルベカラズト想思涯リナカリ
アリ然シテ權杖靴袋等ノ買賣物モ終リケレバ時猶
早シトテボンベー府中ノ衢街ヲ散歩スルニ其熱
闊太ダンク各國ノ歐人ニ交ルニ尖帽ヲ戴ク白
西人アリ圓巾ヲルパンヒヤス人アリ角冠ヲ
頂クシンド人アリ長袴ヲ塞グル亞耳米人アリ
黒帽ヲ穿ツノバルシ人アリ此日ハ正ニ是レ彼ノ
印土地位ニ於テ最モ怜恵端正文化、
願工ヲ以テ鳴リ今日ボンベーノ豪商モ多クハ此
種族ノ徒ニシテ連縛トゾロストルノ門ニ歸
依スルバルシースノ種族ノ祭禮ニシテ體怡モ
歐洲ノカルナバル祭ノ日本ノ祭禮ノ大同小異是矣
テ遊戲ノ事ニ至リ年中第ニ月日止ムト
弓ノ音律ニ乘じ顯然トシテ輕舞スル際更ニ醜態
アリ百般ノ遊戲アリ中ニモ婀娜タル少婦ガ
金銀ノ纏ヲ以テ織綻セシ輕羅ノ裳ヲ塞ゲ金鼓胡
弓ノ音律ニ乘じ顯然トシテ輕舞スル際更ニ醜態
アリ百般ノ遊戲アリ中ニモ婀娜タル少婦ガ
ヲ著サム等妙ナリ此奇異ナル祭禮ヲ見テ心
緒昏迷シ日ヲ圓カニシ耳側テ突兀併立セル
バスペルツーノ愚狀呈ス其奇態ハ蛇辨ニ涉
ルヲ以テ敢テ爰ニ贅セズハスバルツーハ不幸ニ
モ探奇ノ情致勃起シテ自ラ禁ズル能ハザリケ

堂外ニ出デ雙脚ノ全力ヲ煽シシケルニゾ
往來ノ土人ヲ煽動シナガラ踵ヲ慕テ逐ヒ來ル僧
侶トハ頗テ距リケル七時五十五分則は發車ノ
時刻ニ先ツ僅ニ數分ナル頃額ヲ顯シ徒跣ニ
シテ爭鬭ノ際誤テ品ノ包ヲ失ヒツ、遽ニ
テ、停車場へ驅込ミタリフヒキスモ此時フヲツ
グ氏ノ踵ニ尾シ來リ、乗車場ノ側ラニ立チア
リシガ彼が視テ好兒ト做ス人ハ今將ニボンベー
ヲ辭セントスルヲ見終ニ之ニ從テカルカツタ
或ハ其先何處迄モ同行セント決シケルバスバル
ツ一ハフヒキスノ爰ニ在ルヲ見ザレバ勿論ヒ
キスガ物陰ニテ猶聽スルモ知ラズ僕ハ主人ニ
已レノ即刻遭遇シ來リシ珍事ノ譯リヲ搔き摘
ンデ語リケルヲ聞ツ、フロッグハ列車ニ入テ已
恰レムベシ僕ハ心地惡亂徒跣ニシテ敢テ
レノ座ニ就キ靜ニ僕ニ對テ云ク「如珍事」
ハ再ビ汝ノ身上ニ生ゼザランノヲ冀望スト
怡レムベシ僕ハ心地惡亂徒跣ニシテ敢テ
一言ヲ發セズ悚然トシテ主人ニ尾シテ車中ニ
入ニケル

フヒキスモ亦列車ノ隣房ニ入ラント思ヒシガ忽
然發程ノ企ヲ變ズル念心頭ニ浮ビ獨言シテ曰
ク否ナ否ナ余ハ留ラン彼レ既ニ印土ノ境ニ於
テ唯彼ノ星學家ガ所謂ル一箇ノ重體地球ノ環
帶ナル軌道ヲ旋リテ一大圈ヲ畫スル者ト云ベシ
此時氏ハ腔裏ニ獨リ龍劇發程已來消耗セシ時間
シ時算シアリケルガ性質若シ贅元ノ動作ヲ爲ス
テ犯罪セリ故ニ彼ハ既ニ我手裏ニ在リト此時一
聲ノ汽管高ク響キテ列車ハ早ヤ暗夜黒幕ノ包

匿スル處トナル

第拾壹回

列車ハ定期ノ刻限ニ發行シ數名ノ武官文吏及
ビ阿片土醍等商業ノ爲當國東部ニ趣ク若干ノ
旅客ヲ載セリバスバルツーハ主人ト同房ニ坐シ
又其對榻ニ倚ル一客アリ是レ彼ノスエズヨリボ
ンベ一迄フヲツグ氏ト同遊ヲ事トセシ陸軍少
將ニシテ行テベナレースニ成スル軍團ニ歸投セ
ントスルフランシース、クロマルチ一氏ナリフ
ランシース、クロマルチ一ハ軀身長大毛髮微
年半歲五十歲ナアルベシ近頃民暴起ノ亂ニ屢々
武功ヲ立ツテ卅八年來功列車ニ入テ已
士ニ客遊シ其故鄉へ歸省スルハ太父稀ナルヲ以
テ印土產ノ稱アルニ至ル其博識諸學ニ涉ルヲ以
テ若シフロッグヲシテ印土地方ノ風俗歴史州郡
ノ治方等ノ訊問ヲ受لن人々タラシメバ必ず欣
然トシテ是ヲ語ルベシト雖此ノ紳士ハ敢テ一
事ヲ春ハズ氏ノ如キハ是レ行旅者ニ非ズシ
テ唯彼ノ星學家ガ所謂ル一箇ノ重體地球ノ環
帶ナル軌道ヲ旋リテ一大圈ヲ畫スル者ト云ベシ
此時氏ハ腔裏ニ獨リ龍劇發程已來消耗セシ時間
シ時算シアリケルガ性質若シ贅元ノ動作ヲ爲ス
テ犯罪セリ故ニ彼ハ既ニ我手裏ニ在リト此時一
聲ノ汽管高ク響キテ列車ハ早ヤ暗夜黒幕ノ包

是サヘモ無サズ唯沈然トシテ端坐シタリキゾノ
フランシース、クロマルチ一、今同行ノ偶ト
ナリシフロッグヲシテ観察セシハ唯其骨牌ヲ手ニシ
テ同遊セシノ間ニ混ルト雖疋早クモ奇僻家タル
ヲ曉リ氏ノ如キ外貌冷然タル皮膚ノ裏ニモ能
ク人心ノ包藏セラレテ怪然タルアリヤ亦氏ノ
魂ハ能ク造化ノ靈妙ニ感ジ榮毀ノ志望ヲ蓄フ
ヤト疑惑セルモ理ナリ此少將ガ嘗テ會合セ
シ奇僻家ノ最も著キ者ト雖モ是ヲ此フヲ
グニ比スレバ唯ニ三舍ヲ避ルノミナラジ
フロッグハフランシース、クロマルチ一ニ坤輿
周回ノ企テト其ノ由ニ根スル等ヲ打ナ
明ケテ語リケレバ少將ハ此賂ノ到底美ミ世ノ目
的モナク唯合歡ノ致ス所タルヲ見彼ノ稀世ノ才
人ノ行跡ニ就テ考レバ何處ニ至ル壬巳レニ利
リサルセツト島ヲ經過シテ大陸へ遷リカリヤン
ノ停車場ニ到テカダラブーナヲ經印土ノ東南諸
州へ岐行スルノ支線ヲ右ニ見テボーウエルノ停
車場ニ達ス此處ニ到テ車西部ガートノ山脈
數領ニ岐レテ綠樹其頂ヲ蓋ヒ曾テ噴火ノ力
ニ仍テ成レル峨々タル巖石萬丈ニ連なる重轡ノ間

ノ兩室時々互に數々ラニシガ少將ハ此時中
止數次ニ及ア談話ノ縷ヲ繕ギ「兩三年以前ニモ
候ハモ恐ク君ノ路線當所ニ於テ阻遮セラレ終ニ
君ノ志ヲシテ空シク畫餅ニ屬セシムルニ至ル
程ノ遲緩ヲ生ジ申スベキニトフヲツグニ語レ
バ フラック「夫ハ又何等ノ故ニ候哉 少將如何
トナルニ往時ハ鐵路此ノ重嶺ノ麓ニ止ルヲ以
テ 築壘或ハ騎馬ヲ藉テ是ニフラン此ノ山背ニアル
所ノカンダラノ停車場ニ至ラザルヲ得ズ フラ
ク 摘者ハ豫メ障碍アラソフ前知シ置キ
候ハバ其遲緩ハ敢テ摘者ノ豫定ヲ亂スニ足ラ
ズ 候也 少將ニハ今日此ノ從者ノひ
キ起セシ珍事ノ爲ニ一大紛擾ニ會シト爲シ玉
ヘリト云ヘド此時バス・ハルツ一ハ雙足ヲ裏ムニ
旅既ブ以テシ睡の方ニ濃ナリ爰ヲ以テ己レノ
評ヲ爲ス者アルハ夢ノダモ知ラザリケリクロマ
ルチ一ハ又云「英國政府ハ此類ノ犯行ヲ
罰スル」頗ル苛酷ナリ政府ハ第一印士人ノ宗教
所トナリセバト云ヲ半耳聞テフランハ靜
ニ關スル習慣ハ勿テ庶ガ是ニ崇敬ヲ加ヘ
コラムガ故ニ君リ僕ノ如キモ若シ警吏ノ捕
所トナリセバト云ヲ半耳聞テフランハ靜
ニ「彼レもシ不幸ニシテ警吏ノ捕ル所トナラ
バ至當ノ罰ヲ蒙リ處刑濟ノ後靜ニ歐洲へ歸郷
セシムベシ何ニヨツテカ彼レノ主人タル捕者ヲ

シテ該件ノ爲ニ遲緩セシムル所以ヲ知ラズ特
ヘケレバ談話エニ至テ復タ中斷ス列車ハ夜間ニ
ガート嶺ヲ跨エナシクヲ過ギ翌二十一日
稍ミ平坦ノカンティシユノ地方ヲ經過シタリキ
此邊ノ國土耕耘頗ル治キヲ得村落處々ニ散置シ
浮居ノ重塔ノ其上ニ屹立スルハ歐洲ニ於テ寺院
鐘樓ト一般ナリゴダベリ河ノ支流ナル數多ノ
細流アツテ此膏腴ノ豐饒ニ湯グバスピツハ
眠漸ク覺メ東窓ノ外ヲ眺望シ身ハ是レ大半島
鐵道ノ列車中ニ在テ印土ノ地境ヲ過ルヨ信ジ得
ズ彼レノ爲ニハ實トナラザル様思ハレケレド其
現實ナル是ヲ捨テ何ニカ取ランニ其機關車ハ
英國機關士ノ退進スル所ニシテ其黒烟ヲ噴テ
樹木、蘿菲樹、檳榔等ヲ捲スルモ亦英國
產ノ石炭ヲ用ニル所ニ因白汽ハ鑽鍵トシテ旋
リテ棕梠樹ノ籠メ其間ニ畫ケルガ如キノ田
金屋、僧院廢棄セラレテ人影ナキ者ハ印土建
築無盡ノ妙巧ヲ窮ヌ而其飾繁然タル寺院等々
トシテ各地ニ散在ス限ヲ轉ジテ遠キヲ眺メバ
曠原延亘トシテ涯リナク殷々タル車聲ハ岡陵
ニ潛ムノ巨蟹猛虎ハシテ慄カシムベク轍路ノ開
鑿貫通スル彼ノ鬱蒼タル深林ノ中ニハ猶群象
ノ往来スルアツテ汽車ノ黒烟ヲ噴ア疾走シ來ル
ヲ物思ハシキ眼ヲナシ必然トシテ望ム者アリ今

朝マリゴームノ停車場ヲ過ギテ昔シ女神女ガ
リーノ信徒ガ屢々生血ヲ澆ギタリシ不祥ノ國
境へ入ル
數字ノ佛閣アツテ行人ノ奇觀ヲ博スニ堪ルエ
ルヲラモ亦茲ヲ去ルト遠カラズ今日ハ唯ダ寂然
タルニザーム王國へ屬スル一州ノ小鎮タルニ過
ギザルモ昔ハ彼ノ殘虐人ヲ震動セシメシヲ
レンゼツツガ據テ首府トナシ名聲ヲ天下ニ轟カ
セシヲーロンガバツトモ甚ダ懸隔スルニ非ズ
彼ノ冥鬼ヲ祭ルニ託シ老弱男女ヲ誦セズ人ヲ
襲撃シ是ヲ害スルヲ以テ常トシ巧ニ追捕ヲ遁
テ又出ヅル所ノ醜賊ノ巨蟹タリシエリンゲ
アガ児童ヲ選ウセシモ亦此邊ニシテ當時至
ル處トシテ偶屍ヲ見ザル處ナキ程ナリシガ今
日ニ至リ英國政府方競意ニ此ノ暗殺ヲ防グヲ以
テ害ニ遭者大ニ減ズト雖氏猶此ノ慘禍ヘルベキ
ノ醜類會社未だ全ク殄滅ニ就カズト云
午前半列車ボルハムブルー停車場ヘ停リケレ
旅客ハ爰ニテ忙シク午餐ヲ喫シ末流カシペー酒
バパス・ハルツ一ハ金ニ飽カセテ潮クニ僞眞珠ナ
ドモテ繡飾セシ花青履泰足ヲ買求メ來リ誇氣
ニゾ之ヲ穿チケレ
リ旅客ハ爰ニテ忙シク午餐ヲ喫シ末流カシペー酒
バパス・ハルツ一ハ金ニ飽カセテ潮クニ僞眞珠ナ
ドモテ繡飾セシ花青履泰足ヲ買求メ來リ誇氣
ハルノ停車場ヲ差シテ起キケリ今少シク問ヲ

カンド二州ノ境界ヲナスサツトブール領ノ陝谷ニ入る翌十月二十二日クロマルチ一氏ノ尋問ニ應ジバスハルツ一ハ自己ノ時器ヲ見テ前年三時也ト對ヘタリ偕モノ祕境ノ時器ハ終始縁戚ノ子午ニ合セタル儘ナレバ當所ヨリ西ノ方七十有七度ヲ距ルヲ以テ相遲ルゝ事四時ナリキクロマルチ一ハバスバルツ一ガ時ノ先後ヘルヲ改メサセントテ義ニヒキスガ既ニ辨ジ聞カセシ説ト同士ヲ論ジ恆ニ東向ヒ則チ太陽ニ先ダツテ進行スルガ故ニ經度一度ヲ進每ニ日脚四分宛短縮ス因テ各地ノ子午線ニ隨テ時器ヲ進退セザルベカラザルノ理ヲ解サシメントストレビ更ニ效驗ヲ得ズ頑固ナル僕ハ少將ノ說夕所ヲ了か解セシカ因強情ヲ逞シ更ニ運動ノ時刻ヲ變ズルヲ「昔ハザルハ頑癖實ニ嗤フ」其タリ雖云他人ノ障害ヲナサマレバ又深ク咎ルヲ要キセズ

ラハバツドヘ達スルノ方略ヲコソ討議致シタキ
「ニゾト云クアノマルチテチキテ云ク「今
是ヲ前知セリ少將何ト云ヒ玉フゾ然ラバ君ニ
回ノ遲緩ハ實ニ以テ君ノ爲ニ障碍タル」疑
ヲ容レズヲツヅク否心ヲ勞シ玉フナ拙者豫ジメ
是ヲ前知セリ少將何ト云ヒ玉フゾ然ラバ君ニ
ハ轍路ノ中斷セル「ヲ知リ玉ヒシカフヲツヅク否
ナ決シテ然ルニハ非レド各般ノ身障遮ガ早晩起
ルベキハ拙者素ヨリ豫期セシムニセ況シヤ今日
ハ猶二十二日ナルニ香港へ向ヒ汽船ノカルカルツ
タヲ出港スルハ二十五日ノ正午ナリト對之加之拙
モ深ク自信シテ答へシ其言葉ニ對シ再び喙ノ事ニ
テ其出船ノ間ニ合ヒ申スベケレバ何等ノ失敗
モ恐ル、ヲ要セザルナリト對ヘケルニゾ程迄
者ハ是モ日ノ所得モアレバ是ヲ棄ル耳ノ事ニ
谷ル所ナカリケル然レヒ新聞紙ハ彼ノ急進
ル時器ト一概ニ兎角急進スル弊アルト以テ今
回ノ如キモ全線ノ落成シテ條ノ指揮シタリケル
ガ實地ニ就テ之ヲ見レバ線路此處ニ盡ルヤ現實
ナルガ故ニ旅客ハ概本此ノ轍路ノ中斷ヲ知リケ
ルヲ以テ客車ヲ降リ各自村内ニアル所ノ運輸
ノ具タル或ハ「バルキガリ」ト稱スル四輪ノ車

ニシテ背骨臼屹シタル牛ニ牽カシムル者或ハ形
チ神輿^{ヒメイ}ニ裝^{スル}タラ輦車或ハ籃輿^{ハシムイ}或ハ乘馬等ノ
手ウテ取り去リシヲ以テフヲツグクロマルチ
ノ兩士^{リヤウジ}ハ村中殘ル隈ナク奔走シテ捜索シタレ
ド終ニ一物モ發見セズ悄然シテ回り來リフア
イリス、フツツグ云ク「予ハ徒行センノミト此ト
キ主人ノ踵ニ尾^ビ來リシバズパルツ一ハ己レノ
幸ニ運具^{ハシマツ}ノ發見ニ奔走シ來リシカバ暫シハ躊^{ヒヤウ}
穿チタル華綺ナルモ更ニ堅牢ナラザル彼ノ花花草
履ヲ睥睨シツ、面ヲシカメアリシガ己レモ亦タ
幸ニ運具^{ハシマツ}ノ發見ニ奔走シ來リシカバ暫シハ躊^{ヒヤウ}
瞬シテ在リシガ偕^{ササ}テ云フ様某シ私ニ運輸ノ要
ヒ居候上人ノ御比^{ヒコ}居象ニコソト聞テフツツグ
具ヲ發見セシ様思ハレ候ナリフツツグ「夫ハ果
シテ如何ナル物乎^モバス「爰ヨリ百歩程彼方ニ住
候上人ノ御比^{ヒコ}居象ニコソト聞テフツツグ
ハ「然ラバ其象^ハ見ニヨシ參ルベシト云テ頓テ
五分時間モ過クル頃アリス、フツツグ、フランシース、クロマーチー、バスバルツー三人
ハ早ヤ一軒ノ矮屋^{カツヤ}ノ側ニ丈餘ナル高欄ヲ環
セシ巨柱アリテ屋内ニハ一名ノ土人欄内ニハ一
頭ノ象ガ住スル所へ到リ象^ヲ見度旨^{シテ}土人ニ告
ダレバ頓テ土人ハ三名ノ賓客ヲ導キ共ニ欄内ヘ
入りニケルガ三人ノ旅客ハ彼ノ半驯ナル巨獣ノ
前へ進ミケル元來ニ此の象^ヲ負擔^{スル}役ニ用ルガ爲
ニ非ズ唯闘爭ノ爲ニ畜フ所ナルヲ以テ天然其柔

ノ性質ヲ變ジ漸々印土ノ方言ニテ「マツツ」ト
稱スル屋外ノ居處ヲ帶シメントスルニアリ然モ此
變質ヲ催スニハ三ヶ月間之ニ喰ミシムルニ唯牛
酛ト砂糖トヲ以テスト此養方ハ前條ノ如キ結果
ヲ生ズルニハニシテ七ザルヘキガ如シト雖云土人此
方ヲ用テ能ク效驗ヲ得ルト云フ然ソ此象漸ク
昨今前記ノ食ニ就キ「マツツ」ノ萌シ未だ生れセ
ザリシハフツツグノ爲ニ甚大ナルキ其名ヲ
「キウニ」ト稱ス「キウニ」ハ他ノ諸象ト均シク數
里ノ長程ヲ快走シ得ルト他ニ騎スベキ隻獸ナ
キト此兩條ノ原由ニ因リ終ニ是ノ使用セント
決セリ然リト雖云方今該獸漸ク減少セントシ特
二種堀ノ場ニ登り闘争ニ及スルハ牡象耳ナルヲ
以テ人ノ才ヲ需ルヤ切ナリ該獸ハ捕ハラ
レテ人間ニ育ハルニ當テハ生殖スル「太
ダ稀ナリ是ヲ以テ山野ニ獵シテ捕フルニ非レバ
又タ得ベカラズ是故ニ人ノ是ヲ育フヤ注意頗
ル丁寧ナリ是ニ於テカフツツグ氏ガ初メ之ヲ借
ランノヲ望ムニ當テヤ土人斷乎トシテ固辭シケ
レバフツツグ固ク乞ひ且ツ約スルニ法外ノ高價
一時間十磅(五十弗)ノ割ニテ貨銀ヲ拂ハント
カズ四十磅(貳百弗)ヲ以テス猶固辭スル「元
ノ如シバスペルツツハ主人ノ賃格ヲ益スヲ曉

何
ト云フ價ソヤ是デハ象肉ノ燻グニ
スル者ナリ賣ノ約既ニ齊フ上ハ駄者ヲ僱バ
耳ナシリシガ是ハ象ヲ得ル程ノ難件ニハ非ズシテ
容怜タル一名ノナルシ人ノ年猶若キガ
來テ使役ヲ乞ヒケレバフヲツグ氏ハ是ヲ容ルシ
且是ニ賞金頗多與ヘンヲ約シケレバ愈々懲
相ヲ倍スベク見エニケル此ハバルシ人ハ能ク馬ニ
ノ職精シキヲ以テ一刻モ失ハズ象ヲ牽キ出
シ其背ヲ被ニ蒲團ノ類ヲ以テシ其兩側へ兩
箇ノ籃楊ヲ繫ギテ樂ニ見エヌド腰掛ニ勢勿タ
ル者ヲ造リテ發程ノ津浦ヲナシタリキ爰ニ於
テフヲツグハ彼ノ胴亂ヨリ銀行紙幣ヲ取出シテ
象ノ賣主へ與ヘケル之ヲ見テバスハルツノ愛
勸ケレバ少少乎此ノ巨額ノ力一客ヲ益スガ爲
惜真ニ己レノ五臟ノ裏ヨリ取出サルガ如キ色ア
リキフヲツグ氏ハフランシース、クロマルチ
ニアラハバツドノ停車場也此中並行する
勸ケレバ少少乎此ノ巨額ノ力一客ヲ益スガ爲
ニ若干ノ疲勞ヲ與ルニ非ザルヲ見テ其招キニ
ジケリ各種ノ糧食ヲコルビニ於テ購求セシ
上フランシース、クロマルチ一ハ一側ノ釣樹ニ
フヲツグハ他ノ釣樹ニ各々座ヲ占メバスバルツ
一ハ主人ト少將ノ中央ニ蒲團ヲ布キテ打チ跨
リかノ案内ノバルシ人ハ象ノ頸ニ路引テ此ヲ駆
シ第九時ニ象ハ此一行ヲ載テ村ヲ辭シ道ノ近キ

此邊あへんもちづけ地方ちほうハヴィンドヒヤス山さんノ連脈れんみや、四區よこく八
岐セシ所さきナレバ轍路わこうろノ開鑿かいしょくモ亦また自まことにラ羊腸ようぢょう
リフトツグダハ固ヨリ急いそ行旅行りゆこうナルヲ以テ路程りゆうじゆヲ
箱はこガタメめ現今築工最中げんきんちくこうナル新綱しんくわヲ右ニ見足みあしレ
彼ノバルシノ嚮導むこうしゆハ地方ちほうノ捷徑せきけいヲ暗ふとンジ山さんアリ
ヲ横ギリ蹠地てきじ行カベ二十里前後ぜんこう短縮たんしゆくスルト云ニ
任まかセケルフアイリス、フワツグ并ニフランシフランシ一
ス、クロマルチ一均ひとひらク彼ノ籠中のつぼなかヘ身體身體領迄りょうごく迄さへ
涇沒よがゆノ駄者だしゃノ鞭むち打驅驅たうしゆスル象背きょうひニ在テ身みすこぶ
激動げきとうセラル、モ互ニ相見あいルモ象背きょうひヲ隔離はなれガ故ゆゑニ
ニ漸クナレバ敢あテ談話だんわモナサズ只ただ彼ノ英人えいじんノ眞面まんぱん
面目おもてヲ著よシ更ニ醜ズル色いろモナク此體たいヲ忍耐しのぶシ
タリハス、ハルツ一亘二點背てんひニ跨路くらうヲ以テ其激動げきとう
動どうヲ受うけル頗ほ然ぜん甚ひそシケレバ主人しゆじんノ忠告ちゆうがく確守かつしゆ
シ慎恐しゆきようシ敢あへテ舌したばアシテ牙はノ問ニ仲サズ若わシ失ゆテ
齒牙かぎノ間ニアラシメバ齒關しかんシテ熟じゅくシ通つうヲ旋まわ
サジさじ或もハ一搖セラレテ象ぞうノ頭かしらニ突進つうしんシ或もハ
再搖セラレテ忽さわチ其尾端おひしニ遂と巡まわシ恰あモ彼ノ
經技師けいぎしノ徒むかわが薄板はくばんノ長橋ながはしヲ踏ふテ跳躍たのスル者ものト
一般ナレド壯漠さうもくハ笑謔止わらひマズ時々糖片とうぺんヲ襲申うしめ

ニ探テ是ヲ與レバ恰捌ナル「キウニハ毫モ駆驅ノ休憩ヲ放ルシケレバ恰然トメ近傍ニアリシ水溜リニテ渴ヲ緩メズ長鼻ノ端ニ承テゾ食ヒケル進行スル「貳時間ニシテ嚮導象ヲ駕メ夫ニ一時間ノ休憩ヲ放ルシケレバ恰然トメ近傍ニアリシ水溜リニテ渴ヲ潤シ草木ノ枝葉等ヲ喰ミ居リケルガクロマルチ一氏ハ疲勞ニ堪ヘオバ却テ此溜ヲ取出シトキト均シク更ニ困勞ノ色ナカリキ少将此狀ヲ見テ贊歎シテ云ク「嗚呼氏ハ鐵身ナルカト」パスバルツ一ハ難富ノ准意ヲシテ居是ヲ聞き真ニ鐵モ鐵ナリ鍛鐵ナリトゾ云ヒニケル正午嚮導復途ニ上ル風物漸ク荒茫鬱蒼タル此邊上ポンデルコンド懇瞰ハ彼ノ悲慘ナル印深林ハ去リ樹木ノ叢ニ次ギ小林父去テ之ニ遊歷家ノ經跡モ未ダ治カラズ殊ニ峨々タルヴィ次ニ冥々タル曠原僅ニ瘠草巨石之ヲ藏フアリンドニヤス山ヲ冀窟トシテ英人ニ抗スル酋長ノ歸服シタル地方ナルガ故ニ英廷ノ威武未だ全ク之ヲ化スルニ至ラズト此日モ既ニ巨象ニ巨象ニシメ成リタケハ避ケテゾ打過ギケル禽獸ノ類ハ出テ遭フ其ダ稀ニ偶マ猴界ノ人ヲ見テ醜ル士人ノ群ニ幾度トナク遭ヒケルガ嚮導ハ不虞ヲ誠シメ成リタケハ避ケテゾ打過ギケル禽獸ノ類ハ出テ遭フ其ダ稀ニ偶マ猴界ノ人ヲ見テ醜

顔ヲシワヌメ轉顛シテ逃ゲ惑フ者アリケレババス
バルツ一ハ是ヲ見頻リニ打興ジケリ此壯漢ハ
凡シノ憂思ヲ酸シケル其ニモアラハバツトヘ
到着ノ上ハ主人彼ノ象ノ果ノ何トナスナラン奉
テ往クベキカ否其購求ノ代金ニ加ルニ運送入費
ヲ以テセバ身代済シノ代物ナリ是ヲ賣ランガ將
タ之ヲ放タンカ貴重ノ良獸何ゾ愛育セザルベ
ケンヤ萬一主人ガ是ヲ己レニ興ミ與ヘンダ云
「アラバ其の所置ニ困ル」涯リナカラシント獨リ
取り越シ苦勞ラズシタリケリ斯テ午後八時頃ニ
ハヴィンドヒヤス山脈ノ難所モ既ニ踰エテ其北
面ニ一軒ノ壊レ屋アルヲ見出シ爰ノ宿ヲ投ジケ
ル然シテ今日經過ノ里程貳拾五里ニテ恰モアラ
ハバッドノ停車場迄ノ道程ノ半ナリキ此夜ハ
寒氣殊ニ嚴シカリケレハバルシ枯枝ヲ室中ニ焚
キ諸客稍々暖ヲ取り各々強ク空腹ヲ覺ケレバ曩
ニコルビニテ購求セシ糧食ヲ取リ出シテ飽
食シ了リ初めハ脚踏タル三語ノ談説ノ聲モセ
シガ頓テ鼻息ノ響ヨリ外ニ聲モセザリケリキ
櫛導ハ獨リ「キウニノ」立チ秃株ニ凭ル
僅ニ眠リニ就キニケリ時ニ遙ニ彪鹿ノ長鳴ス
ル聲及ビ猿猴ノ叫笑スル響キノ聽ルノミニシテ
四隣寂然タリ猛獸ノ如キモ只怒號スル耳ニシテ
敢テ襲來スベキ狀ナケレバ長夜慄然タリフ

ソシース、クリマチーへ寝園ノ餘リ熟眠スル
状彼ノ豪腕ノ武人ニ負カズバスバルツハ晝
間ノ激動再び夢裡ニ感ジ眠リ頗ル穏ナラズ
フヲツグハ酣眠頗ル穏ニ恰モサザヒルロト
翌朝六時エ程ノ發シ御豫豫メ即夜バラバツ
ドノ停車場ヘ達セノヲ期ス之ニ因テフヲツグ
ハ龍動發程ノ首メヨリ減節シ來レル四十有八時
間ヲ全耗セズ猶ホ其一部ヲ贏スベキ割ナリ
漸クニシテヴィンドヒヤス山嶺ノ麓ヲ離レキ
ウニ又其歩法速ニシ午時ガンジユ河ノ支流タ
ルカニ川ノ畔ニ沿ウタルカレンシヤルヲ迂回
シ芭蕉樹ノ小森アル其下ニ憩ヒ其果ヲ採テ食フ
ニ美味乳酪ニ均シケ滋納彌包ニ譲ラズ行人甚ダ
之ヲ賞ス者テ禪尊ハ却テガンジユ大江沿流ナ
ル人烟絶跡地ヲ安寧ナリトシ務メテ土地占居
ノ地ヲ避ケタリ此處ヨリ東北へ向ヒ十二里ニシ
テアラハバツドニ達ヌ午後二時鬱蒼タル綠樹
陰蔽ニシテ延亘數里ニ暨ブノ一徑ヲ過シハ則チ
樹陰ヲ愛シテナリ尤ニ至ル迄不快ノ遭遇モ
ナク行旅安泰ニ了局セント恩ニル時何ヤラン
虞ル處アル如ク象ハ突然歩ヲ輻メケレバクロ
マルチ一ハ怪シミニタヘズ籠ノ上ヘ頭ヲ擧ゲ
テ「何事ゾト問ケレババルシ人ハ耳ヲ穿ナテ深

「ゼビュス」牛二似^{アシ}背^{カタ}凸^{カク}ヲ以テシ其上ニ安置スルニ一箇ノ偶像ヲ以テス其像タルヤ身體塗ルニ濃^{コトハ}也^トテ染ルニ似^シタリ領ニハ朝^{カマ}首^フシテタルモ及ヒ死沒ノ神ナリバ^スアルツ之ヲ連^シタル帶^ハ締メ足^シ無^シ頭ノ巨尾ヲ踏^ミシテ立^タリケル是ヲ見テクロマルチ^ハ私語^ム云ク「是神女^カリニシテ^{シテ}慕^シ死沒ノ神ナリバ^スアルツ之ヲ聞テ云ク神ナル^ハ僕^シシテ承^ム伏セズ^ト此時^ハパンシ手ヲ舉^テ黙^シテ^シシタリ^ハ僕^シシテノ周^ヘ闇^フ肩摩^シ擊^スシテ環^シヌル頑^{タガ}ノ老徒^ハ黃土^色ノ袈裟^ヲ虎斑^{アル}ヲ肩^ニ懸^ケ神ニ供^スフルテ刺^シ殺^スノ流血淋漓^{タル}膚^ヲ露^シタルノ輩ナリ此徒^ハ狂^穢ノ餓^リ甘^ジシテ身ヲ神輿^ノ轍^下ニ推^キテ冥福ヲ得^ト云^フ其後ニ隨^フハ數名ノ^アラマ門徒ニシテ各々燐然タル華衣ヲ着^フ飾^リ立^歩モ漸^クナル一名ノ婦人^ハ牽^立來^ルナリ其婦人^ハ猶妙齡ニ色彩^白ク歐^ア婦ニ異ナラズ其頭^ノ髪^ア其方^ノ腰^ノ肩^ノ耳^ノ腕^ノ其指^ノ足^ノ指^ニ至^ルマダ領^シ飾^リ腕環^シ

環わる
環珠類寶珠ヲ以テ埋ムル如ク身ニ穿ノ衣ハ
金光爛々タル錦繡ニシテ纖々タル輕羅ノ是ラ
蔽フアツテ嬌姿自ラ窈窕タリ少婦ノ後ニ踵
き来るハ腰ニ鎧刃ノ長劍ヲ横タヘ帶ニ短祫ヲ
挾ミシ鍔護ノ暴大ガ轍中ニ一屍ヲ載セ來ル者
アリ呼何ゾ彼ノ紳然タル少婦ト反對ノ茲ニ至ル哉其屍八年既ニ高キ印度酋長ノ體ニシテ
是ニ被ラシムルニ眞珠ヲ出繡セシ帽子及ビ
ノ衣ヲ以テシ編珠焰々タル帶并ニ印土貴神ノ
愛護スル精美ノ兵器ニ至ルマデ都テ生者ニ於ケ
ルガ如斯ニ其又後ニ從來ルハ伶人一隊又續テ
一群ノ頑徒が差シモ唯ビスマキ音樂モ爲ニ蔽
ハル、計リノ破れ鐘ノ如キ叫聲ヲ震シ來ル者ア
リ正シク行列ノ後押トゾ見エニケル
フランシス・クロマルチー氏ハ此ノ儀仗ヲ覽
悽愴トゾ櫻導ノ方ニ向ヒ「嗚呼」スツチカト
ヘババルシ人ハ打點頭キ指ヲ脣ニ當テ、ち
黙ヲ請ヒケル此時陸續タル行列モ緩カニ樹間
ヲ過シテ後押ノ群モ蚤牙深林ノ中へ入テ影
ダニ見エズナリ承歌漸ク遠ザカリテ細々タ
樂聲猶遙ニ林ニ響ケテ微々タリ今也前ノ喧囂
タルニ次ニ颯々タル風聲嗜々タル鳥聲アルノミ
フヲツグハクロマルチーノ一語ノ仔細アリゲナ
フル開キ行列ノ景見エズナリケル時「スツチ

下ハ何物ニテモ候マサニヤトモ候マサニビレバ少將ハ答マサニテ
「スツチトハ自ラ志願スル人犠ト云フ義ニテ
今君ノ見玉ヒシ彼ノ婦人ハ明朝拂曉ニ茶毬ノ
烟ト消滅スベクニテモ候マサニナリバスバルツ一ハ憤
瀧ニ堪カヘ兼カネアカ呼アカ何等ノ醜類ゾトフラツグハ
又問ウテ云ク「然シテ彼ノ屍骸ハ誰ナル哉タマニ禰導
答マサニテ云ク「是ハ當ボンデルコント州ニ君臨セシ
則チ彼ノ婦人ノ所天ニニシモ候マサニナリト聞ケド
フツダハ哀憐ヲ催セシヤ否ナ音聲微濁ハタハタヲ帶ビ
ズ復タ云フナウ「如何ニ此等ノ蠻俗アマヌシ印土ニ依
然タルハ英人ヒトノ力未だ能ク是ヲ扶攘スルニ至
ラザルカ少將印土チ大概ハ此ノ蠻俗アマヌシノ習
既ニ斷エタレドモホンデルコンドノ如キ野蠻ノ
邊陲ハ猶我大英國ニ歸服スルテザル故ハシメヴィンドヒヤ
ス山以北ハ渾カミテ殺戮侵掠スルノ慘劇場トコソナリ居
リ候ナリバスバルツは是ヲ聞テ愁然トメ「生
ナガラ焼カル、「カナト私語スレバ少將ハ再び
語ルヤウ「燒死スルハ眞ニ哀れムベシト雖ハ若
シ然ラズハ彼ノ婦人ハ社會ニ立チテ如何ハナル
憂キ目ニ遭テ終生苦ハ嘗ムル君ノ想像シ得
ザル處ナリ余其所以ハフ述ハ人先ハ其頭髮ヲ削
リ之ニ喰マシムニ僅力兩三握ノ米ニ過ズ其之
ヲ視ル恰ハ臭穢アカシノ如ク終ニ狂犬ト一般ノ辯ニ
テ溝壑ニ顛躉スルヲ免レズ是故ニ此悲慘ナル生

ヲ營マニヨリ靈ロ酷刑ヲ甘受セントテ不得止死
ニ就ク者同穴ヲ渴望シ教門ニ頑凝シテ是ニ至
ル者ニ蹕ニ又時シテ眞實ハ是ヲ志願スル者モナ
キニアラズ既ニ某シボンベーニ在リシ時妙齡ノ
寡婦夫ノ屍ハ共ニ自燒スルヲ許マサニサレン「ヲ願フ
者アリ政府固ヨリ其願ヲ承認セズ茲ニ於テ該
婦府中ヲ耽シ去マサニ一個ノ獨立會長ノ許ニ投ジ終
ニ犧マサニ神ミヲ果セシ者アリト此物語リノ中懶
薄首ヲ掉テアリシガ其終ルニ暨マサニ云ク「明朝
拂曉ニ犧ト消ニ爾婦ハ自ラ是ヲ願フ者ニ候ハ
ズフツダハ如何シテ知り得ルゾ「パルシ」是
ハボンデルコンド閩州ノ人ハ治ク傳ハ知ル哀レ
ナ謂ニテモ候マサニナリフツダハ然レド可哀サウナ
ル彼ノ婦人ハ少モ抵抗スル態ナキハ又何故ハシメゾヤ
トモ候マサニハシタル烟リ當體精神ヲ昏
迷セシメラレシニ因リハシメ候ナリフツダハ然シテ
何處ニ誘ヒ行クハシメヤバルシ「此處ヨリ貳里計リ
ハ既ニ麻ト阿片ヲ薰ジタル烟リ當體精神ヲ昏
ハ就リ難カラハシメ故フツダ氏ハ此舉ニ就ニ當リ
トモ候マサニハシタル烟リ當體精神ヲ昏
先ハ身命ヲ孤注トシ候マサニ幸ニモ害ニ遭ハザル
モ醜虜ヲ捨トナリ終ニ周坤ノ忠ヲ成サマラ
ンモ計ハシメルベカラズ然レド幸ニモフランシス、
クロマルチハシノ豪邁能ハシメク之ハ輔翼タルアリバ
スバルツハニ於テハ主人ノ義氣ヲ激セラレ水火
ノ中ニ投ズルモ正ニ辭ハシメセザル者ハ如ク冷然冰ノ
ト雖ハ是ハ禰導ノ志未ハシメ知ベカラズ印土ノ黛

ニテモ候マサニト谷ハ立チ深樹ノ中ヨリ象ヲ奉出
シ其領ニ跨り既ニ嘯ハシメテ象ヲ進行ハシメ促ハシメサント
歎慕スルハ益々切ハシメリケレバ愚ハシメテ以持ムベシ
ト雖ハ是ハ禰導ノ志未ハシメ知ベカラズ印土ノ黛
タラザランヤ假令其助力ヲ得ザルモ亦是ハ中立
セシメンハ緊要ナリキ爰ハシメニ於テクロマルチハ氏
八寸毫毛ヲ祀ハシメセ其向ハシメ所ヲ問ハシメバ禰導ヲ云

第拾參回

ニ至レバ既ニ頑徒ノ叫聲分明ニ聞エケリ此時ニ
我ガ染各々儀姉ニ近クノ方略ヲ議スルニ擲
導ハ其堂ノ景況ヲ知レリ且ツ少婦ハ籠メラレテ
金堂ニアリト云フ護卒ノ熟醉醉眠ニ乘ジ一局
ヨリ潛入スルヲ得ベキカ或ハ堂壁ノ一面ヲ穿
テ入ルベキヤノ策ノ如キハ實地ニ就クニ非サレ
又渾沌スベカラズト雖疋曉天ニ至ラザル前夜
陰ニ乘ジ奪ヒ去ルニ非ズンバ天既ニ明ケテ少婦
ノ死地ニ臨ニ及デハ人カノ何故ノ能ク之レヲ萬
死ノ心ニ至ニ拯ヘコトヲ得ベケンヤ是故ニフラツグ
以下八日ノ暮ルヲ待テ夜ニ入ルヤ否ヤ佛寺ノ周
園ヲ視察セント決セリ六時頃ヨリ以後ハ土人
隣習ニヨツテ俗僧共ニハングノ氣ニノ中混合セ
シ腰袋沈澁シ四邊ニ浪藉タレバ其間攬轡ニ潛行シテ
焚ケル炎火ノ光ニ透シ見レバ薪草ノ烟リトシ
堂内へ近キ得モ知ルベカラズトヲツグ氏ク
ロマチ一氏バスバルツイ等ヲ示テ鶴導ハ解
ニ林ヲ出テ十分斗リニシテ小川ノ畔ニ至リ松脂
ヲ焚ケル炎火ノ光ニ透シ見レバ薪草ノ烟リトシ
テ堆キ者アリ是レ夫ノ貴キ白檀ヲ重ネ之ニ澆
グニ香油ヲ以テセル露露ニ供スル薪堆ナリ是上
ニ横リシハ則モ翌朝寢崩ト共ニ一縷ノ烟リト
消エントスル酋長ノ屍ナリキ是ヲ距ル「百歩
斗リニシテ佛寺アリ其の後タル實木ハ高ク聳テ
橋木ノ間ニ屹立セリ鶴導聲ヲ低テ來リ玉ヘ

ト云ヒツ、三人ノ先ニ立チ益ミ戒心シテ靜ニ深草ノ間ヲ潛過シケル此時夜陰蕭索只之ヲ攬ス者ハ颶々タル風ノ枝葉ヲ戰ガスアルノミ頃テ禪導ハ寺苑ノ一隅ニ留リテ閃々タル烽火ノ廣苑ヲ照スニ因テ其形狀ヲ通覽スレバ地上處トシテ老幼男女ガ相扶共進酒肴シテ醉眠スルノ群ナラザルナルク其中兩三ノ醉戻ガ幽ニ呻吟スル聲ノ聞ユルハ殆んど劇戦ノ場ニ僵尸ノ横ハル者ト一般ナリ其後ニ當テビラジノ佛院ハハシテシテ少焉ノ間ニアリ近テ之ヲ脚メハ僧長ノ護兵ハ白刃ヲ按ジ燄光暗淡タル篝火ノ下ニノミテ門戸ヲ護ルヲ見ケレバ堂裏ニモ皆僧侶ノ徹夜看護スルアラント思へハ鶴導等ノ失火矣メテ立談ス少將先づ雲ク猶八時ナリ夜半ニ至譬ルニ成ルベカラザルヲ察シ互ニ歩ヲ止メ聲ヲ潜成リガタキヲ曉リ敢テ進マズ諸子ヲ率キテ遂巡シケルフアイリス、フヨックグ、フランシース、クロマルチーモ亦同ジク此方面ヨリハ製トモ事ノ成ルベカラザルシ人ハ堂内へ潛入スルノ到底。如何ニモ左アルベシテフアイリス、フヨックグシ夜ノ更クルヲ待ニケル嚮導等モ亦睡倒スルナルベシバルシ人云ク如行テ窓フニ驚き卒ハ依然警備ヲ怠ラズ又歎々レテ

タル燈光ノ堂窓内ニ漏るゝアリ待テ夜半ニ及ブモ音備依然タリ之レニ據テ考ルニ護卒ガ「ハング」ニ醉テ昏倒セントハ説ムベカラザレバ他ニ方略ヲ旋サヘルヲ得ス佛院ノ一壁ヲ鑿テ潛入セシカ堂内ノ僧侶が堂前ノ護卒ト均シ克夜シテ犠婦ヲ守ルアルヤ否ヤ知ルニ由ナシ是ニ於テ懇導再び佛院ノ一壁ヲ鑿グ、クロマルチー、バスパルツーノ諸子ヲ導キ迂回シテ背晝ニ至ラントスニ隻影ヲ見ズシテ十二時半佛院ノ背晝ニ達ス此方ニハ一個人體固ダモ無シト雖毛亦更ニ潛入スベキノ局窓ノ類アルナシ一鉤ノ輪月ハ將ニ山端ヲ離レントスルニ早ヤ飛雲ノ爲ニ遙ラレ加之喬木ノ蔽アルヲ以テ夜陰頗ル暗黒ナリ豈ニ空背ニ近キタルヲ以て足レリトスベケンヤ其壁ヲ鑿テ一箇空穴ヲ洞クフ要ス此工ニ就ニ當テフロツグ以下持チケル器具トテハ只懷裏ノ小刀アルノミナレド幸ニノ堂壁ハ煉化石ト木トアリシ所ノナレバ洞鑿甚大カラズ初メ一片ノ煉化石ヲ抜却スルを得バ餘ハ從テ容易ニ抜取スルヲ得ベシ是ニ於テ精々響ヲナサル様心ヲ用テ其工ニ着手ス鶴道トバスヘルツーハ左右ニ分レテ煉化ヲ抜却シテ二尺有餘ノ一竅ヲ開クト強スルヲ以テ工事愈々進マントスル際堂中一聲忽チ叫ブ

マルチー等モ避テ再び樹下ニ潛ミ醫戒消散スルテ又去ラザレバ工事半途ニシテ妨碍セラレシ四トスニシテ洞壁ノ舉ニ着手センストス嗚呼何ソ機會ノ惡シキヤ護卒後來テ茲ニ鬱勃シテ又去ラザレバ工事半途ニシテ妨碍セラレシ四ヲ待テ再び行テ洞壁ノ舉ニ着手セントス嗚呼何ソ機會ノ惡シキヤ護卒後來テ茲ニ鬱勃シテ又去ラザレバ工事半途ニシテ妨碍セラレシ四人ノ失望紙筆ニ盡シ難シ今ハ早ヤ犠婦ノ側ラヘヲ得ベケン哉兎ニ角クロマルチー氏ハ彼ノ殘忍ニ達ス此方ニハ一個人體固ダモ無シト雖毛亦更ニ潜入スベキノ局窓ノ類アルナシ一鉤ノ輪月ハ將ニ山端ヲ離レントスルニ早ヤ飛雲ノ爲ニ遙ラレ加之喬木ノ蔽アルヲ以テ夜陰頗ル暗黒ナリ豈ニ空背ニ近キタルヲ以て足レリトスベケンヤ其壁ヲ鑿テ一箇空穴ヲ洞クフ要ス此工ニ就ニ當テフロツグ以下持チケル器具トテハ只懷裏ノ小刀アルノミナレド幸ニノ堂壁ハ煉化石ト木トアリシ所ノナレバ洞鑿甚大カラズ初メ一片ノ煉化石ヲ抜却スルを得バ餘ハ從テ容易ニ抜取スルヲ得ベシ是ニ於テ精々響ヲナサル様心ヲ用テ其工ニ着手ス鶴道トバスヘルツーハ左右ニ分レテ煉化ヲ抜却シテ二尺有餘ノ一竅ヲ開クト強スルヲ以テ工事愈々進マントスル際堂中一聲忽チ叫ブ

ル所ヲ尋セントスレドモ解スルニ由ナシ此沈殿者アツツ戸門外ノ樂聲之ニ應スバスバルツーハ及ビ鷹導ハ忽チ工ヲ輟ム發見セラレシカ或ハ衛ヲ傳ヘシャ判然タラズト雖正戒心最モ疏ナル輩ナレモ猶遺サカラザルヲ得ズ故ニフロツグ、クロマルチー等モ避テ再び樹下ニ潛ミ醫戒消散スルテ又去ラザレバ工事半途ニシテ妨碍セラレシ四ヲ待テ再び行テ洞壁ノ舉ニ着手セントス嗚呼何ソ機會ノ惡シキヤ護卒後來テ茲ニ鬱勃シテ又去ラザレバ工事半途ニシテ妨碍セラレシ四人ノ失望紙筆ニ盡シ難シ今ハ早ヤ犠婦ノ側ラヘヲ得ベケン哉兎ニ角クロマルチー氏ハ彼ノ殘忍ニ達ス此方ニハ一個人體固ダモ無シト雖毛亦更ニ潜入スベキノ局窓ノ類アルナシ一鉤ノ輪月ハ將ニ山端ヲ離レントスルニ早ヤ飛雲ノ爲ニ遙ラレ加之喬木ノ蔽アルヲ以テ夜陰頗ル暗黒ナリ豈ニ空背ニ近キタルヲ以て足レリトスベケンヤ其壁ヲ鑿テ一箇空穴ヲ洞クフ要ス此工ニ就ニ當テフロツグ以下持チケル器具トテハ只懷裏ノ小刀アルノミナレド幸ニノ堂壁ハ煉化石ト木トアリシ所ノナレバ洞鑿甚大カラズ初メ一片ノ煉化石ヲ抜却スルを得バ餘ハ從テ容易ニ抜取スルヲ得ベシ是ニ於テ精々響ヲナサル様心ヲ用テ其工ニ着手ス鶴道トバスヘルツーハ左右ニ分レテ煉化ヲ抜却シテ二尺有餘ノ一竅ヲ開クト強スルヲ以テ工事愈々進マントスル際堂中一聲忽チ叫ブ

颶トシテ排フキ内ヨリ漬ト漏出ル燈光ノ下ヨリ
出テ來ルハ則ニ犠牲ニ供スル少婦ガ兩個人僧
即ニ扶ケラレテ堂外へ出ルナリ是ヲ望ムニ一
手ヲ脱セントアセル者ノ如シ之ヲ見テフランシ
ース、クロマルチ一ハ心懃想致ケントシテ搖ギ立チ少婦ハ又
ファイリス、フヲツグノ手ヲ握リケレバ豈斗ラ
ン氏ノ手裏ニ冷然トソ露刃ノ小刀アルヲ感ジケ
ル此時滿庭ノ衆庶靡然トシテ搖ギ立チ少婦ハ又
再び麻實薰氣ノ爲メ昏迷セラレ頑徒ガ絶叫
經文ヲ唱ヘテ護送スル其央ニ立テ過ギニケル
ファイリス、フヲツグ以^ヒ上諸子モ亦頑徒ノ後へ
ニ尾シテ扈從シ二分時間程ニテ彼ノ小川ノ傍
ノ屍體ノ傍ニシテ火種薪草^{ヒヨウイヌカ}ヲ距ル「五十
歩斗リノ所ニ止リテ暗淡タル蔭ヲ透カシテ窺
木片何ゾ時ラ選スベキ忽チ藝々タル猛火トナ
ニ至リ曾長ノ屍^{シロカニシル}ヲ見ル然^シ頓テ一條ノ
炬^{ヒヨウ}ヲ秉テ火ヲ積薪ニ近クレバ膏油ノ浸潤セル
ヘバ少婦ハ既ニ死體ノゴトク動キモセゼニ故夫
ノ屍體^{ヒヨウ}をかばひ^シシヤシタルヲ見ル然^シ頓テ一條ノ
ツテ燃エ揚リケル此悲慘ノ狀^{ヒヨウ}ヲ看ルニ忍ビズ
心緒モ亂レテ狂顛シフヲツグハ身ヲ跳セ既ニ
抑留スルヲ排シ又タモ驅出ダサント狂フ時景
嶺堆ノ方へ走ラントスルヲ漸クニシテフランシ
ース、クロマルチ一嚮導^{ヒヨウ}ノ兩人ガ驚テ之^{ヒヨウ}

第十四回

シテ怒號シツ、遂に忍び來り忽然一個ノ彈丸ガまゝ
テフヲツグノ帽貫キシニ就テ察スレバ謀略
既ニ暴露スルヤ明矣果シテ爵位等稍卑賤ノ脱
シテ餓々タル新羅ヲ見レバ曾身ノ屍ハ依然ト
シテ茲ニアリ是ニ於テ初メテ奪掠ノアリシワタ
リ誘惑ノ徒ノ林中ニ走ルヲ見護卒其之尾シ銃
・彈ヲ亂射シタレ由諸子ノ速クモ遁逃スルヲ以テ
頓テ銃丸弓矢ノ達セザルノ所ニ距リタリ

深林ノ間ヲ疾走シビラジノ寺ヲ出テヨリ凡ソ
一時間モ過ギケル頃ハ、冥々タル廣野へ出で七
時頃歩フ駐メ休息シケルガ少婦ハ昏倒人事ヲ
知ラザレバ、櫻導華清水ヲ抱シ之ニ少ク火酒ヲ
加味メ飲マシムレド麻酔ノ勢力猶未ダ散ゼズ
フランシース、クロマルチ一ハ麻ノ薫氣ノ人ヲ
昏倒スル效能ノ度ヲ熱知シタレバ少婦ノ全快
スペキハ更ニ疑惑セド深ク少婦ノ爲憂患セ
シハ其將來ノ危險ニテアリキ故ニ取テ包ム所
ナクフロツグ氏ニ告ルニ僕シアウダ女ノ印土地
ラスボンベーカルカツク等ノ地ニ於ケルモ猶能
方ニ留ランニハ再びゾ彼ノ殘忍ナル土人ノ
毒手ニ陥ルベシ且ツ此頑徒ハ印土全邦ニ散在
スルニ因テ英國警察ノ嚴密ナルヲ冒シテマド
意見ニテハ少婦印土ヲ辭シ他邦ニ移ルニ非ザレ
バ安康ヲ得ル策ナシト語ルヲ聽テフロツグハ其
意見ニ應ジシテ免ニ角筈策ヲ施スペシト
對ヘケルモ猶然タリキ
十時ニ垂ントスル時櫻導アラハバツドノ停車
場ニ着キシト告ゲニケル
半途ニメ中止シタル鐵路モ此ノ地ヨリ再び連續
シ晝夜ヲ出デズシテ列車カルカツクニ達スベ

シ故ニフヨツグ氏ハ翌十月二十五日正午香港
ヘ向テ出帆ノ郵船ヘ乗込ムニ十分ノ時間ヲ贏
ス皆ナリケリ停車場ヘ着キ先ヅ少婦ヲ一室へ休
マセ置キフヨツグハバスペルツニ衣服調度何
クレトナク美ナリト思フ品々ヲ購求シ來レト命
ジ且散金ヲ厭フ「ナキヲ以テスババ」ペルツ一片
時ヲ移サズ馳市中ヘ行キ衢街ヲ奔走シタリケ
ル元來此アラハバツドハジョンナガンジユ兩
敬ス所トナリ全國ノ信徒陸續トシテ四方ヨリ
流ノ聖江ノ會合スル時ニ屹立スルヲ以テ神聖
ノ府ト稱セラレ印土地方ニ於テ最モ衆庶ノ崇
元來此アラハバツドハジョンナガンジユ兩
敬ス所トナリ全國ノ信徒陸續トシテ四方ヨリ
流ノ聖江ノ會合スル時ニ屹立スルヲ以テ神聖
ノ府ト稱セラレ印土地方ニ於テ最モ衆庶ノ崇
敬ス所トナリ全國ノ信徒陸續トシテ四方ヨリ
來拜スト云云「ラマヤナノ傳説スル所ニヨレバ
ガンジニ河水ハ源ヲ天ニ發シプラマ教祖ノ惠
ニ因テ降テ地上ニ流ルト云

裘ノ麗華ナルヲ見テ其價七拾五磅(三百七
拾五圓)ナルヲ不貲買取リテ意氣揚々トシテ
停車場へ向ひ來りケル此時アウダ女ハ裘ニピラ
ジノ寺僧ガ之ニ當テシ麻婆ノ氣效モ漸々ニ消エ
失セ少シクニ回リシ者ノ如ク稍怠眼ヲ見開ク
ニ其明眸ノ溫柔ナル眞乃然外リ曾テ能詩ノ君也
エカフヲツトールガ其妃ノ美ヲ稱揚シテ贊歌
セシアーメナガラモ斯クヤアラント想像セラレ
タリ其歌ニ云ク
光澤タル雲鬢新ニ梳ツテ頌レテ兩額
ニ垂レ洋芋トシテ輝姫タル花朧ヲ包ミ皎々
タル玉渦ヲ擁ス兩鈞ノ翠眉宛轉トシテ
司懸神女カマノ弧ノ如ク絹カト恠シマル、
長脛ノ間秋水カト疑ガハル、矯眼ノ朱唇ニ
明眸ノ爛然タルハ恰モヒマラヤ峯頭聖湖ノ
面ヘ輝々タル天光ノ映ズルガ如シ其嬪然ト
メ一笑スルニ當テヤ璀璨タル晴窗ノ朱唇ノ
二見ハル、ハ半開ノ榴花ガ白露ヲ含ムニ
髣髴タリ艷タル其耳櫻色タル其纖手窈窕乎
トシテ蓮萼ノ新ニ水ヲ出ルカト疑ハル、
其嬌足ニ至ル迄満身ノ麗色玲瓏トシテ錫
蘭ノ眞珠ゴルゴンドノ金剛珠ト艶光ヲ爭フ
ベシ一握以テ環ラスベキ裏々タル柳腰ハ眞
ニ是人生ノ至寶タル妙齡ガ今全盛、麗華

ヲ暢發シテ輕勝ヲ添へタル嬌容姫娜タル
豊胸ヲシテ愈々麗麗ヲ益サシム綾羅ノ
輕裳ヲ穿チ立タル芳華ハ彼ノ萬古不朽ノ肖
像師ビヒクバカルマノ靈妙ヲ凝ラシテ鑄造
セル純銀ノ像カト怪シマル矣

假令藻詞ノ喋々トシテ之ヲ稱讚スル「ナキモ
ボンデルコンドノ故故長ノ寡婦アウダ女ハ是レ
眞ニ伉儷ノ佳人ニシテ英語ノ能クシニバルシ
人ガ之ヲ稱シ教育ニ因テ豹變セリト云ヒシモ
眞ニ過當ニ非ラザリケリ兎角スル内既ニ發車ノ
期ニナリケルガフヲツグハ最前ヨリ待チ居タル
ハルシ人ヘ約束ノ賃銀ヲ與ヘ之レニ一錢ノ酒代
スラミヘネババスバルツーハ此嚮導者ガ身命ヲ
擲テ力ヲビラシノ事件ニ盡シ倘シ將來士人
ガ彼レ其事ニ關セシヲ知ラバ彼レハ如何シテカ
其懶懶ヲ免カルハ得シノレバ主人ハ是厚ク
賞スベキニ却テ然ラサルヲ怪ミケリ爰ニ又キ
ウニノ處置モツカズ斯ク巨額ヲ拋テ購ヒシ
事ヘ忠勤ヲ抽ンズ我既ニ汝ノ功勞ニ報イテ未
象ナレバ如何之ヲナスベキヤフヲツグハ既ニ決
ダ汝ノ忠節ニ報イズ汝若シ此象ニ意アラベ汝
牽テ歸ルベシト云ヒケレバ嚮導ハ眼光輝クト
シテ叫テ云「嗚呼官ハ奴ニ賜芬ニ一家產ヲ以テ

セントシ玉フ歟フヲツグ「辭スル勿レ猶汝ニ報ル
ニ足ラザラン此時ハスパルツーハ叫テ云ク「善哉
我が友コラヲ拜受セヨ「キウニハ勇氣ノ體ナ
リト云ヒツ、該歌ノ傍ニ至リ砂糖一片ヲ出シ
『キウニ』爰ヘ爰ヘト云ヒツ、與フレバ象ハサ
モ喜シニゾ、氣ノ喉ヲ鳴ラシ鼻ヲ延シテバスパルツ
ノ腰ノ邊へ當テ済々ト巻キ揚ゲテ已レノ頭ノ
高サニ至レババスパルツ一ハ毫モ懼レズ其頭ヲ
撫ルニゾ象ハ静ニ彼レヲ地上ニ御シ鼻ヲ延シ
1ノ腰ノ邊へ當テ済々ト巻キ揚ゲテ已レノ頭ノ
ハ敢テ一語ヲ發シテ談話ノ腰ヲ折ラズバスパルツ
ツ一ハ赧然トシテ單ダ之ヲ説ニ當ラズト云ウテ
別ヲ惜シム者ニ似タレバ鼎漢は是ヲ握テ強
クゾ振リニケル
暫クアツテフヲツグ、クロマルチ一、バスパル
ツ一等ハ彼ノ少婦アウダヲ上座ニ就カシメ各ミ
完美ナル客車ノ裏へ座ヲ占メケルニ列車ハ早ヤ
十分ノ汽力ヲ張リベナレースラサシテ疾走シタ
リケルニアラハバツドヨリ該地迄ハ行方無カニ
八千里ナルヲ以テ貳時ニシテ達スルヲ得タリ此
間ニ少婦ハ「ハング」ノ昏醉氣漸ク消解シ始テ
我ニ歸リ四邊ヲ見レバ是ハ如何ニ夢カ現力幻
過ギ物情收ル迄彼所ニ駐リ玉フベシトテ慰
レバアウダ女ハ歡喜謝スル所ヲ知ラズ香港ハ
支那沿海ノ一市ト雖毛英國ノ所轄ニ殊ニ該地
ニハ同種ニテ當時届指ノ豪商ト仰ル、遠縁ノ
親族モ一人在留スルアレバトテ兎ニ角フヲツグ
ノ厚意ニ依頼シタリケル

十二時半ニハ列車ハヤベナーレスノ停車場ヘ
着、スマスマ教徒ノ口碑ニ傳ル所ニ據レバ此
終ノモのたりかた語り聞カセ殊ニファイリス、フヲ
ノ所ハ往古カジノ舊跡ニシテ彼ノ回教祖マホ

メツトノ墳墓ノ如ク浮テ天地ノ間ニ懸リシ所ナ
リシト雖ニ今日訪ヒ來其現況ヲ見レバ蕭條
タル地上ノ一市ニ印土ノ雅典ノ稱アレド唯陋
野タル煉化造リノ敷居ニ沿ウテ白堊ノ煉婢ノ繞
ルアルノミニテ更ニ他ノ奇觀ナケレバ寂寥トシ
テ自ラ神ヲ傷マシムニ堪ヘタリフランシース、
クロマルチ一氏ガ來リテ成ス所ハ此處ニシテ
兵營ハ市外北數里ノ所ニアリ少將ハ茲ニ於テ
座ヲ立テフヲツグニ向ヒ環地ノ大業ノ首尾能
克了局セントヲ祈リ且ツ遠カラス内ニ再ビ漫
遊ノ志ヲ起シ其時コソ今回ノ如キ異常行旅
ヲナサズシテ心穏ニ縱覽ノ成ル様冀乎スル
ナド語リ畢テ離ノ告ケルニフヲツグ單ダ之
ニ答ルニ輕ク其指ヲ握リシノミアウダ女ノ如
キハ虎口ヲ遁レシモクロマルチ一氏ノ義勇ノ功
績多ニ居ルヲ忘レマジト思ヘバ送別ノ詞モ自
ラ洋溢タリバスバルツハ少將ガ愛顧ノ切ナル
情ヲ表シテ手ヲ握レバ光榮身ニ溢又何レ
ノ時力遭遇シテ其懇親ニ報イ得ベキナド陳ブル
ヲ聞了テ終ニ少將ハ名残惜クモ袂ヲ分テ辭
シ去リケリ

窓ヘ徹入ス黃雲ノ漫タルハ稻田ナリ嫩芽ノ
離々タルハ麥圃ナリ綠樹頂キヲ包ムノ山去テ
鯛魚其淵ニ潛ムノ廣澤來河川ニ臨メバ兩三
ノ象大群ノゼビス等牽牛來聖江ノ流ニ浴
スル者アリ又秋氣深ク徹シテ冷氣既ニ人ノ肌ヲ
侵スノ候タリト雖ニ彼ノ印土ノ善男善女ハ更ニ
畏ル、色ナク皆懼隣教規ヲ奉ジ河流ノ衆ニ
淨浴ス蓋此ノ信者ハ佛教ヲ奉ズル徒トハ水
炭相容レザルノドラマ教徒ニシテ其信ズル所三
個ノ神體ニ凝ル則チ第一ヲヴヒスニユト稱ズ
太陽ノ神タリ第二ヲシブアト稱ス土風水火ノ如
キ兆化力ヲ司ル第三ガレブランニシテ僧
徒法官ノ主宰タリ然レニ今日英國ノ風治ニ化シ
タル印土殊ニ彼ノ聖江ガシニユノ積木ヲ亂打シ
キ江心ニ浮沈スル鷗島、洲頭ニ甲ヲ乾ス龜鱗岸邊
ニ遁逃シテ吠アルアノミ又ベンガル州ノ奇觀タ
ルゴルゴンド、廢頬セシギールノ古蹟、昔時一
箇ノ都府タリシムールスヘタベドフレ等ノ
城市モ見ルニ由ナシ殊ニシャンデルナゴール
ノ如キハ佛國ノ所有地ナルヲ以テバスバルツ
ハ定メシ故國ノ旗ノ城頭ニ飄ルヲミレバ容
色自ラ揚々然タリシナラン翌朝七時終ニカ
ルカツツニ達ス然シテ香港へ航行ノ郵船ガ正
午ノ始発船タルヲ以テフヲツグノ猶餘暇ヲ有ス
ルノ五時間ナリキ

ヨリ二十三日目ナルベキヲ以テ氏ハ定期ノ日限
ニ達スト雖凡不幸ニノ龍動ヨリボンベイニ迄ノ
ルハ正ニ是レ十月二十五日即チ蘭動ヲ發セシ
機關車ノ白汽ニ障ラレ鑿鑿タル沿雲ノ中ニ
等ハ果シテ何ントカ云ントスペキ
窓外ノ風景ノ移リ換ルハ電ノ如ク今前ニアル
カト思ヘバ忽焉トシテ後ニニアリ又時トシテハ
往來スルヲ見ルアラバブランマシーブガヒスニユ
等ハ果シテ何ントカ云ントスペキ
機關車ノ白汽ニ障ラレ鑿鑿タル沿雲ノ中ニ
ノハ昔シビハールノ酋長ガ據リシチニナルノ
古城舊城水ノ製造ニ於テ著名ナルガズブル
一ノ地方光景千態萬狀續々トシテ客車ノ稍

前回ニ説ク事故ニ因テ消滅シタリト雖ニ想フニ
ヲツグハ是ヲ憾ミト爲サドリシナラン

第拾五回

列車終ニ停車場内へ止リケレババスバルツー
ハ先づ客車ヲ降リヲツグモ續テ同伴ノ少婦ア
ウダヲ扶ケテ客車ヲ降リテ想フニ印土地方ハ危
険測ルベカラザレバ該船中ヘ少婦ヲ安樂ニ投宿セ
モアウダ女ヲ離ルベカラズ直ち香港行郵船ヘ
乗リ込ミ該船中ヘ少婦ヲ安樂ニ投宿セシムルコ
ソ上策ナルベケレドテ既ニヲツグハ停車場
ヲ出デントスル時突然一個ノ警吏之ニ近キテ
云ク「貴客ハアリス、ヲツグ氏ニテ在ス歟」
ヲツグ「如何ニモ拙者ニテ候吏此時バスハ
シ是他ナラズ此警吏ハ代人ナレバナリ英
人ハ渾テ法律ヲ看ル「聖羅ノ如ク然リバスバル
ヘト云ヒシニヲツグハ毫モ驚き騒ゲル氣色ナ
ガ警吏棒ヲ取テ静ニ之レヲ推スヲツグ之ヲ看
テ柔順ナレヨト胸セシヲツグハ警吏ニ向ヒ
ツ一ハ彼ノ佛人風氣象ニテ抗辯セント欲セシ
ガ是彼女ヲ取テ静ニ之レヲ推スヲツグ之ヲ看
テ柔順ナレヨト胸セシヲツグハ警吏ニ向ヒ
此妙齡ノ婦人モ我々同道シテ不都合ナク候
ヤ警敢テ異議ナシト云ヒツ、警吏ハヲツグ

ハ兩側ニ住メル土人津テ身ニハ敵レタル櫻樓
ヲ纏ヒ汚穢見ルサヘ厭フベ殆ンド無宿ノ奴輩
ガ蠹寓スル所ノ矮屋ナリ之ヲ通り過ギテ後歐
人ノ居留地ニ入レバ街頭ノ两侧ニハ可憐ノ煉
化屋ノ列ネ椰子芭蕉蒼々トシテ是ガ藤庇ヲナ
斯時猶早朝ト雖モ既ニ金鞍二跨ルノ貴公子駿
足ニ鞭ツテ馬車ヲ駆スルノ富客等往来如織
ル室へ入レ置キ「君等ハ第八時半判事ヲバヂヤ
氏ノ前へ出頭シ玉フベシト謂ヒツ、戸ヲ閉シ
テ出デ行キケレババスバルツーハ悵然トシテ
云我々ハ縹総ノ身トナリシトアウダハヲツ
グニ向ヒ怪ク胸ヲ鎮メ兼ネタレド自ラ心ニ附マ
シテ妾故ニ君等ハ終ニ此法庭ニ出立フナリ必
シテ夫レハ拙者ノ鬟ニテ候シテ手早クモ打チ被リテ
ハ則チ彼ノ肥満セシ判事ヲバヂヤニシテ一名ノ
ヲツグ氏ニアウダ女及バスバルツー等ハ法官ノ
爲ニ設ケシ高座ノ前ナル腰掛ヘ着座ス此法官ト
人土人等相混ジテ既ニ白洲へ羅列セリ

ヲツグ氏ニアウダ女及バスバルツー等ハ法官ノ
書記ヲシテ候ニアラザリシ書記は見テ云ク「果
タル蔓ヲ御シテ手早クモ打チ被リテ第一番ノ
訟事ハナド云ヒツ、手ヲ頭ニ舉ゲテ云ク「叱ツ
是ハ我が聲ニアラザリシ書記は見テ云ク「果
タル蔓ヲ交換スル時カラバスバルツーハ白洲ノ時
辰ノ鍔ノ進ムヲ見ルニ付テモ裁判開端ノ遅々
タルヲ慎リ胸中沸クガ如クニ覺エケリ

云へバ書記「ファイリス、フヲツグト呼ビ揚ゲルフヲツグ聲ニ應ジテ答ヘテ云「拙者ニテ候ト書記父ハスバルツーナ呼バスバルツーナ應ジテ「爰ニアリト答ノ判事云ク「善シ既ニ二日以前ヨリ足下等ハ控訴ヲ受ケボンベヨリ來着ノ汽車コトニ警吏ラシテ搜索セシメタリハスバルツーハ忍ビ兼ネ「何ノ罪アツカ我々ヲ拘引シ玉ヒシゾ「判漸次ニ足下等之ヲ知ルベシヲラック「拙者ハ英國ノ市民ニテ自ラ權利ヲ有スル「ナルニ「判足下ニ對シ不當ノ取扱ヒヲセシト云ヒ玉フ歟「ヲラック「否決テ然ルニ非ズ判可シ控訴人アマ呼ビ入レヨト云フニ應ジテ警吏印土僧侶三名ヲ白洲ノ内へ誘ヒ來ル是ヲ見テバスバルツーハ「是ヨソ少婦アウダ君ヲ殺殺サントセシ毒僧等ニ造ヒナシト囁キケル僧侶等ハ進テ判事ノ前ニ立チ書記高聲ニ「ファイリス、フヲツグ并ニ其從者ニ對シ國禁ヲ犯シブラマ教徒ノ聖境へ闖入シ狼藉ニ及ビシ犯罪控訴書ヲ讀ハ敢テ是ヲ包藏セズト聞イテ判事ハ「然ラバ足ミ上ル此時判事フヲツグニ向ヒ「足下ハ聞き玉ヒシ歎ヲラツグ「然リト云ツ、時計ヲ見テ「拙者ハ敢テ是ヲ包藏セズト聞イテ判事ハ「然ラバ足下白狀セラル、ヤフヲツグ「然リ拙者モ白狀スルカラハ彼ノ三名ノ僧侶達モ亦ビラジノ寺院ニ於テ執行セントセシ件ヲ同ジク吐露アランツラ待

候也ト云ヒケレバ僧侶達ハ少シモ了解セヌ者ノ如ク互ニ顔見合セテアリシガハスバルツ一ハ所ナリシト聞テ僧侶ハ益々愕然判事モ驚キ夫ハ又如何ナル少婦ラゾボンベ一府内モ憚カラズ誰ヲ焚カントセシナル哉爰ニ於テバスバルツ一ハ一圓解セズボンベート云ヒ玉フカ即「固ヨリビラジノ寺院ニハ更ニ闇スル「ナシはレボンヘ」府内マレバヒールノ堂内ニ於テノ犯罪ナリ書記傍ヨリ犯罪ノ證據タル狼藉人ノ靴ナリト云ヒツ、一足ノ靴ヲ取出シテ机ノ上ニ置ケバノ惶惑自ラ色ニ顯レタレバ最早明白ナリト判事ハ洞悉シタリケリフヲグ主従ハ彼ノボンベキ警吏フキスハ果シテ英國政府ガ該件ニ類スル犯罪ヲ罰スル頗ル嚴ナルヲ知リ此事件ヲ外裁判所へ呼ビ出ダサレシモ則チ該件ノ爲ナリ貨トセバ已レノ志望ヲ遂グルニ届竟ノ機會ト案ジ付キケレバ已ノ發足ヲ十二時間延引シ其の間ニマレバヘルノ僧侶ノ許ヘ行キ之ヲ挑発スルニ巨額ノ收賄金ヲ占ルノ好機ナルヲ以テシ

相伴テ次ノ發車ニテ犯罪人追尾トシテ發足セ
シガフヲツガ主從ハ彼ノ少婦ヲ虎口ニ拯フガ爲
メ道ニテ時間ヲ消耗セシヨ以テ却モ警吏等先ン
ジテカルカツタヘ着ンタリケル既ニ電信ニテ巨
細該府ノ官員へ報知シ置キレバ必ズフヲツ
グ主從ハ下車スルト等シク警吏ノ手ニ陥シトナ
ラント思テ來リシ未ダ彼等ハ到着セズト聞
キシフヒキスノ本意ナサハ筆ニ述ブルモカリ
キ其追捕セントシテ尾シ來リシ賊ハ何處力沿道
ノ停車場ニテ車ヲ降リ蟹クモ北部ノ邊境へ逃
竄セシカド想へバヒキスハ二十四時ノ其間
憂悶焦爾ガ如ク狂氣ノ如クニナツテ停車場ニ
見張リ居シガ今朝彼ノ賊ノ主従ガ仔細ハ解セ
ド一名ノ少婦ヲ携ヘ車ヲ降り来葉リ見ルヨリ
其喜實ニ涯リナカリケル然シテ忽チ一名ノ警
吏ヲ送リテ之ヲ抑留シタレバ終ニ今回フヲツ
グ氏バスペルツ一並ニアウダ女等ガ判事ヲバ
ヂヤノ庭前へ呼出サルゝ事トハナリ又然シテハ
スバルツ一ノ前ニ逼ル然ニ難儀ニ心ノ惑亂ゼズ
バ白洲一隅ニ彼ノ警吏ヒキスガ審判ノ模様ヲ
ヲ手ニ汗登シテ傍聴シ居ルヲ發見セシナランガカ
ルカツタノルモ猶ボンベースエズニ於ルガ如
ク未ダ彼ノ逮捕指令ハ彼ノ警吏ノ手計へ入ラザリキ
判事ハバスバルツ一ガ思ハズ口外セシ一言ヲ

證據トシ犯罪人ニ向ヒ「犯罪ハ愈々白狀ニ及び玉フカト問ヘバフヲツグ更ニ動ズル色ナク「如ニモ陳ズル處ナク候ト答ヘケレバ判事ハ爰ニ於テ宣告ヲ申シ波ス

英國ノ憲法ニ據レバ印土地方黎民ノ宗教ハ其派ノ何タルヲ論ゼズ皆等シク之レヲ嚴肅ニ保護スルノ主意タリ然ルニ過ル十月二十日バスパルツ一事猥リニ聖境ヲ蔑視シボンベ一席下寺院ノ上ヲ汚シ狼藉ニ及ビシ冒白狀ニ及ビ罪狀明白ニ付禁獄十五日罰金三百磅(千五百圓)申付ル三百磅トハバスバルツ一ハ只罰金ノ高ニノミ汚辱キ思ハズ聲ヲ發シケレバ見坐ハ訛タル聲ヲ張リ揚ゲテ「默止リマセート制ス」判事又

ヲツグノ宣告ヲ取上ゲ

ファイリス、ヲツグ事其従者ノ犯罪ニ關シ是レガ連累タラザル條辨明スルニ足ル證據コレナク殊ニ主人タル者ハ已レノ僕役スル従者ノ舉動ニ關メ惟テ責任ヲ免レザルニ依リ從事以テ禁獄八日罰金百五十磅(七百五十圓)申付ルト讀ミ揚ゲ終リ書記「次ノ事項ヲ讀ミ揚ゲベシト云フヲ聞彼ノ一隅ニ潛ミシヒキスノ満悦涯リナシ實ニヲツグガ八日間カルカツタヘ抑留サル、上カラハ逮捕令ノ到着スルニハ猶十光年裕アリバスバルツ一ハ此處刑ガ主人ヲシテ貳萬

シケル是ヲ請取ツ、「片々一千磅ヅツトハ差シモ
シモ皆已レガ愚カニモ彼ノ忌マハシキ佛寺ヘ入シヨリ起リシ珍事ト思ヘバ已ノ罪ノ深キヲ憾ミ
益ニ勝ヲ喫ミテ茫然タリフヲツグハ神色更ニ
變セズ恰モ頃刻ノ宣告ハ已レノ身上ニ關セザル者ノ如ク眉サヘ更ニ顰ムル「ナク書記將ニ他事項ヲ讀ミ揚ゲントスル際ニ至リ靜カニ座ラ立チ「被者ハ保金ヲ納ムベシトイハ判事ハ之レニ答ヘテ云「夫ハ足下ノ權内ニ在リトヒキスハ不思職慄セシガ又」ヲツグ主従ノ他國人タルノ廉ヲ以テ兩人ノ課スル各一千磅(五千圓)宛ト云巨額ヲ以テスル旨ナル判事ノ審判ヲ聞ニ及ンデ稍ク安堵シタリケル實ニ是レヲツグ
ルノ廉ヲ以テ兩人ノ課スル各一千磅(五千圓)銀行紙幣一ト束不取手シ書記ノ机上置ケバ財トナレバナリ彼ノ紳士ハイサ上納政スペシト云ヒツ、バスバルツノ持チ居リシ袋中ヨリ判事ハ是レヲ見テ「此金額ハ當廳に預り置キ足下禁獄滿期ノ節之レヲ返附スベシ」大迄ノ間ヒアウダ女バスバルツ一等ト俱ニ之ニ打乘リテ發スルニゾヒキスハ猶モ車ノ跡ニ尾シ走リ行キ頓ニ車ハ海岸ニ達シ茲ニテ馬ヲ駐スケル半里港ノ彼方ニ「ラングウン」號锚ヲ卸シ前檣ノ絶頂ニ出帆ノ旗ヲ離ル、ヲ見テヒキスハ獨リ地ノ時ノ鐘聲ノ響ク時ヲツグハ猶一時間ノ餘ヒアウダ女バスバルツ一等ト俱ニ之ニ打乗リテ有シテ車ヲ降リアウダ女及ビ僕ヲ伴ヒ解舟ニ載リ岸ヲ離ル、ヲ見テヒキスハ獨リ地ノ時テ足指シツ、恰呈スルノ外ナクシテ云ク「嗚呼奸賊メ茲地ヲ去リヲカ貳千磅ヲモ捨チテ願ミザルトハ浪費盜人ノ如キトノ該實ニ當レ可矣假令世界ノ端迄モ我必追尾セン左ハ去メテ返却スベシト叫ベ爰ニ於テ見坐シ返附

居タリフヲツグハ果シテ龍勃ヲ發セシヨリ以來ナガラ彼奴ノ調子デ行ナラバ溢金モ頓テ剝サヌ程ニナリヌベシナド獨リ警吏ハ推想シテ問エ支拂トシテ既ニ貳萬五千圓ノ巨額ヲ道中ニ散ジ

來リケレバ警吏ガ己レノ渴望スル部割高ノ減殺

第十六回

スルヲ憂フルモ亦理リナリキ

「ラングウン號」ハ暗車鐵製ニシテ噸數都千七百七十噸馬力四百匹兼不タル一郵船ニシテ彼阿會社ニ屬シ支那日本ノ沿海ヲ通航ス其速力ノ如キハ「モンゴリヤ號」ト頗爾スト雖ニ船中客室結構ニ至テハ遙ニ劣ル「數等ナリ爰ニ於テアヘバ三千五百里程度ナレバ十一二日ヨリ出デシスノ経過スベク殊ニ少婦ハ敢テ虚奢ヲ要シ難事ヲ靈ムノ客ナラザリキ此航海ノ初日ヨリアウダハ心中ハ如何ヤ知レザレド其外貌ニ就テ見レバ漸ニフロッグト相識深ナリ行クニゾ何角ニ付テ感恩ノ深キヲ表シケルナノ沈毅ナル紳士ハ中心ハ如何ヤ知レザレド其外貌ニ就テ見レバ漸ニフロッグト相識深ナリ行クニゾ何角ニ付テ感恩ノ深キヲ表シケルナノ沈毅ナル紳士ハ話ヲ爲サブルモ其語ル所ヲ聽杯シテ之ヲ慰問シウニ注意頗爾想切ナリ又時々必ズ來スヨリイハ談話ヲ爲サブルモ其語ル所ヲ聽杯シテ之ヲ慰問シ且ツ此少婦ニ對スルニ譲鄭重ト守ルト雖庄自ら少腹痛合ミ其行跡始終換ハラザルハ恰モ妙手ノ製セシ自動ノ木偶カト怪シマル、斗リナ

レバアウダモ其深意ヲ解スル能ハザリシガパス

Page 1

シグウン
號ノ駿航モ珠ニ袂ナリケレバ早ヤ

回スルニ至ル等ヲ語リケレバアウダハ聞テ微笑シアリシガ到氏ニハ少婦ノ爲ニハ再生ノ因人彼ノ群島中ノタクタルアングマン島モ遙ニ水天

レバ外貌ニ因テ其恩義ヲ薄ンズル「アランヤ
相連ルノ邊ニ見ル、ハ是其島中ニ屹立シ巍々

アウダハ又曩ニパルシノ嚮導ガ説キシ如ク
トシテ一千四百尺ノ高ニ爾風景畫ノ如キ

身ノ薄命ヲ譚ルニ果テ該女ハ夫ノ印土地方ニ
鞍形嶽ノアルアツテ海客ノ遙ニ標的トスル所

冠タル種族ニ屬セリバルシ商ノ内ニハ印土地方ナリ漸ク近クニ及ンデ島岸ニ沿ウテ駿行スル

ニ於テ木棉ノ商業ニ從事シ陶倚ノ富豪ヲ占メ
ト雖モ島中ノ蠻虜「バブーラ」等ハ陞シテ見レ

シ者モ夥多ナル其中ニテソルジエムス、シーブズ此蠻虜ハ社會ノ最下等ニ列スベシト雖凡世之

ホイトテ英廷ヨリ既ニ貴族ノ稱號ヲ賜リテ曾ヲ日シテ人相食ムノ醜類トスルハ蓋シ謀レリ椰子

ノ親族ニテ今回女ガ香港ヘ行テ投ゼント冀フ
諸島ノ前面ヲ蔽ヒ峨々タル山嶺其後ニ併立ス其
まゝアリ、ももさう、みちうぢらがき、わいはき、

所ノ人モ亦是レ此ノジーブホイ氏ノ從弟ニシテ

シエリト稱シ頗ル人ノ愛敬ヲ享ケ然レ用同人ノ
才也ニ尤ムジニテ功利アんねい得ノレ

トテノアリナノバフヲツグハ、ひたすらニシテト

慰メ更ニ神ヲ勞スル口ナク運ヲ天ニ任せ置カバ

必らず自然ニ惡クハナルマジト云フニゾ少婦ハ

モ其深意ヲ尋ネント雙眸ヲ凝シテフヲツグノ眸

中ヲ視ツムレド如何セン彼ノヒマラヤ峯頭ノ神レ

湖ヲ欺ク淨眼アルモ鐵心腸ノフヲツグハ常ニ

變ラヌ沈毅ノ謹狀此清潮中へ投ゼントスル
態

アドハ露ボドモ面ニ顯レサリケル所ナリ
彼ノ客ガ呼デベンガルノ連抱灣ト稱スル漫々
タル廣灣ヲ過ルノ間ハ天氣風向モ便ニシテ「ラ
ンケウン」號ノ駆帆モ殊ニ快爽ナリレバ早ヤ
彼ノ群島中ノ魁タルアングマン島モ遙ニ水天
相连ル邊より見ル、「ハ是其島中ニ屹立シ巍々
トシテ二千四百尺ノ高ニ聳エル雲霧鬱然如キ
鞍形嶽ノアルアツテ海客ノ遙ニ標的トスル所
ナリ漁ク近クニ及シonde海岸ニ沿ウテ駆行スル
ト雖鳥島ノ繁虜「バーフアイ」等ハ匿シテ見レ
ズ此往昔ハ社會ノ最下等ニ列スベシト雖モ世之
ヲヨシテ人相食ムノ醜類トスルハ蓋シ設レリ椰
子、檳榔、内壹慈樹、竹林、芒叢ノ類鬱托シテ
諸島ノ前面ヲ蔽ヒ岷々タル山嶺其後ニ併立ス
水涯ニハ無數ノ水鳥群リ來リ群リ去テ波際ニ
漾フ此群島ノ光景隨テ遷レバ隨テ換り奇
絶美スベシト雖モ去往頗ル迅ク「ランゲウン」號
ハ早クモ支那海ノ海門タルマラカノ海峽ヘ向
テ進行セリ此時ニ當テ心ニモアラニ環地ノ
長旅ノサントル鬱吏フヒキスハ果シテ何
事ヲ力爲セシヤラヌルニカルカツタフ發スル
ニ際シ先づ一言ヲ遺シテ逮捕令到着スルニ於テ
ハ直ニ香港ヘ郵送スベキヲ以テシ漁クニシテ
バスバルツーノ見ル所トナラザル様心ヲ配テ

「ラングハウ」號へ來搭シケルガ出遭フ時ハ如何
ナル事故ニ因テ此船中ニ在ルカト縫解セザルヲ
得ズ斯テハ傾倒ナリ郵船着港ノ其時迄ハ深ク
潛ンデ居ラント決セシが又再ビ彼ノ僕ト交際ヲ
結バザルヲ得ザル機會ノ生ジケル夫ハ如何ト尋
ヌルニ世界廣シト雖ニ該件ニ付警束ガ只管望ム
屬セシハ只香港ノ一市ノミナリ新嘉峯アリト雖
ニ該港ヘハ汽船ノ滞留甚ダ短キヲ以テ事ヲ舉
ルニ遇ナシ然レバ賊ヲ捕フルモ又之ヲ逸シテ
終ニ再び獲ベカラザランニ迄ルモ唯香港ニア
リ果シテ該港ハ五道ニアル英國所領ノ絕境ニ
シテタビ癸ヲ追レバヲラツグハ支那日本亞墨
利加地方ニ逸シハンド安全ノ潛匿地ニ投ズルナ
ニ香港ヲ超過スルニ當テハ一片ノ逮捕指令書
ヲ以テ足ルニ非ラズ宜シク其國政府ニ乞ウテ捕
獲セザルヲ得ズ其際自ラ百般ノ障碍アツテ
運綱ヲ生ジ賊ハ此機ニ投シ逃竄シニ逸竄
ベキノ嫌アリ是故ニ若シ香港ニ於テ志ヲ得
ズンバ又他方ニ至テ功ヲ奏セント殆ど難キガ
如シ爰ニ於テカヒキスハ獨リ己ノ部屋ニ在ツ
テ沈吟シツ、熟ニ思フヤウ彼ノ逮捕令ガ香港へ

シヨラベ可シ彼奴ヲ直ニ捕フシ萬一指令ノ未ダ來ラザルニ於テハ何トカ策ヲ旋ラシテ彼奴ノ發港ヲ遲緩セシメザルベカラズ我レ既ニボンベニ於テ失敗シカルカガツタニ於テ亦志ヲ得ズ萬一再ビ香港ニ於テ之ヲ逸サバ我ガ名譽ヲ墜スベシ假令如何程難キ「ナリヒ是非其功ヲ奏セズシテ止ムベキヤ倘シ彼ノ可憎フヲツグ奴ノ發程ヲ延緩シメザルヲ得ヌ場合ニ迨ラバ果シテ如何ナル策ヲ力施スベキト忠思古計画ノ百百事ヲ打チ明ケテ彼ノバスパルツニ語リナバ素性ヲ知り厄ノ其身ニ累フシノトヲ恐れ必ズ我ニ儻ニ施テ既ニ決心ハセシモノ、バスバルツイガ若シ一言タリ由主人ニスクト告アラバ事業性ヲ知り厄ノ其身ニ累フシノトヲ恐れ必ズ我ニ儻ニ就ルベカラズサレバ最モ冒險ノ危篤ナリ他モ忽チ彼ノアウダ女がフヲツグト相伴ウテラングウン號ニ在ルヲ思ヒ出デ考ルニ抑モ彼ベキニアラズ爰ニ於テ警吏ノ心緒麻ノ如カリシニ施スベキノ策ナキニ至ルニ非ずノバ是ヲ用ニノ少婦ハ何者タルベキヤ如何ナル機會ノ如キリモ忽チ彼ノアウダ女がフヲツグト相伴ウテラングウン號ニ在ルヲ思ヒ出デ考ルニ抑モ彼ベキニアラズ爰ニ於テ警吏ノ心緒麻ノ如カリシシフヒキスハ曾テカルカツタ然半所ノ白洲ニ於

シテ船裏ニ明ハル覺エフヒキスノ離レズ附キ隨
フハ必らず彼ノ改進舍ノ同職社員ニ密旨ヲ授カリ
フヲツグ氏ヲ追尾シテ氏ハ正シク約定通りノ
道筋ヲ經過シ地獄周回ノ長旅ヲ遂ルヤ否ヤヲ
羈監察スル者ナラント監測セシハ中ラズト雖
ニ遠カラズ

シテ既ニ新嘉峯（さかうね）へ寄港シ爰（あひ）於テ復タ石炭（せきたん）ヲ積
入ルフヲ（アリ）グハ今回ノ返却ヲ例ノ所得ノ柄（ほり）ヘ記
キスハ惣テフラツグノ舉動ヲ狐疑スル折ナレバ
載シアウダ女ガ兩三時陸上ヲ徘徊シタシト云
フ望ニテジ之ヲ伴ウテ上陸シタリケルガフヒ
キスハ惣テフラツグノ舉動ヲ狐疑スル折ナレバ
私カニ尾尾行クニゾバスバルツ（ハ）之ヲ見テ陰ニ其劣舉（アラコト）ヲ嘲リツ、當ノ如ク買物ニト出掛けケ
新嘉峯（さかうね）ハ土地太ダ廣潤ナルニ非ズ山嶽ノ園ム
ナキモ以テ景色はば天子大壯宏タルニ非ズト雖（まへ）かん
雅ニシテ自ヲ其中ニ風致アリ之ヲ比スレバ廣
苑中へ衢街ヲ區畫セシト一般ナリ頓テフラツ
グアウダ等ハ彼ノ新荷蘭地方ヨリ輸入シ來レル
駿逸ノ良馬ニ牽カシムル所ノ一華車ニ駕シ
駿々トシテ樹林ノ間ヲ過ルニ淋漓タル綠葉ノ
道ヲ轍（辙）ハ棕櫚ナリ馥郁タル清香ノ氣ニ蕭ズ
ルハ丁子花ナリ椒樹家ヲ繞ルハ是レ歐洲ノ田
舍ニテ耕作ノ類ヲ植テ生垣トナスニ代ルナリ柳
樹蘇鐵等ノ暢茂スルハ熱帶地方ノ風致形シ肉
莖蓬樹ハ綠葉添ノ如ク光澤清涼タリ林中も輕
跳躍面ノ猿子遁走スル者若干群此林中又虎ナ
キヲ保シ難シ人或ハ強丸（わくし）ノ島裏ニシテ未
ダ此猛獸ヲ駆スニ至ラザルヲ怪しもアランガ
此其摩剝加地方ヨリ海峽ヲ游ギ渡テ來ルアレバ

ナリフヲツグ氏及ビアウダ女等ハ郭外ヲ跋涉スル「二時ニシテ來テ市内ニ入スル港ノ重キニ壓抑セラル、如キ狀アル低屋ガ相鱗次シテ稍ヤ市ヲナス者ニ似タリ只其好スベキハ可愛ノ庭園家屋ヲ環り坤輿上ニ冠タル鳳梨「マンダースチン」ノ美集其中ニ蕃殖スルアルナリ此間ヒキスマヨリ其故意ニ田ルヲ知ラズシテ十時頃郵船ヘ歸着スレババスバルツ一ハ既ニ其甲板ノアツチ主ノ歸船ヲ出迎へ最前市中ニ於テ購入來リシ大サ拳ノ如キ「マンダースチン」トテ外様無花菜ノ熟セシト等ク株内深紅實肉白玉ヲ割加如ク「タピ之レヲ」齒ノ間ニ上スレバ甘美齧りナキ仙菜ヲ採テアウダ女ニ進ムルニゾ女ハ莞爾トシテ嬌笑ヲ含ミ其芳志ヲ謝スレババスバルツ一ハ光榮身ニ溢れ悦ブ「疆リナカリキ

十一時ニハ「ラングウン」號ノ煤倉モ充ずケレバ纏継モ解ケルニゾ彼虎豹ノ巢窟タル摩剥加ノ連山モ傾テ水烟ノ中ヘ没シケル新嘉峯ヨリ彼か支那沿海ニ孤立スル英國所屬香港島迄ハ道程凡千三百里ナリ然ルニフヲツグハ日本横濱港ヘ向ヒ十一月六日香港ヲ解纏スル郵船ニ駕セント思ヒケレバ六日已内ニ此距離ヲ踰エント期シタリケル「ラングウン」號へハ新嘉峯ヨリ印土

頃日來天氣續々晴々タリシガ月下弦ニ追ルニ豈
シ漸々クヘシジ海波亦隨々テ險惡ナリ時々勁風
大ニ起ルモニシテ東南ヨリ來ルヲ
以テ舟行却テ便ヲ得ル多ニ居ル其便ナルニ
當テヤ船長水手ヲ督シテ満檣ノ帆舟ヲ捲ゲ汽
力ト風力ヲ兩用セルヲ以テ其速力大ニ加
ハル其交趾沿海ヲ航スルノ間ハ概不此ノ如ク
鯨濱狂瀨ノ船ヲ擄ツアツテ旅客ヲ困マスル
リ是レ其水脚ノ深サ船身ノ層積ト適ハザルヲ
非ズシテ其船形宜ム得ザルニ因ル支那へ通航
スル彼阿會社ノ所屬船ハ果シテ造ニ大失ア
リ是レ其水脚ノ深サ船身ノ層積ト適ハザルヲ
アル泰然波濤ヲ凌グ能ハズ且其層積十分ナラズ
ルヤ遠シ是レ其機關ノ劣ルニ非ズ又船形ノ當ヲ
ズ爰ヲ以テ論ズレバ此船ハ佛國郵船會社所屬
船アンペラドリスガボヅチ船等ニ及バザ
故ニ少シク風浪ノ發ルアレバ船形ノ當ヲ
得ザルニ因リ據レバ佛製ノ船ハ
其重量ト等シキ海水ヲ容ルモ猶沈ムニ至ラザレ
ル彼阿會社ノ屬船ゴルゴンダコレアラン
ガウン唐等ノ如キハ其重量ノ十分ノ六ニ適ス

ニ已レガ警吏タルヲ推察シタルニ似タリ然レド
之ヲ其主人ニ告ゲタリシヤ又其連累タルベキヤ
或ハ知ラズシテ之ニ隨從スルヤ抑モ又今回
ノ謀略モ既ニ彼ガ猜スル所トナツテ志終ニ
成ルベカラザルヤナド悶ル警吏ハ或ハ謀ノ
齟齬セルヲ憾ミテ失望シ或ハフヲソグノ未ダ厄
ノ謀身ニ迫ルヲ知ラザルベシト想リテ少シク懇ム
所ナキニアラネド到底策ノ出ル所ナ知ラズ少焉
アツテ稍ヤ精神ノ鎮マルニゾ始テバスピルツ
ヲ味方ニ引入レ萬一香港ニ於テフヲソグヲ該地
ニ抑留スル策ニ苦ムニ當テフヲソグガ愈々夫
ノ英領ノ地ヲ辭セントスルノ急ニ遁ラバ萬事ヲ
包マズバヌバルツ二語リチカシモジカシモジカ
思ラク夫ノ壯漢ハ元來其主人ノ連累ニテ既ニ
三好我意裏ヲ推知スルニ於テ失敗父タ償フニ山
ナキニ至ランカ或ハ壯漢ハ主人ノ竊盜ニ與ミス
ル者ナラザランニハ彼ハ必ず賊ヲ成テ我ヲ輔
クベキカノ兩途ニ出シノミト以上兩側ノ意裏
ヲ察セシ所ナルガフツソグハ恰モ大體ガ生主
陪星ノ舉動如何ノ事ミズ只直線ニ航道ヲ同
テ翱翔シテ地上ノ細高ヲ睥睨スル者ノ如ク又
其地球ノ周回ヲ環ルニアタツテハ己レニ附屬ス
カ該紳士ノ心緒ヲ察スニ堪タル一客星ノアル皆

ナルニ左ハナクシテアウダ女ノ嬌艶ナルモ亦之
ヲ動カスニ足ラズ假令幾分力素攬力ノモヲ蕩
齟齬セルヲ憾ミテ失望シ或ハフヲソグノ未ダ厄
トシ遂ニ海王せらはれ見セシニ至リショリモ之ヲ
尋ルハ猶難キ「數等ナリバスバルツ」ハアウダ
女ガ主人ニ對スルニ毎度感想ノ深情自ラ眼中
ニ彰ル「數回ナル」主夫人ノ勤ク
ナキハ怪ムベキノナリト私ニ驚キ思フヤウ
ヲソグ氏ハ眞ニ義勇ニ奔フ心ハ少しだ懲情
ヲ知フヌ木石ナルベシ又旅ノ結果如何ニ至テ
更ニ憂慮スル色々ニ面ニ見レスハ訝カシム
テ已レハ獨リ煩悶已ム時ナク一日機關屋ノ懶
干ニ凭テ壯タル機関ノ運動ヲ眺めシガ折シ
モ船身大ニ動搖シ艦端水際ヲ離レテ暗車空轉シ
汽船轟汽火逆ラスルヲ見テ憤怒ニ堆ヘズ叫デ
云咄咄ノ汽船ハ屢量十分ナラズニテ舟ノ進
行スヘキアランヤ嗚呼何ゾ英人ノ迂拙ナルヤ
若シ米國ノ船舶ナランニハ假令破裂ノ險アルビ
進行スルノ必ズ快カルベキニ

ルヲ以テ烈風ノ爲ニ逆力卷カレテ彼方ニ山
ナス濤ニ打チ搖ラテ顛轉頗ル劇シケレバ乘
客七百銃氣ヲ失シ悽愴タリ十一月三日四日ノ
間ハ颶颶ノ兆ニシテ暴風トシテ海波ヲ打
チ「ラングウン」號ハ凡ソ半日ノ間ハ僅ニ螺旋
車輪旋回ノ速力ニシテ遙々巨濤ヲ衝テ漸進セ
ザルヲ得ズ此時満潮ノ布帆ハ收メテシテ
ナキハ怪ムベキノナリト私ニ驚キ思フヤウ
ヲソグ氏ハ眞ニ義勇ニ奔フ心ハ少しだ懲情
ヲ知フヌ木石ナルベシ又旅ノ結果如何ニ至テ
更ニ憂慮スル色々ニ面ニ見レスハ訝カシム
テ已レハ獨リ煩悶已ム時ナク一日機關屋ノ懶
干ニ凭テ壯タル機関ノ運動ヲ眺めシガ折シ
モ船身大ニ動搖シ艦端水際ヲ離レテ暗車空轉シ
汽船轟汽火逆ラスルヲ見テ憤怒ニ堆ヘズ叫デ
云咄咄ノ汽船ハ屢量十分ナラズニテ舟ノ進
行スヘキアランヤ嗚呼何ゾ英人ノ迂拙ナルヤ
若シ米國ノ船舶ナランニハ假令破裂ノ險アルビ
進行スルノ必ズ快カルベキニ

リ此暴風ハ已ノ爲ニハ一大好機會タルヲ喜ビ

第十八回

若シラングウン號ハ狂濶ヲ冒シテ進ノ難キ
ヲ知リ針路ヲ轉ジテ危ヲ避ケントデモセバ其滿
悦定テ究ナケン該船ノ途中ニ於テ遲緩スル
ハ到底大ニ其望ヲ扶ケフヲグヲシテ必ズ香
港ヘ數日ノ間駐留セザルヲ得ザラシメン終ニ
天暴風ヲ起シ海鷗濤ヲ颶シテ之ガ羽翼トナル
アリ豈快モカラズヤト警吏ハ少シク船暉ノ爲志
苦痛セント雖ニ豈敢テ恨ムトスルニ足ランヤ身
ハ船身ノ運動ニ搖テ假令喰氣ヲ催スアルモ
心中既ニ一大喜事アリ精神焉ゾ爽快タラザラ
ンヤ

ヲ漏ラセシナラン
其意衷ヲ察シナバ必ズ粗暴ニ涉リテ已レノ憤滴
バスバルツ一ハ烈風ノ間ハ暫クモ「ラングウ
ン」號ノ甲板ビヨ去ラズアリシガ終ニ堪ヘカネ
テ桅檣上ヘ攀ヂ昇リ猴ヨリ輕ク立廻リ水夫ノ
効キヲ助タルニゾ衆皆舌ヲ捲テ其活潑ヲ驚歎
セリ船將士官水夫ノ嫌ヒナク遭者毎ニ何時頃
ニハ風ノ強ニナランヤ抔ト百回有餘モ尋ル
ニゾ衆諸ハ其勞神ノ過グルヲ嘲リ暗雨針ニ就
知リ王ヘト云ヒヌレバ該器ノ下ニ立テ搖レ動
カセモ更ニ昇騰セザリケレバ果ハ罪ナキ器械
ニ向ヒ罵罵ヲ極メ煅ク斗リナル胸ノ怒焰ヲ漏
シケリ兎角スル間ニ風力大ニ減ジ海波稍モ穏
ナリ其方向モ亦隨テ南ニ轉ジ駛航ノ便トナル
爰ニ於テバスバルツ一ノ心緒モ天氣ニ隨テ快
爽ニ復シ満船ノ布帆順風ニ孕モ「ラングウン」
號ノ速力大ニ加ハリ疾走流矢ト競フ然ト雖ニ
如何セン失却シタル時間ハ又是ヲ回復スル策
ナク六日ノ午前六時ニ迄シ漸ク始テ陸地ヲ
發見シタリフロツグノ豫算ニ據レバ五日着港
ノ筈ナルニ六日トナリシハ正ニ是レ二十四時間
ノ延着ナレバ横濱行ノ汽船出發ニ後レンモ
測ラレザリケリ第六時ニ水先案内來テ「ラング
ウン」號ノ船頭ニ立チテ船ヲ指揮シテ香港ノ灣

内へ入津サセント控ヘタリバ・スバルツーへ幾度
カ之ニ就テ横濱行船ノ既ニ発セシヤ否ヤ
ヲ訊ントセシガ出雲セシラ聞テ怒ヲ
ハンヨリ露口少焉ノ間タリトモ最後迄一縷ノ冀
望ヲ保タン思ヘバ復タ躊躇シテ居タリケルガ
ヒキスニモ豫テ己ノ憂思ヲ語リケレバ此方ハ
固ヨリ祐智ノ老孤ナレバ言巧ニシフツヅグハ
あたうチニシム船ノ出港ニハ問合ベケレバ斯ク憂惑
シエヌナト鏡懸セント試レバ・パス・バルツーハ
喧怒益々烈シヲ加フノミ
バスバルツーハ忍テ敢テ水先案内ヲ訊問セザ
リシガフツヅグハ彼ノプラットショーノ萬國道中
記マ参考シテ後チ水夫ニ向ヒ靜ニ「何時横濱
リノ船ハ香港ヲ出帆スル哉ト問ヘバ水夫ハ答
行ノ船ハ香港ヲ出帆スル哉ト問ヘバ水夫ハ答
テ「明朝ノ満潮ニ乗ジテ出帆ノ筈ナリト聞テ
テ「明朝ノ満潮ニ乗ジテ出帆ノ筈ナリト聞テ
ヲツヅグハ別段變リシ色ナク「吁然ル歟ト云ヒ
シノミニナード・バス・バルツーへ向テニアツテ之ヲ
復タ問テ云々其船名ハ何トキス哉水先『ガルナ
表セントスル程ナルガヒキスハ憤リニ堪ヘ
ズ其船ヲ捻リテ吳レンストル斗リナリフツヅグ
聞クヨリ雀躍シ既ニ水夫ヘ抱キ付キテ喜ビヲ
チツクト申スナリフツヅグ「昨日出船ノ筈ナラ
ザリシャホ先然リ其積リノ船も損ノ所ナラ
生セシ故ニ修繕スルトテ明日迄出船延引ト

ナリテ 候 フラック多謝ト云ヒツ、フロッグハ
例ノ定歩ニテ「ラングウン」ノ轄室へ回リシ跡ニ
テバスバルツーハ水夫ノ手ヲ握リサモ親シゲニ
「足下ハ實ニ善キ人ナリト云ヒカケラレシ水先
ハ何故頃刻ノ數言ガスク迄懇親ナル接待ノ種ト
ナリシヲ知ネバ怪ミ居リタル折カラ一陣ノ風吹
キ來リケレバ再び元ノ頭顱ヘ立チ回リ彼ノ香港
港中ニ充满スル支那貨船漁舟その他萬種ノ船舶ノ
間ヲ右へ避ケ左へ逃レテ郵船ノ入津ヲ導ビキケ
一時間過ケル頃「ラングウン」號ハ蛋ヤ波止場
ノ着シ船客各ミ陸へ上リケル
本回ノ如キ若シ「カルナチック」ノ汽籠ヲ修スル
舉ナクンバ五日ヲ以テ發程シ日本行ノ旅客ハ已
ヲ得ズ次便ノ出船ヲ俟テ淹留セザルヲ得ザリ
シニ不測モ此好機曾ニ遭ヒシハ眞ニ是レフツ
グノ運ノ強カリシナリ今フロッグハ定規ニ後ル
ル「貳拾四時ト雖モ横濱ヨリ太平洋ヲ踰テ桑港
ニ航スル郵船ハ直ニ香港ノ線ト相通ズルヲ以テ
香港ヨリ着船ナキ内ハ解纏セザル皆ナレバ貳
十四時ノ遲緩アリト雖モ向後ノ行旅ヲ害スル
ヒナク又タ太平洋經過ノ間ニ於テ失却時間ヲ
回復セシムニアラザレバ憂トスルニ足
ラズ故ニ氏ハ龍勃發程ヨリ以來三十五日日ニシ

テ十四時達ヒニテ豫算ノ期日ト稍ヤ平行シタ
リケリ
「カルナチック」號ハ翌朝五時ニアラザレバ拔錨
セザルヲ以テフロッグ十六時間ノ餘暇ヲ有シケ
レバアウダ女人身ニ關セシ事務ヲ整頓セント少
婦ノ手ヲ執リ扶ケツ、上陸ノ肩輿ヲ備テコレ
ニ乗セ如何ナル旅館ガ良キナルヤト昇夫ニ問
ヘバ『クロップボテル』コソ善ク候ト示シケ
レババスバルツーラ隨ヘツ、貳十分バカリニシ
テ肩輿ハ旅館ニ着キケレバ先ツ一室ヲ借リテ少
婦ヲ憇ハセフソングモ親ラ其行キ届キシヤ否
ヲ點檢シテ后之少婦ニ向ヒテ貴嬢ヲ留メテ託
ベキ當港ニ在ス貴嬢ノ族人君ヲ尋ネスベシ
ト云ヒツ、又バスバルツーラ呼ビ二子ガ歸館迄
ハ汝留リテ既ズアウダ女ヲ獨リ残シテ出デ去
ルナト誠メ置キ當港ノ商務公會館へ往キ尋
ナバ富豪ヲ以テ名望共ニ高キジエー氏ヲ知ラヌ
者トテハアラジト思へバ直ニ至リ一賽取商ニ
就テ之ヲ叩クニ果シテ彼ノバルシ商ヲ識り居タ
レド該商ハ既ニ十分ノ家産ヲ起セシカバ二年
以前ニ歐洲へ轉移シテ今ハ清國ニ居ラズ尤舊
來荷蘭ノ諸商ト廣ク取引シテアリケレバ當時
同國へ住居アルナルベシトノ答ナリケレバフ
テラックハ本意ナク旅館へ回リ直ニアウダ女ニ

氏ハ最早香港へ在留ナク多分荷蘭邊へ移住セラ
シハ最前香港にて居シカ少焉シテ
レタリト語ルヲ聽テアウダ女ハ瞬間答モナシ
兼ネト額ニ手ヲ當テ考ヘ居シカ少焉シテ
漸クニ彼ノ驚喫ノ嬌聲ヲ發シテ云ク「フロッグ
君ヨ妾ハ是ヨリ如何シテコソ能カルベキ フロッグ
夫ハイト易キ事ニヨコソ歐羅巴送行キ玉フベ
シ アウダ去リトテス迄君ノ厚志ニ甘ニユル「ハ
如何ニ顛厚クモナルベキヤ フロッグ何ニテ心
ヲ勞シ玉フ事哉アルベキ貴嬢獨リ我々ガ伴
フドテ別段ニ我等ノ企業ノ障ニハナル物ナラ
シト命ズレババスバルツーラ喚ビケレバクト
ル少婦ト共ニ猶行旅ヲ引續ル事ノ成ルヲ喜ビ
勇シテ直ニ旅館ヲ立出デケリ

香港ハ葛爾タル一島嶼ニシテ曾テ千八百四十二
年南京ノ盟主ヨツテ大英國ヘ讓ラレシガ彼ノ
英人ハ開拓ニ捷キ繪畫ニヨツテ儼然タル一府ヲ
開建シテ此ウケクトリヤ港ヲ現出シタリケル
其位置廣東河口ニアリテ海路六十里ヲ隔テ、

第十九回

葡萄牙領 澳門港ト相對スル素ヨリ此兩港商
運ヲ相争フニ暨シ港ノ頓頗頗ス
ルコヲ得ン乎故ニ清國南通商多ク茲ニ於テス
くわざアリ病院アリ波止場アリ貨庫ノ棟ヲ連ル
アリ市街ハ廣府鎮ノ衙門ブナク風ノ大教院
ノ體意等ノ部校等ノ居候所ノ右ノ岸根ノ壯觀アル
アツテ茲ヘ來ルノ旅客ニシテ恰モ英國地方ニ現
在スル一市ガ地求ノ全體ヲ貫イテ其背面而へ現
出セルニ非ル歟ト怪マスルホドナランバスバ
ルツ一ハヴヒクトリヤ港ノ方へ赴カント手ヲ袖
ニシツ、市中ヲ閑歩スレバ歐洲ニテハ見掛ケモ
セネド中華高國ニテハ猶類ニ用ヒラル、琴帳
深ク鎖セシ肩與ヒ清人歌人日本人等ガ絶縁ト
シテ市中ヲ往来スルヲ見ルニ其體貌ボンベーカ
ルカツタ新嘉坡等ト大同小異ニシテ眞ニ是レ地
心即チ廣東河口ノ方ヲ眺メバ英佛米蘭等萬國ノ
軍艦商船ニ交レニ支那日本ノ貿易小艇ノ以テ
遭ヒ之レヲ見ルニ皆幡々タル高齡ノ老翁ナリ此
壇ノ波間に漂はレ栽花ノ舟ナリバブル
ツ一ハ徘徊スル際屢々黃色ノ衣ヲ穿チシ者ニ
遭ヒ之レヲ見ルニ皆幡々タル高齡ノ老翁ナリ此
彼ノ支那風ニ刺ラシメント欲シテ一軒ノ辦
舍賣捌所ヘ入り四人ノ子舍ヲ取リタリケル此
ノ着スル者ナリト聽キバスバルツ一ハ唯是ヲ
奇異ナリトシテ打チ笑ヒケリ斯クテ驚愕モ刺リ
華リテ「カルナチック」纏ガ纏
ヘ到リ見レハ彼ノフヒキスガ最前ヨリ頻ニ往
キソ返リソ散歩シ居ルニ行キ遭ヒタルガ素ヨリ
更ニ之レヲ怪シマザリケリ然レモ何トナク失望
ニ色其面ニ彰レケレバパスバルツ一ハレヲ
見ア私ニ先ソ善シ是ハ改進舍ノ各員ノ爲ニハ
キナリト獨言シツ、モ更ニフヒキスノ憂鬱
ニ心附カザルノ如ク微笑シツ、近寄りタリ
此時フヒキスハ已ノ薄運ヲ戴ジテ憂慮スルニ逮
捕指令書ハ未ダ到着セズ勿論時ヲ移サズ後ヨリ
又掌中へ入ルベカラズ然レニ沿道ノ英領トテ
ノ施ベキナシトテ賃別所ヲ出デ何處カ酒
店ヘ伴ウテ一蓋ヲ傾ケンハ如何ントバスバル
ツ一ヲ誘ヘバ時猶早キソ以テフヒキスノ招キニ
テジケリ斯ル折カラ海岸ニ臨シテ一軒ノ見體
洒タル酒店ノアルヲ相伴ウテゾ入ケルニ茲
ハ廣辛醤室ニシテ四邊美シク飾リ付ケ後堂ノ方
ニハ數脚ノ竹床ナリシテ早ニ此床上ニ横タハ
ツテ熟眠スル徒モ少カラザリキ既ニ三十名バ
カリノ客人ガ醤室ノ中處ニ配置シタリシ少キ
縫製ノ卓子ニ倚リ或ハ英産ノ麥酒ホルタルノ
ト決定シ玉ヒシヤト問ヒカクレバヒキスハ切
ハバ闇ルモ理ナリキスル折カラバスバルツ一
ハ「如何ニヒキス君愈々亞米利加迄同伴スル
ト決定シ玉ヒシヤト問ヒカクレバヒキスハ切
齒シタル脣間ヨリ僅ニ然リト答フルノミバス
ハ「如何ニヒキス君愈々亞米利加迄同伴スル
ト決定シ玉ヒシヤト問ヒカクレバヒキスハ切
歎ナリト打笑ヒ「左モアルベシ君が我々

ト離レ得玉ベカラザルハ僕既ニ察シタリイザ
共ニ行キテ子舍ヲ取り玉ハズヤト誘ウテ共ニ切
修既ニ整ヒタレバ發程時間モ明朝ノ處今宵
狩賣捌所ヘ入り四人ノ子舍ヲ取リタリケル此
時該所ノ主客兩人ニ向ヒ「カルナチック」ノ
好機會ナリ主人ハ喰ヤ都合宜ク覺スナラン早ク歸ツテ告ゲ申サント答ヘ
八時ニ例縁スベシト告ゲケレババスバルツ一ハ
ル則テ仔細ヲ残ラズバスバルツ一ニ告ゲ其助ケ
ノ得テフツツグラ香港ヘ引留ムルヨリ外ニ又策
合宜ク覺スナラン早ク歸ツテ告ゲ申サント答ヘ
ケルガフヒキス事ノ迫ルヲ見最後ノ策ヲ用ヒケ
ノ施ベキナシトテ賃別所ヲ出デ何處カ酒
店ヘ伴ウテ一蓋ヲ傾ケンハ如何ントバスバル
ツ一ヲ誘ヘバ時猶早キソ以テフヒキスノ招キニ
テジケリ斯ル折カラ海岸ニ臨シテ一軒ノ見體
洒タル酒店ノアルヲ相伴ウテゾ入ケルニ茲
ハ廣辛醤室ニシテ四邊美シク飾リ付ケ後堂ノ方
ニハ數脚ノ竹床ナリシテ早ニ此床上ニ横タハ
ツテ熟眠スル徒モ少カラザリキ既ニ三十名バ
カリノ客人ガ醤室ノ中處ニ配置シタリシ少キ
縫製ノ卓子ニ倚リ或ハ英産ノ麥酒ホルタルノ
ト決定シ玉ヒシヤト問ヒカクレバヒキスハ切
歎ナリト打笑ヒ「左モアルベシ君が我々

類ヲ傾クリモアレバ或ハ又「ジン」「ブランデ」
ノ如キ火酒ノ類ヲ飲ムモアル其中ニ長キ朱泥ノ
管製ノ卓子ニ倚リ或ハ英産ノ麥酒ホルタルノ
ト決定シ玉ヒシヤト問ヒカクレバヒキスハ切
歎ナリト打笑ヒ「左モアルベシ君が我々

テ 薫ラス 者モ多カリキ 然シテ 烟客特甚シテ卓
上へ轉倒スルニ至レバ 奴來テ 静ニ其頭起フ執
サシムルヲ常トス 此時既ニ昏醉ノ極度ニ達セ
シ晒名凡ソ貳十餘名枕ヲ并ベテ臥シ居レリ
此體ヲ一日シテフヨキス バスバルツ一等ハ彼ノ
商事ニ怜樹ナル英國人ノ奇貨トナリ 每年千零
四十萬磅(五千販)百萬圓ノ巨額ヲ拋テ阿片
ト種ヌル毒藥ヲ購ヒ取ル處ノ慨レムベキ歎色
憔悴シタル蠹忍ノ魔漢等ガ來リテ醉フ沽所
ノ一室ナルヲ知レリ 實ニ此ノ千萬ノ金額ハ人倫
ノ青習フ奇貨トシテ絞リ取ル所ナリト思ヘバ慨
歎ニ餘リアリ

清國政府ハ是ヲ憂ヒ鉛意ニ嚴法ヲ設ケテ其毒弊
ヲ防ント試ミシモ終ニ效ナク阿片烟ヲ喫フノ
テ上下ニ洽ネ又其毒害ヲ退ムルニ由ナシ現
今華ノ臣民男トナク女トナク此慨歎ニ堪ヘ
タル弊ノ沈湎スル酒々タラ支那帝國皆然リ
一タビは吸烟ヲ嗜む者ノ惡習ニ染ル時ハ若シ之ヲ
廢スルニ當テハ胃中拘撃ノ甚シキヲ覺ニユ
テ又自ラ禁ズベカラザルニ至ルト又嗜好
甚シキ者ハ一日能ク八服ノ烟ヲ吸フト然レバ
如此ノ輩ハ必ず五年ヲ出デズシテ死ニ至ルト

云々今ノヒキス及バスパルツーガ枯陽ヲ潤ホ
サント欲シテ入りシモ亦猶香港ニスラ夥多シキ
吸阿片ノ一ナリキ此時バスパルツーハ囊裏片
「ボルト」戰鬪ヲ呼ム是ヲ傾クルニ佛人ハ頗リニ
其美ヲ稱賛スルモノヒキスハ自重敢テおまかせ謀レ
ズ唯頻ニバスパルツーラ熟視シ共ニ四方八方
ノ談話等ヲナシ殊ニヒキスガ「カルナチック」
號がいヘ搭ジテ共ニ行カントスルノ趣ナルヲ贊シ
テバスパルツーハ獨り興ニ入りシガ瓶酒既ニ罄
クルヲ以て行船出發時限ノ數時間縮リシ
フ主人ニ告ゲントテ起ソラフヒキスハ牽キ留メ
「今少焉ク待チ玉ヘバス何用アリテ留メ玉フゾ
贊」一大事件ニ付足下ト少シク談ジタキアリ
バス「ナニ一大事トナト云ヒ、杯ヲ把て残リ
シ數滴ヲ飲ミシテ可シ可シ夫ハ明日緩リト
談ズベシ今日ハ生憎其暇ナシト云ヒ放テバヒ
キスハ又「先留リ玉ヘ夫ハ足下ノ主人君ニ關
スル一事ナリト聞テバスパルツーハ眸ヲ凝シ
テフヒキスヲ見ルニ容色當ニ異リケレバ再び
座ニ就キ「何ヲ力僕ニ語リ玉フノアル哉ト問
ヒカクレバヒキスハ壯漢ノ手ヲ執リ聲ヲ低
テ問テ云ク「足下ハ定メシ小可ガ何者タル哉ヲ

リトセズ彼ノ紳士等ハ今又其行路ニ好高ヲ構ヘ
テ之ヲ阻ントスルハ等ノ卑劣ノ爰ニ至ル
哉 警夫ハ又君ノ言ハ如何ナル意ヲ含ム事ナ
ル哉 バス「僕ノ言ントスル處ハ則チ其舉ハ眞箇
ノ奸謀ニシテ恰モ「ヲツグ氏」ノ懷金ヲ奪テ已
ガ懷入ル、策ノ外ナラズト云「ナリ 警是
レ恰モ我々ガ的トスル所ナリ此時バス、ハルツ
一ハ最前ヨリ頻々倒ク「アランデ」ノ效驗ニヨ
ツテ漸々氣色モ荒ラギシガ聲ヲ勵ゲマシ云ヘル
様は「是レ眞箇ノ毒計ナリ是眞ノ奸謀ナリ彼ノ
同僚紳士ノ鄙劣ナル耶トヒキス聞テ更ニ解セ
ヌ様子ナレバハス、ハルツ一ハ又タ叫テ云ク「同
僚トハ改進舍ノ社員ノ諸士ヲ指ス君知ラズ哉我
ガ主人ハ靡潔ノ士ナリ一タビ財ヲ縊ニ當テハ
固ヨリ公然タル羸フコソ得ントスルナリ 警足
下ハ小可ヲ何者ナリト想ヒ玉フゾト問ハバス
ハルツ一ハフヒキス、睨ミ「ナドテ知ラザルベ
キ足下ハ改進舍ノ紳士ノ旨ヲ奉ジ主主人ノ行旅
ヲ妨ゲンガ爲ニ來リシ間者ナリ是レ僕ガ足下等
ノ爲ニ愧ヅル所既ニ足下ノ謀略ハ疾ヨリ之ヲ
察シケレヒ僕之方寸ノ中ニシテ未ダ主人ニ
告げザリキト聞テヒキスハ遽々「然ラバ氏
ハ未ダ何ニモ知リ玉ハズヤト問ヘバ、バス、ハルツ
一ハ復タ杯ヲ舉テ傾ケツ、未ダ何事モ知ラ

ザルナリト開キシヒキスハ額手ヲ當テ如何
ハセント躊躇セリバスピルツノ誤解ハ眞ニ赤
心ヨリ出ル者ノ如シ然レドスクテ謀略モ却
テ施シ難シ其詰氣ノ純然タルニ就テ考ブルレ
バ最初ヨリ暗ニ危ブミシガ彼ハ其主人ノ連累ニ
ハアラザルヤ明ナリ爰ニテ思フヤウ可シ彼
レ其連累タルニ非ンべ必レニ力ヲ協スベ
シトテ警吏ハ再ビ力ヲ盡ニ時間モ切迫スレ
バ是非共フヲグ香港へ抑留セネバナラスト
思ヘバ警吏ハ急キ立ツ聲色ニテ能ク我ガ言ヲ
聽キ玉ヘ元予ハ足下ノ推察ニ違ウテ改進舍
社員ノ間者ニアラズバス、ハルツ一ハ謹弄セン
トスル者ノ如クヒキスヲ、而ニ看ツ、「其確
證アリヤト云ヘバ、警夫可ハ本國政府ヨリ密旨
ヲ授カリ來リシ警察吏ナリ、バス、エー君ガ警吏
ナリトナ、警然リ其證ニハ是見玉へ、則小可ノ
受ケシ指令書ナリト云ヒツ、腰中ヨリ取り出
シテ見スル一通ハ中央警察長官ノ花押アツテ
違フベカラザル指令書ナレババス、ハルツ一ハ愕
然トシテ言葉モ出ズ只ヒキスノ顎ノ見凝ルニ
テ足下氏ノ目シテ玉フ興ト問ハレ
テ哀れ壯漢ハ我レニアラデ只「然リ然リト答ル
ノミ、警然、足下ハ氏ノ連累ナリトテ捕縛セ
足下氏ノ目シテ玉フ興ト泊ルニ、バス、ハルツ一ハ
頭ヲ低テ、兩掌ノ上へ据工敢テヒキスヲ仰
テ賊ナリトハ憶ハレズ然レドノ身上ニ萃ル
ル者ハ元來架空ノ託言ニテ足下始メ改進舍
社員迄皆罔レ居玉フナリ氏ハ又タ足下ガ我
ゼラレザレバ自ラ心ヲ觸マシテ警吏ニ對シ「足

ベント聞テバス、ハルツ一「夫ハ又故ニト哉
リ掛ルニ答テヒキスハ云「先づ聞キ玉
テ五百磅ヲ監ミ去リシ者アリ幸ヒニメ其容貌ヲ見
呼等ノ妄言ニ我主人ノ如キハ地球上海上兩人ト
ナキ靡潔ノ君子ナリ 警夫ハ又如何シテ知リ玉
バズ一ハ急カニ、足下元來氏ト相識ナキナラズ哉、又足下ハ
此ノ風狂ニ屬スル託言ニ據テ旅具モ携ヘズ
銀行紙幣ニテ萬ノ金額ヲ帶ビ出發セシ其日
ノ以て漸ク氏ニ備ハレ玉ヒシナラズヤ然ルモ猶
テ哀れ壯漢ハ我レニアラデ只「然リ然リト答ル
ノミ、警然、足下ハ氏ノ連累ナリトテ捕縛セ
足下氏ノ目シテ玉フ興ト泊ルニ、バス、ハルツ一ハ
頭ヲ低テ、兩掌ノ上へ据工敢テヒキスヲ仰
テ賊ナリトハ憶ハレズ然レドノ身上ニ萃ル
嫌疑モ幾許ゾト思ヘバ自ラ疑團胸裏ニ胚胎セ
ントスルヲ排斥シ終ニ氏ニ罪アリトハ決シテ信
レサズ其羽翼ナリ玉ハンコトヲ期スル者ナル

下ノ僕ニ就テ需ムル所ハ到底何ナル哉ト問ヘバ
ヒキスハ答テ云ヤウ「見玉フ通り可ハ爰迄
ヲツグニ尾シ來リシニ曩ニ龍動ヘ乞ヒ置キシ
逮捕指令未ダ落掌セズ故ニ足下ト籌策ヲ協セ氏
ヲ香港へ抑留スルニアリバス僕ニ足下ヲ翼ケ
ヨトナ警然ラバ銀行ヨリ約束アル貳千磅壹
萬圓ノ賞金ヲ足下ト配分スル意ナリト聞テバ
スパルツ一ハ頭ヲ掉リ「否ナト云ヒツ、起ント
セシガ氣力モ厭ケテ後ヘニ撞ト倒ツ、連續
モセヌ言葉ニテ「ヒキス君假今足下ノ僕ニ談
リ玉ヒシ事ハ皆眞デアラウモ假合ヲツグ氏ハ
足下ノ言ノ如ク賊デアラウトモ僕ハ信ゼヌ僕ハ
氏ニ備レ來テ現在氏ニ仕アルノミナラズ氏
ノ溫良仁義ノ實行ヲ目撃シタル僕ナレバ如何
ニシテ今日氏ニ對シテ叛逆スルニ忍ビンヤ假
令館シムルニ全世界ノ黃金ヲ以テシ玉フモ僕ハ
斯クノ如キ卑怯ノ栗フ喰デ恥ザル如キ村落ニ
長ゼシ者ニ非ズ警足下ハ然ラバ拒ミニ玉フ歟
バス僕ハ斷然之ヲ拒絶ゼン警然ラバ此一件ハ
何ニモ云ハヌ體ニシテイザ改テ一杯ヲ傾ケン
バ可シ可シ快ク一杯ヲ傾ケント云フバスバ
ルツ一ヲ見ルニ酩酊愈々加リケレバ如何ニトカ
シテ之ヲ其主人ト離サント思ヘバフヒキスハ之
ヲ烟酔十二分ニセンモノト四邊ヲ見ルニ阿片ヲ

點ゼシ烟管兩枚ノアルヲ見テ是レ屈竟ト取
上部竊ニバスパルツノ指間へ插メバ此方ハ
知ラズ何心ナク取上げテ脣間に含ミ吸一吸シ
テ其烟ヲ喫スルニゾ麻薬ノ效驗覲面ニテハヤ昏
醉セシト見エ頭ヲ低レテ性根ナクナルヲ視ツ
ツ漸クニシテ爲濟シタリト獨笑シ是デハ如何ナ
ヲツグ奴モ發船ノ時刻ヲ知ラザルベシ假令萬
一出發スルトテモ此而憎キ佛人ハ置キ去リニ
致スベシ吁懸快々々ト獨語シツ、店酒ノ會計
ヲ終テ立出アタリ